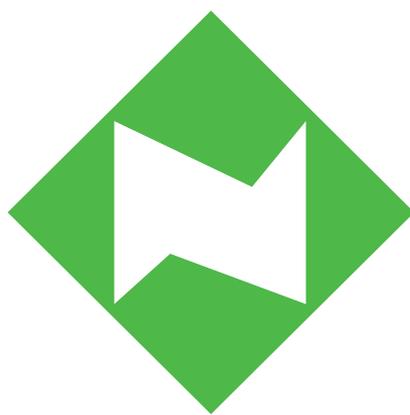


平成24年版

日生病院年報

(平成24年1月～12月)



第11卷

公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院

平成24年日生病院年報の発刊にあたって

院長 笠山 宗正

平成24年の日生病院の年報をお届けいたします。どうぞ高覧の程お願い申し上げます。

私は平成25年4月より寺川直樹前院長の後任として日生病院院長を務めているところですが、平成24年の1年間の当院の動向につきまして述べさせていただきます。

当院の母体である日本生命済生会は「済生利民」を基本理念とし、医療と福祉を通じて社会貢献を果たすべく大正13年に設立されました。日生病院は日本生命済生会の附属病院として昭和6年に大阪市西区に開院し、昭和57年に現在の地へ移転後も一貫して地域の皆様一人ひとりの生活と心を重視した医療や福祉の実践活動を継続しています。病気の予防と治療、在宅医療まで一貫した医療サービスを地域に対して提供してきた活動が評価され、日本生命済生会は平成24年4月1日付で公益財団法人への移行登記を行い、「公益財団法人日本生命済生会」として新たなスタートを切りました。

当院は、その長い歴史の中で、時代の変化と共に大きく発展してきました。平成20年には「乳腺外科」を、平成23年には「救急診療科」を新設し、平成19年からは「低侵襲医療センター」「がん治療センター」「生活習慣病センター」「消化器内視鏡センター」を開設しています。平成24年4月には「生活習慣病センター」を「糖尿病センター」に改組し、増加する糖尿病患者の診療の質の向上に努めています。

高度先進医療に対しても積極的に取り組み、平成24年1月には「腹腔鏡下子宮体がん根治術」（産婦人科）の、平成24年4月には「前眼部三次元画像解析」（眼科）の実施機関として厚生労働省に認定されました。また、平成24年8月には最先端の320列マルチスライスCTを導入し診断精度の向上を図っています。

平成24年4月には、これまでの「地域医療連携室」の機能を強化し、地域住民や医療機関・企業からの要請に対応すべく、「地域医療総合窓口 あったかサポートセンター」を設立しました。また、地域住民からの救急医療の要請に応えるため、救急診療科を中心に救急診療にも積極的に取り組んでいます。さらに、平成24年5月からは休日のリハビリテーションを開始し、高齢化に伴って増加するロコモティブシンドロームへの対策も強化しています。

平成25年に90年目を迎える日本生命済生会の歴史はわたしたちの誇りです。「済生利民」の実践のために、皆様に信頼される病院であるよう職員一同努力してまいります。これからも当院に対しまして一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

平成24年日生病院年報の発刊にあたって

院長 笠山 宗正

第1章 軌 跡

日生病院の概要	1
日生病院理念と基本方針	2
患者様の権利について・学会認定	2
日本生命済生会組織図	3

第2章 病院統計

1. 一日平均外来患者数	4
2. 一日平均入院患者数	5
3. 救急患者数	6
4. 病床稼働率	7
5. 産科関係件数	8
6. 手術件数	8
7. 薬剤関係件数	9
8. リハビリテーション関係件数	10
9. レントゲン・RI・CT関係件数	10
10. 中央臨床検査部検査件数	11
11. 生理検査関係件数	12
A. 脳波関係	12
B. 超音波検査室	12
C. 生理検査室	12
D. 内視鏡関係	12
E. 眼科(屈折、眼圧)検査関係	13
F. 眼科(網膜、神経)検査関係	13
G. 耳鼻科(平衡、聴力)検査関係	13
12. 医療福祉相談グループ関係件数	14
A. 取扱件数	14
B. 新規ケース紹介経路	14
13. 各科別医療収入	16
14. 医療行為別医療収入	18
15. 病院従業員数	20
16. 退院患者統計	21
1) 退院患者医療評価指標	21
2) 診療科別・月別・退院患者数	23
3) 診療科別・月別・死亡剖検数	24
4) 疾病統計	25
5) 手術統計	26
6) 紹介入院患者 疾患トップ20	34

目 次

第3章 診療業務

◆循環器内科・神経内科	38
◆消化器内科	39
◆総合内科	40
◆血液・化学療法内科	41
◆神経科・精神科	42
◆小児科	43
◆消化器・一般外科	44
◆乳腺外科	45
◆整形外科	46
◆皮膚科	47
◆泌尿器科	48
◆産婦人科	49
◆眼 科	50
◆耳鼻咽喉科	51
◆放射線科	52
◆麻酔・緩和医療科	53
◆病理診断科	54
◆救急診療科	55
◆がん治療センター	56
◆低侵襲医療センター	57
◆糖尿病センター	58
◆消化器内視鏡センター	59
◆ニッセイ予防医学センター	60

第4章 部別概要

◆中央臨床検査部	62
◆看護部	63
◆薬剤部	64
◆治験管理室	65
◆リハビリテーション室	66
◆栄養管理室	67
◆あったかさサポートセンター	68
◆業績	70

第5章 諸活動

◆診療科別教育	85
◆全体教育	86
◆地域活動	97
◆ボランティア	98
◆院内行事	99

～日生病院の概要～

財団法人日本生命済生会は大正13年に「済生利民」を基本理念として創設されました。日生病院は、財団法人日本生命済生会の付属病院として、昭和6年6月に開院されました。当院は大阪市西部の地域基幹病院・臨床研修指定病院として、急性期医療の充実と患者様サービスの向上ならびに医療人の育成に努めております。当院は、平成13年に日本医療機能評価機構より病院機能評価の認定を取得、平成23年1月には審査体制区分3（Ver6.0）での訪問審査を受審し、更新認定を受けました。

また、地域の皆様一人ひとりの生活と心を重視した医療や福祉の実践活動を続けてきたこと、ならびに病気の予防と治療、在宅医療まで一貫した医療サービスを地域の皆様に提供してきたことが評価され、日本生命済生会は平成24年4月1日に「公益財団法人」として認定されました。

日生病院は、診療機能の強化と地域医療への貢献を目指して取り組んで参りました。平成19年には、低侵襲医療センター、がん治療センター（平成21年4月「大阪府がん診療拠点病院」に指定されました。）、平成20年7月には生活習慣病センター（平成24年に糖尿病センターに改組）を、それぞれ開設しています。また、平成20年10月には乳腺外科の新設を行い、大阪市乳がん検診（マンモグラフィ）取扱い機関に認定されました。平成24年には、最先端の320列マルチスライスCTの導入により診断精度の向上に努めています。さらに平成25年度から、呼吸器内科疾患の専門的診療を再開する予定です。

また、予防医学の重要性に鑑み、「ニッセイ予防医学センター（人間ドック、定期健康診断）」の強化充実へ取り組んでおります。平成17年に日本人間ドック学会の優良施設「人間ドック・健診施設機能評価」の認定を取得、平成22年には機能評価Ver.2での更新認定を受けました。ご利用者の方も順調に増加しております。

今後とも診療機能の充実を図ってまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（平成24年 沿革）

- 1月1日 厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮体がん根治手術」（産婦人科）が承認される
- 4月1日 公益財団法人へ移行
- 4月1日 地域医療総合窓口 あったかサポートセンター開設
- 4月1日 生活習慣病センターから糖尿病センターへ組織名称変更
- 4月1日 厚生労働省より先進医療「前眼部三次元画像解析」（眼科）が承認される
- 5月3日 休日リハビリテーション開始
- 5月17日 コンビニ・カフェ オープン
- 8月1日 320列マルチスライスCT導入
- 9月10日 放射線画像管理システム（PACS）更新
- 9月18日 化学療法レジメンオーダーシステム稼働

～日生病院理念と基本方針～

(平成 24 年 12 月 現在)

理念

日生病院は（公財）日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 社会に学び、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。

～患者様の権利について～

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者様の権利を大切にいたします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

なお、患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

●●学会認定状況

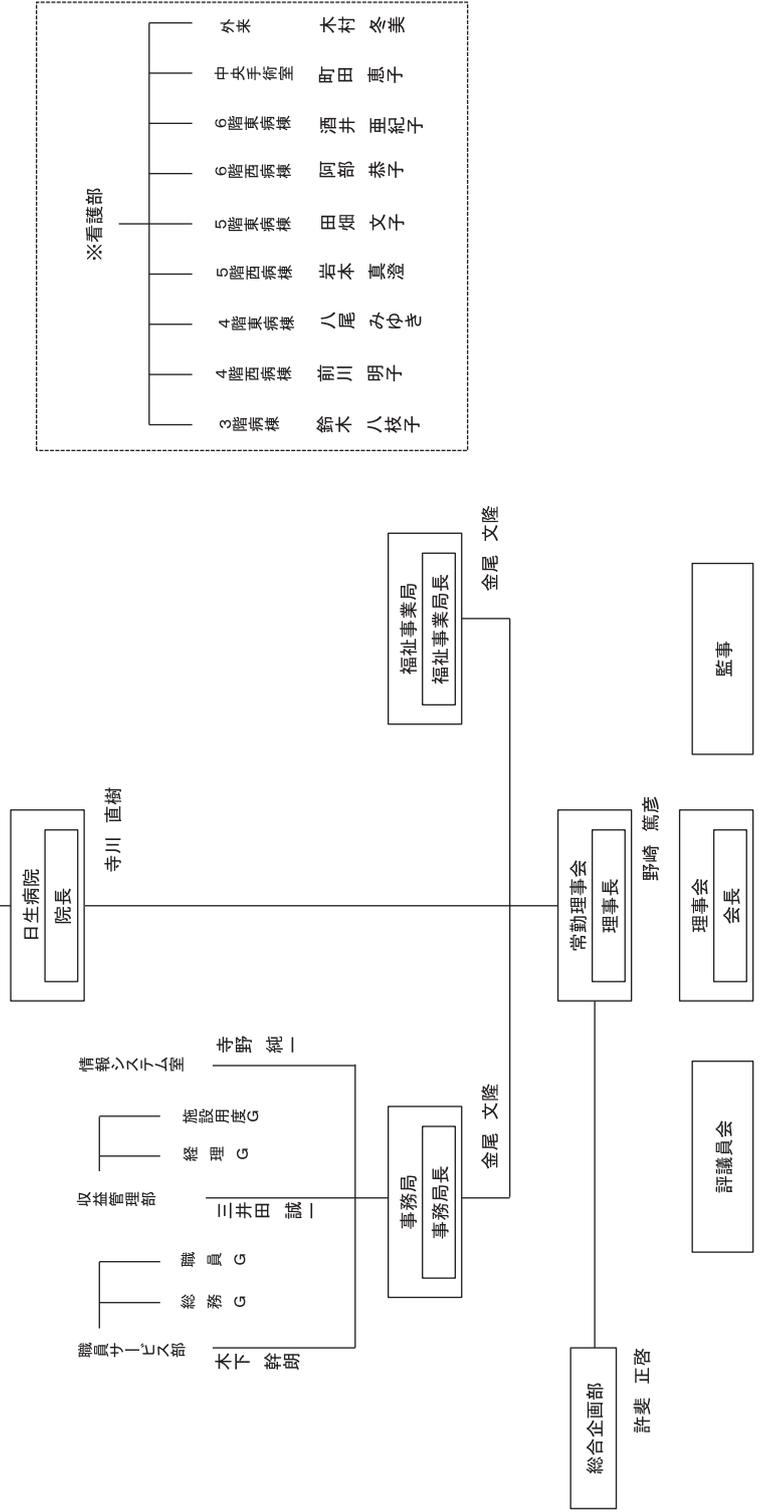
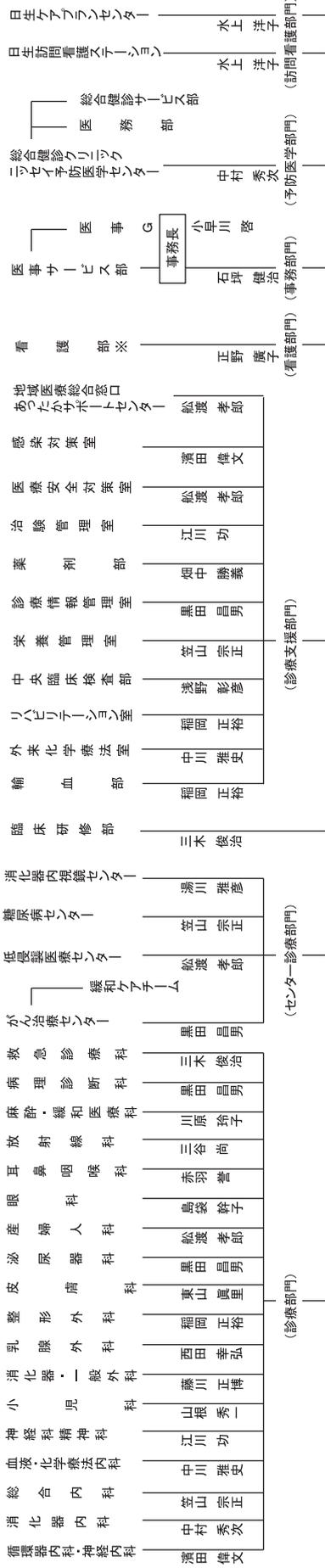
- | | | |
|--------------------|---------------------|---------------|
| ●日本内科学会 | ●日本外科学会 | ●日本医学放射線学会 |
| ●日本整形外科学会 | ●日本泌尿器科学会 | ●日本ペインクリニック学会 |
| ●日本血液学会 | ●日本耳鼻咽喉科学会 | ●日本リウマチ学会 |
| ●日本超音波医学会 | ●日本アレルギー学会 | ●日本臨床細胞学会 |
| ●日本循環器学会 | ●日本産科婦人科学会 | ●日本緩和医療学会 |
| ●日本皮膚科学会 | ●日本麻酔科学会 | ●日本内分泌学会 |
| ●日本眼科学会 | ●日本小児科学会 | ●日本乳癌学会 |
| ●日本病理学会 | ●日本臨床腫瘍学会 | ●日本消化器病学会 |
| ●日本消化器外科学会 | ●日本糖尿病学会 | ●日本神経学会 |
| ●日本 IVR 学会 | ●日本心血管インターベンション治療学会 | ●日本肝臓学会 |
| ●日本高血圧学会 | ●日本静脈経腸栄養学会 | ●日本消化器内視鏡学会 |
| ●日本がん治療認定医機構認定研修施設 | | |

(平成 24 年 12 月 31 日現在)

公益財団法人 日本生命済生会 組織図

(平成24年12月末日現在)

患者様、ご利用者様、ご家族の皆様、地域の皆様、連携医療機関



第2章 病院統計

1 一日平均外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計平均
内科 (計)	300人 (315)	272人 (298)	285人 (294)	285人 (300)	286人 (299)	273人 (260)	288人 (284)	266人 (256)	292人 (282)	277人 (283)	289人 (290)	306人 (290)	285人 (288)
循環器内科 神経内科	96 (109)	84 (104)	90 (103)	89 (106)	86 (107)	83 (83)	88 (90)	81 (81)	88 (87)	84 (93)	86 (93)	92 (90)	87 (96)
消化器内科	57 (65)	59 (59)	61 (56)	58 (55)	60 (55)	56 (49)	61 (58)	56 (52)	60 (59)	56 (55)	59 (57)	60 (57)	59 (56)
総合内科	115 (113)	104 (108)	106 (109)	111 (112)	112 (108)	109 (101)	113 (108)	106 (97)	118 (108)	113 (109)	118 (111)	128 (116)	113 (108)
血液内科	32 (28)	25 (27)	28 (26)	27 (27)	28 (29)	25 (27)	26 (28)	23 (26)	26 (28)	24 (26)	26 (29)	26 (27)	26 (27)
神経科・精神科	63 (67)	57 (66)	62 (66)	65 (67)	64 (70)	61 (61)	63 (66)	62 (62)	65 (70)	60 (67)	68 (67)	70 (63)	63 (66)
小児科	44 (43)	43 (44)	46 (43)	43 (44)	41 (49)	39 (49)	42 (41)	37 (43)	40 (39)	44 (47)	48 (50)	45 (47)	43 (45)
外科 (計)	42 (44)	37 (42)	42 (40)	42 (41)	40 (41)	38 (41)	40 (41)	36 (37)	41 (41)	41 (44)	38 (44)	41 (45)	40 (42)
消化器・一般外科	23 (27)	21 (27)	22 (24)	23 (25)	23 (26)	21 (25)	21 (23)	19 (21)	22 (23)	21 (26)	18 (24)	22 (25)	21 (25)
乳腺外科	19 (17)	16 (15)	20 (16)	19 (16)	17 (15)	17 (16)	19 (18)	17 (16)	19 (18)	20 (18)	20 (20)	19 (20)	19 (17)
整形外科	70 (75)	64 (69)	66 (72)	68 (76)	69 (85)	68 (72)	77 (71)	66 (74)	74 (75)	73 (75)	68 (72)	73 (74)	70 (74)
皮膚科	114 (117)	104 (111)	107 (118)	107 (118)	113 (116)	109 (113)	117 (117)	109 (110)	110 (112)	110 (118)	112 (114)	116 (114)	111 (115)
泌尿器科	54 (53)	50 (55)	53 (53)	53 (50)	50 (55)	48 (45)	49 (53)	45 (47)	53 (55)	50 (52)	50 (50)	55 (54)	51 (52)
産婦人科	69 (71)	65 (74)	64 (69)	67 (70)	71 (77)	65 (67)	75 (72)	63 (65)	76 (66)	73 (76)	70 (75)	75 (70)	69 (71)
眼科	54 (60)	58 (65)	63 (66)	57 (64)	61 (65)	59 (66)	59 (61)	52 (51)	64 (55)	55 (55)	58 (59)	60 (59)	58 (61)
耳鼻咽喉科	64 (65)	61 (66)	69 (64)	64 (64)	65 (64)	58 (60)	63 (63)	56 (56)	58 (58)	58 (61)	62 (59)	64 (62)	62 (62)
放射線科	18 (17)	16 (23)	17 (17)	18 (12)	13 (12)	16 (15)	15 (14)	11 (12)	14 (15)	18 (18)	16 (16)	20 (17)	16 (16)
麻酔・緩和医療	26 (28)	25 (27)	26 (28)	25 (25)	26 (23)	23 (22)	25 (26)	22 (23)	24 (25)	23 (24)	24 (25)	23 (26)	24 (25)
救急診療科	8 -	7 -	8 -	7 (5)	7 (8)	7 (9)	8 (10)	6 (14)	9 (11)	8 (11)	11 (12)	10 (10)	8 (10)
合計	924 (953)	861 (940)	910 (929)	901 (936)	907 (963)	865 (879)	921 (919)	829 (850)	921 (904)	889 (933)	915 (930)	959 (930)	900 (922)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

2. ()内は前年同月

3. 救急診療科 H23.4から

[医事 G]

2 一日平均入院患者数

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		累計平均			
内科	125人	32人	145人	32人	128人	34人	123人	32人	115人	37人	113人	41人	121人	45人	134人	43人	136人	27人	128人	24人	128人	29人	135人	32人	128人	34人		
(計)	(135)		(144)		(142)		(132)		(127)		(125)		(138)		(133)		(121)		(122)		(119)		(124)		(130)			
循環器内科 神経内科	54	5	60	12	49	9	46	9	43	8	45	8	42	8	45	9	48	4	48	3	41	3	49	7	48	7		
	(62)		(69)		(69)		(59)		(55)		(54)		(61)		(53)		(48)		(44)		(45)		(54)		(56)			
消化器内科	17	1	20		22	1	22	4	21	6	22	6	27	5	25	5	25	1	24	1	26	2	28	3	23	3		
	(15)		(16)		(18)		(19)		(16)		(16)		(18)		(21)		(18)		(16)		(15)		(16)		(17)			
総合内科	31	24	37	19	32	22	32	17	31	21	29	27	32	32	40	28	38	21	33	18	36	23	34	20	34	23		
	(33)		(34)		(32)		(30)		(29)		(31)		(28)		(33)		(31)		(33)		(32)		(26)		(31)			
血液内科	23	2	28	1	25	2	23	2	20	2	17		20		24	1	25	1	23	2	25	1	24	2	23	1		
	(25)		(25)		(23)		(24)		(27)		(24)		(31)		(26)		(24)		(29)		(27)		(28)		(26)			
神経科・精神科	9	2	9	2	9	3	17	4	12	2	15	3	13	2	12	2	16		16		10		11	1	12	2		
	(11)		(11)		(16)		(16)		(16)		(21)		(22)		(17)		(14)		(16)		(14)		(10)		(15)			
小児科	6		5		6	1	5		3		5		5		5		5		6		5		4		5	0		
	(5)		(8)		(4)		(6)		(6)		(8)		(6)		(7)		(8)		(5)		(5)		(4)		(6)			
外科	29	6	27	2	22	3	23	9	29	8	32	7	25	2	27	2	27	6	26	3	27	4	25	5	27	5		
(計)	(27)		(23)		(25)		(26)		(21)		(18)		(21)		(23)		(20)		(24)		(19)		(25)		(23)			
消化器・一般外科	24		23		19		19		25		28		22		22		21		21		21		19		22	0		
	(24)		(19)		(23)		(24)		(18)		(17)		(18)		(20)		(17)		(19)		(15)		(21)		(20)			
乳腺外科	5		4		3		4		4		4		3		5		6		5		6		6		5	0		
	(3)		(4)		(2)		(2)		(3)		(1)		(3)		(3)		(3)		(5)		(4)		(4)		(3)			
整形外科	21	5	30	4	26	3	22	3	24	1	25	2	31	3	30		26	3	29	2	31	2	28	1	27	2		
	(27)		(35)		(31)		(24)		(27)		(25)		(28)		(24)		(28)		(24)		(27)		(28)		(27)			
皮膚科	8	2	6	1	8	1	14	2	15	3	9	5	12	4	10	4	10	3	6	4	7	2	8	2	9	3		
	(7)		(10)		(11)		(10)		(8)		(9)		(9)		(10)		(11)		(11)		(11)		(9)		(10)			
泌尿器科	12		12	1	13		13		12		14	1	10	1	10	1	12		10		12	3	15	4	12	1		
	(12)		(16)		(18)		(16)		(12)		(10)		(16)		(14)		(11)		(10)		(10)		(10)		(13)			
産婦人科	28		34	2	33	1	34	1	30	2	28	2	37	1	33		33	2	35	1	34	1	33	1	33	1		
	(33)		(32)		(37)		(37)		(28)		(41)		(39)		(35)		(37)		(35)		(29)		(33)		(35)			
眼科	5		6		8		5		6		8		6		3		5		5		6		6		6	0		
	(6)		(9)		(7)		(7)		(6)		(8)		(5)		(4)		(4)		(7)		(8)		(7)		(7)			
耳鼻咽喉科	10		15		16	1	15	1	14		15	1	17		18		13		12		13	1	12		14	0		
	(14)		(13)		(15)		(12)		(8)		(13)		(15)		(17)		(14)		(10)		(8)		(8)		(12)			
放射線科	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0		
	(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)			
麻酔・緩和医療	0		0		0		0		0		0		1		2		0		0		1		0		0	0		
	(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)		(1)		(0)			
救急診療科	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		1		0		0	0		
	-		-		-		(1)		(0)		(1)		(0)		(2)		(0)		(1)		(1)		(0)		(1)			
合計	252	47	289	44	269	47	271	52	260	53	265	62	278	58	284	52	282	41	274	34	275	42	276	46	274	48		
	(276)		(302)		(307)		(287)		(258)		(280)		(299)		(286)		(267)		(265)		(250)		(260)		(278)			

- (注) 1. 明朝体数字は、共観数
 2. ()内は前年同月
 3. 救急診療科 H23.4から

[医事G]

3 救急患者数

各欄下段の()の数値は救急患者数の内救急車で搬入された患者数

	人 数												内、入院数												累 計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	<入院>
内科(計)	329 (63)	325 (50)	294 (46)	282 (46)	332 (46)	295 (40)	388 (47)	337 (72)	226 (57)	267 (56)	270 (55)	308 (94)	101 (39)	83 (30)	85 (30)	80 (25)	116 (21)	89 (20)	101 (29)	137 (44)	100 (33)	109 (25)	121 (32)	113 (46)	3653 (672)	<1,235> (374)
循環器内科	101 (24)	106 (20)	92 (23)	86 (20)	111 (22)	134 (17)	110 (20)	132 (17)	85 (21)	113 (21)	94 (21)	103 (37)	42 (16)	36 (14)	34 (16)	41 (15)	45 (11)	40 (11)	38 (16)	44 (11)	41 (12)	43 (11)	49 (11)	47 (21)	1267 (263)	<500> (165)
消化器内科	28 (4)	35 (5)	31 (5)	33 (8)	40 (7)	33 (6)	46 (13)	46 (12)	36 (10)	36 (11)	39 (8)	48 (9)	7 (3)	15 (3)	10 (2)	9 (3)	18 (3)	10 (2)	19 (6)	26 (9)	18 (4)	13 (3)	20 (6)	22 (5)	451 (98)	<187> (49)
総合内科	155 (26)	148 (23)	138 (15)	134 (17)	144 (14)	100 (16)	104 (14)	122 (38)	85 (24)	84 (19)	107 (19)	108 (41)	39 (15)	32 (13)	32 (9)	24 (7)	41 (5)	32 (7)	43 (7)	55 (23)	36 (15)	43 (7)	40 (11)	29 (15)	1429 (266)	<446> (134)
血液・ 化学療法 内科	45 (9)	36 (2)	33 (3)	29 (1)	37 (3)	28 (1)	128 (0)	37 (5)	20 (2)	34 (5)	30 (7)	49 (7)	13 (5)	0 (0)	9 (3)	6 (0)	12 (2)	7 (0)	1 (0)	12 (1)	5 (2)	10 (4)	12 (4)	15 (5)	506 (45)	<102> (26)
神経科・精神科	4 (0)	1 (1)	8 (2)	6 (2)	2 (1)	3 (0)	3 (0)	17 (2)	4 (0)	4 (0)	13 (2)	6 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (2)	2 (1)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	71 (10)	<20> (3)
小児科	29 (1)	22 (4)	34 (2)	26 (0)	24 (0)	20 (0)	31 (1)	28 (1)	24 (1)	25 (0)	24 (2)	24 (1)	17 (1)	13 (3)	26 (1)	19 (0)	14 (0)	13 (0)	17 (1)	18 (1)	15 (0)	18 (0)	15 (1)	13 (0)	311 (13)	<198> (8)
外科(計)	23 (1)	22 (2)	24 (1)	25 (3)	35 (0)	26 (3)	27 (2)	25 (6)	27 (5)	24 (5)	34 (7)	31 (2)	10 (1)	11 (1)	7 (1)	11 (3)	18 (0)	14 (1)	12 (2)	19 (5)	11 (3)	12 (5)	19 (4)	18 (2)	323 (37)	<162> (28)
消化器・一般外科	21 (1)	22 (2)	23 (1)	21 (2)	32 (0)	26 (3)	24 (2)	21 (6)	25 (5)	22 (5)	29 (7)	28 (2)	9 (1)	11 (1)	7 (1)	10 (2)	18 (0)	14 (1)	12 (2)	16 (5)	11 (3)	11 (5)	16 (4)	17 (2)	294 (36)	<152> (27)
乳腺外科	2 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (1)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	5 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	29 (1)	<10> (1)
整形外科	22 (7)	17 (9)	20 (7)	24 (7)	17 (4)	19 (7)	25 (6)	29 (4)	21 (9)	18 (2)	27 (5)	18 (6)	16 (7)	5 (4)	7 (2)	6 (2)	8 (3)	9 (5)	10 (5)	11 (3)	6 (2)	6 (1)	13 (2)	6 (2)	257 (73)	<103> (38)
皮膚科	109 (2)	92 (0)	62 (1)	68 (0)	104 (0)	64 (0)	98 (1)	102 (1)	82 (0)	50 (2)	85 (0)	76 (0)	10 (2)	3 (0)	14 (0)	9 (0)	8 (0)	4 (0)	12 (1)	8 (1)	11 (0)	10 (2)	5 (0)	8 (0)	992 (7)	<102> (6)
泌尿器科	8 (2)	10 (2)	9 (2)	13 (3)	11 (0)	18 (2)	11 (0)	11 (0)	8 (3)	7 (2)	17 (4)	14 (3)	3 (2)	7 (2)	3 (1)	9 (2)	5 (0)	9 (0)	5 (0)	7 (0)	5 (2)	1 (0)	12 (3)	5 (1)	137 (23)	<71> (13)
産婦人科	135 (2)	133 (1)	131 (0)	145 (3)	189 (6)	158 (2)	217 (7)	187 (6)	171 (3)	164 (1)	168 (2)	202 (1)	16 (1)	14 (0)	24 (0)	15 (2)	31 (6)	21 (1)	54 (5)	43 (3)	35 (1)	37 (0)	45 (0)	42 (0)	2000 (34)	<377> (19)
眼 科	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	17 (2)	<11> (1)
耳鼻咽喉科	23 (0)	16 (3)	24 (3)	14 (2)	17 (1)	21 (2)	30 (5)	36 (7)	17 (2)	25 (2)	14 (3)	27 (2)	14 (0)	11 (1)	11 (2)	11 (2)	10 (1)	5 (1)	12 (2)	19 (4)	8 (2)	10 (1)	8 (2)	8 (0)	264 (32)	<127> (18)
放射線科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)	0 (0)	18 (0)	<0> (0)											
麻酔科	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	16 (1)	<13> (1)
救急診療科	77 (2)	90 (5)	71 (2)	8 (1)	13 (1)	58 (1)	45 (5)	16 (4)	20 (6)	112 (2)	178 (1)	10 (1)	2 (2)	7 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (2)	0 (0)	3 (1)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	698 (31)	<29> (7)
合 計	760 (80)	729 (77)	679 (66)	615 (67)	751 (59)	683 (57)	884 (74)	794 (104)	603 (86)	698 (73)	830 (81)	731 (111)	192 (55)	155 (43)	180 (37)	168 (38)	214 (32)	167 (28)	239 (47)	269 (61)	198 (44)	208 (35)	241 (44)	217 (52)	8757 (935)	<2,448> (516)

[医事G、総務G]

4 病床稼働率

	定床	定床	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計平均	前年度累計平均
3階	60床	1日平均患者数	42人	48人	41人	42人	45人	47人	44人	44人	45人	44人	44人	44人	44人	45人
		稼働率	70.0%	80.0%	68.3%	70.0%	75.0%	78.3%	73.3%	73.3%	75.0%	73.3%	73.3%	73.3%	73.6%	75.0%
4階(西)	60	1日平均患者数	40	48	45	45	46	45	49	47	48	46	48	45	46	47
		稼働率	66.7	80.0	75.0	75.0	76.7	75.0	81.7	78.3	80.0	76.7	80.0	75.0	76.7	79.0
4階(東)	51	1日平均患者数	39	45	40	43	38	39	42	44	44	38	42	44	42	41
		稼働率	76.5	88.2	78.4	84.3	74.5	76.5	82.4	86.3	86.3	74.5	82.4	86.3	81.4	80.7
5階(西)	44	1日平均患者数	35	38	38	38	37	35	38	41	42	40	40	40	39	40
		稼働率	79.5	86.4	86.4	86.4	84.1	79.5	86.4	93.2	95.5	90.9	90.9	90.9	87.5	89.8
5階(東)	49	1日平均患者数	38	43	41	40	36	39	40	42	41	42	38	41	40	41
		稼働率	77.6	87.8	83.7	81.6	73.5	79.6	81.6	85.7	83.7	85.7	77.6	83.7	81.8	84.4
6階(西)	42	1日平均患者数	35	40	36	38	36	36	38	39	38	37	37	37	37	38
		稼働率	83.3	95.2	85.7	90.5	85.7	85.7	90.5	92.9	90.5	88.1	88.1	88.1	88.7	89.5
6階(東)	27	1日平均患者数	18	21	22	21	19	19	24	21	21	22	21	22	21	20
		稼働率	66.7	77.8	81.5	77.8	66.7	70.4	88.9	77.8	77.8	81.5	77.8	81.5	77.5	75.0
小計	333	1日平均患者数	246	283	263	267	257	260	273	279	278	269	270	272	268	272
		稼働率	73.9	85.0	79.0	80.2	77.2	78.1	82.0	83.8	83.5	80.8	81.1	81.7	80.6	81.8
小児	10	1日平均患者数	3	4	5	4	2	4	4	4	3	4	4	4	4	4
		稼働率	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	37.5
未熟児	7	1日平均患者数	2	2	1	1	1	2	1	1	2	2	1	0	1	2
		稼働率	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	19.0	23.8
計	350	1日平均患者数	252	289	269	271	260	265	278	284	282	274	275	276	274	278
		稼働率	72.0	82.6	76.9	77.4	74.3	75.7	79.4	81.1	80.6	78.3	78.6	78.9	78.1	79.5

[医事G]

5 産科関係件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
分娩 (帝王切開含む)	31	32	34	35	29	31	43	35	39	49	44	43	445	447
帝王切開	4	2	4	6	5	1	6	10	9	11	7	7	72	76
両親学級(組)	23	20	23	22	20	34	26	28	31	31	28	36	322	349
マタニティビクス	21	15	22	40	56	53	61	40	40	50	44	42	484	549
アフタービクス	30	31	26	20	19	20	13	15	33	45	35	41	328	413
ベビービクス	52	46	55	39	32	34	19	25	38	45	38	50	473	959
マタニティヨガ	35	26	30	41	56	56	68	39	58	65	52	65	591	472

[産婦人科]

6 手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
消化器・ 一般外科	29 (21)	16 (13)	14 (13)	16 (16)	21 (19)	24 (18)	21 (20)	22 (21)	15 (12)	23 (16)	24 (21)	17 (14)	242 (204)	292 (233)
乳腺外科	6 (5)	8 (4)	4 (4)	6 (4)	6 (4)	5 (4)	4 (4)	6 (4)	5 (3)	7 (4)	3 (3)	4 (4)	64 (47)	75 (49)
整形外科	14 (6)	23 (12)	20 (11)	11 (7)	17 (8)	14 (8)	21 (11)	22 (11)	19 (10)	22 (16)	21 (12)	19 (13)	223 (125)	207 (118)
婦人科	72 (54)	73 (55)	75 (53)	73 (47)	74 (51)	62 (49)	66 (51)	82 (56)	63 (45)	75 (51)	83 (57)	57 (40)	855 (609)	879 (621)
泌尿器科	21 (6)	26 (9)	23 (6)	28 (5)	30 (12)	28 (7)	20 (6)	15 (4)	32 (12)	28 (11)	28 (7)	20 (6)	299 (91)	343 (100)
耳鼻科	18 (13)	24 (13)	20 (15)	25 (18)	24 (19)	20 (14)	27 (19)	26 (19)	15 (10)	25 (14)	25 (16)	23 (17)	272 (187)	267 (181)
眼科	49 (0)	57 (0)	68 (0)	49 (1)	57 (2)	69 (0)	58 (0)	39 (1)	51 (0)	53 (0)	70 (0)	52 (0)	672 (4)	771 (1)
皮膚科	10 (1)	18 (0)	17 (0)	14 (1)	16 (0)	15 (0)	10 (1)	17 (1)	9 (0)	14 (0)	15 (0)	8 (0)	163 (4)	188 (7)
麻酔・ 緩和医療科	4 (0)	2 (0)	2 (0)	8 (0)	8 (0)	3 (0)	4 (0)	8 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	43 (0)	42 (0)
合計	223 (106)	247 (106)	243 (102)	230 (99)	253 (115)	240 (100)	231 (112)	237 (117)	209 (92)	248 (112)	272 (116)	200 (94)	2833 (1271)	3064 (1310)

[中央手術材料部、麻酔科・緩和医療科]

- 1.中央手術室以外での手術、麻酔は含まれない。
- 2.()内は全身麻酔。

7 薬剤関係件数

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計		
処方箋	外来	枚数	枚数	1,761	1,649	1,806	1,661	1,951	1,661	2,065	1,935	1,706	1,815	1,813	1,631	21,454	21,781
			件数	1,891	1,824	1,975	1,784	2,075	1,777	2,185	2,023	1,811	1,947	1,954	1,779	23,025	23,403
		1日 当り	枚数	93	87	82	69	108	76	98	88	85	91	91	82	87	89
			件数	100	96	90	74	115	81	104	92	91	97	98	89	94	95
	入院	総数	枚数	4,641	4,659	4,787	4,402	4,367	4,386	4,505	4,704	4,136	4,597	5,114	4,638	54,936	56,051
			件数	8,279	8,228	8,506	8,074	8,011	7,848	8,015	8,684	7,558	8,503	9,048	8,436	99,190	100,127
		1日 当り	枚数	150	166	154	147	141	146	145	152	138	153	170	150	151	154
			件数	267	294	274	269	258	262	259	280	252	283	302	272	273	275
注射	入院	総数	枚数	6,598	6,696	6,240	6,236	6,533	5,942	6,651	6,388	6,441	6,374	6,390	6,267	76,756	74,443
		1日 当り	枚数	213	239	201	208	211	198	215	206	215	212	213	202	211	204

摘要	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	470	509	502	584	646	643	614	692	541	605	621	574	7,001	7,693
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)	174	110	207	192	201	176	205	154	152	181	179	154	2,085	2,328
(入院化学療法)	92	128	100	93	68	69	69	58	73	77	82	79	988	1,122
TPN調製件数	79	64	47	35	53	42	34	21	84	60	12	34	565	1,364

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計	
麻薬処方箋	外来	内用	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3	1	7	17	
		外用	4	3	5	4	3	4	4	8	4	5	4	3	51	47
		注射	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	入院	内用	100	112	135	91	108	98	91	100	101	98	95	109	1,238	929
		外用	66	58	23	60	38	47	45	36	16	17	26	21	453	585
		注射	182	177	163	166	192	168	164	196	126	159	159	133	1,985	2,076

製剤室

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
製剤	件数	410	389	447	463	490	486	484	463	487	493	490	504	5,606	5,495
無菌製剤	件数	190	218	246	200	174	191	210	217	229	230	214	201	2,520	2,522

[薬剤部]

8 リハビリテーション関係件数

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
運動器リハ	外来	135	164	162	112	124	148	181	152	149	157	137	134	1755	1617
	入院	1254	1685	1490	1477	1452	1400	1512	1763	1479	1680	1568	1355	18115	17259
呼吸器リハ	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	5	15	14	0	0	3	36	70	65	69	277	927
脳血管リハ	外来	2	1	2	0	2	2	1	2	2	2	2	1	19	76
	入院	73	44	58	63	77	126	124	116	83	137	54	90	1045	1335
退院指導	入院	55	49	52	56	46	40	41	59	46	43	51	51	589	593
その他	外来	20	22	23	9	6	1	4	1	4	2	1	5	98	21
	入院	18	26	27	30	24	13	29	26	20	19	29	48	309	226
小計	外来	157	187	187	121	132	151	186	155	155	161	140	140	1872	1715
	入院	1400	1804	1632	1641	1613	1579	1706	1967	1664	1949	1767	1613	20335	20340
総合計		1557	1991	1819	1762	1745	1730	1892	2122	1819	2110	1907	1753	22207	22055

[リハビリテーション室]

9 レントゲン・RI・CT関係件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
単 純	2,430	2,428	2,453	2,318	2,559	2,317	2,453	2,433	2,301	2,543	2,463	2,230	28,928	30,694
造影剤使用	119	142	139	131	111	136	120	116	113	100	103	95	1,425	1,539
C T	732	784	840	781	832	760	877	911	873	862	853	796	9,901	9,048
核医学 IN vivo	62	55	64	55	61	59	63	41	49	47	50	44	650	718
M R I	343	380	408	380	391	423	407	428	394	443	425	396	4,818	4,459
治 療	255	208	263	257	166	220	218	160	162	262	230	293	2,694	2,688
合 計	3,941	3,997	4,167	3,922	4,120	3,915	4,138	4,089	3,892	4,257	4,124	3,854	48,416	49,146

[放射線科]

10 中央臨床検査部検査件数

検査室名	検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
外来検査室	尿	15,254件	16,102件	16,518件	16,215件	17,619件	17,261件	18,112件	18,222件	16,459件	18,069件	17,473件	16,430件	203,734件
	糞便	603	679	919	1,168	1,444	1,642	1,616	1,622	1,339	1,602	1,523	1,353	15,510
	計	15,857 (15,505)	16,781 (15,259)	17,437 (16,765)	17,383 (15,225)	19,063 (16,405)	18,903 (17,302)	19,728 (17,089)	19,844 (18,056)	17,798 (16,503)	19,671 (16,937)	18,996 (16,961)	17,783 (16,162)	219,244 (198,169)
化学検査室	化学・血清	139,625	141,707	142,253	145,860	155,913	146,524	157,444	158,471	142,983	162,823	150,308	146,271	1,790,182
	輸血	171	164	171	150	281	190	209	157	211	238	334	286	2,562
	尿化学	933	1,103	1,001	882	918	955	935	1,152	746	874	851	857	11,207
	リコール髄液	131	147	177	162	130	142	176	153	160	184	172	141	1,875
	止血他	2,131	2,326	2,293	2,283	2,488	2,325	2,553	2,897	2,621	2,790	2,727	2,518	29,952
	計	142,991 (133,845)	145,447 (129,956)	145,895 (148,333)	149,337 (141,415)	159,730 (141,511)	150,136 (152,510)	161,317 (146,846)	162,830 (152,795)	146,721 (140,757)	166,909 (150,744)	154,392 (141,572)	150,073 (141,027)	1,835,778 (1,721,311)
細菌検査室	一般細菌	5,651	6,549	5,860	5,488	6,882	5,894	6,896	6,471	5,684	5,906	6,239	5,103	72,623
	抗酸菌	177	227	135	177	235	200	192	148	132	219	157	115	2,114
	計	5,828 (5,481)	6,776 (5,682)	5,995 (5,575)	5,665 (5,183)	7,117 (6,109)	6,094 (7,221)	7,088 (5,699)	6,619 (6,620)	5,816 (6,364)	6,125 (6,618)	6,396 (6,112)	5,218 (6,284)	74,737 (72,948)
病理検査室	病理組織染色	813	787	756	843	885	804	790	972	761	907	958	803	10,079
	細胞診	653	742	746	840	859	856	939	881	785	850	827	730	9,708
	計	1,466 (1,355)	1,529 (1,274)	1,502 (1,517)	1,683 (1,687)	1,744 (1,334)	1,660 (1,748)	1,729 (1,617)	1,853 (1,697)	1,546 (1,488)	1,757 (1,570)	1,785 (1,573)	1,533 (1,526)	19,787 (18,386)
血液検査室	血色素量他	40,993	41,472	41,720	42,753	45,324	42,529	46,087	46,546	42,531	48,779	45,076	43,304	527,114
	特殊検査	26	33	37	35	37	34	40	41	35	32	38	29	417
	計	41,019 (39,027)	41,505 (37,754)	41,757 (43,196)	42,788 (40,417)	45,361 (40,492)	42,563 (43,701)	46,127 (42,066)	46,587 (44,207)	42,566 (40,656)	48,811 (45,271)	45,114 (41,732)	43,333 (40,918)	527,531 (499,437)
合計		207,161 (195,213)	212,038 (189,925)	212,586 (215,386)	216,856 (203,927)	233,015 (205,851)	219,356 (222,482)	235,989 (213,317)	237,733 (223,375)	214,447 (205,768)	243,273 (221,140)	226,683 (207,950)	217,940 (205,917)	2,677,077 (2,510,251)
剖検		2(0)	0(2)	1(1)	1(1)	4(0)	2(1)	0(1)	2(1)	0(2)	0(1)	0(1)	0(0)	12(11)

()内前年同月

[中央臨床検査部]

11 生理検査関係件数

A.脳波関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
脳波	19件	14件	31件	23件	23件	22件	25件	29件	21件	19件	22件	24件	272件	257件
筋電図他	7	6	3	11	5	3	11	13	8	16	15	12	110	130
計	26	20	34	34	28	25	36	42	29	35	37	36	382	387件

[神経科・精神科・脳波室]

B.超音波検査室

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
甲状腺	21件	41件	28件	29件	40件	30件	28件	28件	19件	28件	19件	30件	341件	384件
乳腺	2	3	5	7	1	5	3	3	4	3	1	3	40	124
腹部	299	353	357	300	307	281	333	332	271	272	316	295	3,716	4,158
その他	6	6	10	4	3	4	7	5	5	8	3	8	69	109
計	328	403	400	340	351	320	371	368	299	311	339	336	4,166	4,775

[超音波検査室]

C.生理検査室

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
心電図	950件	907件	956件	929件	935件	883件	749件	900件	846件	879件	912件	845件	10,691件	10,177件
トレッドミル	25	26	32	29	27	30	28	25	17	24	29	21	313	407
負荷心筋シチ	8	14	13	9	6	6	2	2	7	1	4	3	75	119
持続心電図	16	23	23	18	22	25	26	22	14	31	24	25	269	227
心エコー	121	219	209	192	194	202	198	227	181	226	186	186	2,341	2,135
末梢血管エコー	104	119	94	105	99	92	103	130	94	111	127	104	1,282	1,317
肺機能	142	130	145	212	165	153	169	155	133	159	145	122	1,830	2,121
ABI	87	82	83	79	83	90	85	103	77	89	111	82	1,051	1,068
その他循環器系検査	11	4	7	12	14	14	17	13	7	16	18	17	150	209
計	1,464	1,524	1,562	1,585	1,545	1,495	1,377	1,577	1,376	1,536	1,556	1,405	18,002	17,767

[循環器生理検査室]

D.内視鏡関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
胃・十二指腸・食道ファイバースコープ	173件	186件	203件	208件	191件	195件	211件	194件	179件	182件	201件	189件	2,312件	2,038件
胃ポリペクチミ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3	4
大腸ファイバースコープ (大腸ポリペクチミ)	66 (11)	83 (13)	89 (20)	99 (16)	83 (20)	90 (23)	89 (11)	91 (19)	83 (15)	89 (25)	86 (16)	87 (13)	1035 (202)	884 (190)
ERCP、その他	6	6	6	6	8	5	6	5	6	5	5	4	68	55
食道静脈瘤結紮	0	0	0	0	1	3	1	2	0	2	0	0	9	11
計	245	275	298	313	284	293	307	292	268	279	292	281	3,427	2,992

[内視鏡室]

E.眼科(屈折、眼圧)検査関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
屈折検査	355件	361件	422件	410件	423件	456件	425件	387件	368件	418件	385件	311件	4,721件	5,582件
矯正検査	911	20	1,154	1,000	1,113	1,099	1,055	1,002	1,051	1,065	1,064	985	11,519	13,157
調節検査	0	1	0	1	3	1	1	0	0	0	1	0	8	12
調節負荷検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
角膜曲率半径計測	122	123	141	116	157	137	128	156	125	148	138	111	1,602	2,126
超音波眼軸長測定(A-モード)	34	29	34	23	38	38	25	27	36	37	36	19	376	400
精密眼圧測定	958	1,098	1,226	1,038	1,143	1,165	1,098	1,016	1,094	1,097	1,101	1,012	13,046	13,886
精密眼圧負荷測定	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7
計	2,381	1,633	2,979	2,588	2,877	2,896	2,732	2,588	2,674	2,766	2,725	2,438	31,277	35,173

[眼科]

F.眼科(網膜、神経)検査関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
眼底カメラ撮影	64件	74件	82件	67件	85件	83件	72件	83件	68件	75件	71件	56件	880件	803件
蛍光眼底カメラ撮影	6	7	5	3	4	5	9	2	1	4	5	2	53	63
前眼部・細隙燈カメラ	40	34	36	25	36	38	25	26	21	27	31	15	354	401
角膜内細胞撮影	61	68	67	60	64	73	62	44	65	66	57	47	734	779
網膜電位図(ERG)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
精密視野検査(両側)	26	29	30	19	29	29	25	21	24	34	29	23	318	383
動的量的視野検査	18	19	19	19	18	25	17	16	20	20	18	10	219	244
静的量的視野検査	45	60	42	45	54	62	46	54	51	43	54	48	604	671
複像検査	0	4	2	5	2	5	6	4	2	4	5	1	40	74
網膜光凝固術(その他)	0	6	0	5	3	2	3	2	1	5	4	4	35	33
計	260	301	283	248	295	322	265	252	253	278	274	206	3,237	3,452

[眼科]

G.耳鼻科(平衡、聴力)検査関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
平衡機能検査	81件	58件	23件	56件	73件	78件	92件	13件	53件	91件	53件	36件	707件	967件
聴力機能検査	217	197	212	182	203	168	202	188	145	237	220	180	2,351	2,085
その他	3	0	2	0	3	0	5	1	2	2	2	1	21	25
計	301	255	237	238	279	246	299	202	200	330	275	217	3,079	3,077

[耳鼻咽喉科]

12 医療福祉相談グループ関係件数

A 取扱件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
循環器内科・神経内科	98	140	134	135	169	137	140	198	105	87	67	89	1499	1603
消化器内科	32	20	13	19	20	24	14	18	13	45	43	40	301	286
血液内科	15	28	21	34	14	46	36	46	29	37	57	57	420	372
総合内科	87	93	71	126	109	98	81	106	80	120	113	136	1220	1205
神経科・精神科	42	42	35	45	25	19	54	55	47	74	58	45	541	340
小児科	0	1	1	1	17	6	17	20	10	23	27	25	148	26
外科	20	38	31	13	37	69	47	77	44	64	58	52	550	294
乳腺外科	3	2	0	0	1	2	3	5	2	10	11	8	47	31
整形外科	52	103	89	51	64	64	65	72	79	100	115	105	959	974
皮膚科	7	8	3	13	29	16	14	24	12	9	11	15	161	123
泌尿器科	34	33	23	30	11	21	21	36	24	15	12	19	279	277
産婦人科	5	4	5	12	27	16	15	37	40	27	45	53	286	52
眼科	3	4	5	3	3	2	1	1	0	1	5	7	35	32
耳鼻咽喉科	6	26	22	17	16	27	15	19	16	15	9	9	197	258
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0
麻酔科	0	0	0	2	1	0	7	4	2	1	1	0	18	2
その他	5	5	2	15	12	7	23	16	26	24	31	27	193	83
合計	409	547	455	516	555	554	553	734	531	652	663	687	6856	5958

B 新規ケース紹介経路

	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	7	5	0	4	3	0	3	3	0	30	6	0	16	3	2	7	4	0
家族	2	7	1	2	6	0	2	8	1	18	5	0	5	8	1	11	7	3
医師	1	14	0	3	7	0	0	11	0	6	10	0	3	9	1	2	9	0
看護師	7	25	0	16	28	0	5	26	0	8	17	0	5	28	0	8	22	0
その他院内職員	0	3	0	0	2	0	1	2	0	0	2	1	0	1	0	3	4	1
保健福祉関係機関	3	10	0	8	18	1	1	9	0	1	6	1	2	7	1	6	15	0
医療機関	0	2	0	3	1	1	2	0	0	0	1	0	4	2	0	2	0	0
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
介護保険施設・事業所	4	4	1	1	8	0	8	5	0	9	6	0	6	6	0	5	3	0
その他	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0
小計	25	72	2	37	73	2	22	64	1	72	54	2	42	65	5	46	64	4
総合計	99			112			87			128			112			114		

	7月			8月			9月			10月			11月			12月			累計			前年累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他															
本人	18	6	0	17	5	0	18	9	2	16	4	0	17	7	1	19	7	0	172	62	5	86	55	9
家族	19	10	0	17	7	0	18	8	2	8	14	0	19	4	0	16	8	1	137	92	9	56	51	5
医師	3	9	0	1	11	0	3	9	0	11	8	0	4	9	0	5	12	0	42	118	1	32	118	1
看護師	6	25	0	8	46	0	6	31	0	12	21	0	10	32	0	7	34	0	98	335	0	90	276	0
その他院内職員	3	2	0	4	2	0	3	5	0	8	6	0	6	2	0	2	2	1	30	33	3	16	33	1
保健福祉関係機関	1	10	0	4	12	0	4	9	0	10	13	1	6	14	2	5	6	1	51	129	7	46	117	9
医療機関	3	1	1	6	2	0	2	0	1	3	2	2	4	0	0	4	1	0	33	12	5	20	21	6
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	1
介護保険施設・事業所	2	9	0	11	9	0	9	10	0	7	4	0	8	4	1	4	6	0	74	74	2	56	35	5
その他	1	3	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	9	1	7	12	2
小計	56	75	1	68	95	0	63	82	5	75	72	4	74	72	4	62	76	3	642	864	33	410	721	39
総合計	132			163			150			151			150			141			1539			1170		

[医療福祉相談グループ]

13 各科別医療収入

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月		
	外来	入院	計																					
内科(計)	73,614	177,731	251,345	73,116	201,586	274,702	78,537	180,345	258,882	77,232	164,247	241,479	84,912	154,204	239,116	75,995	155,063	231,058	82,799	167,570	250,369	78,592	186,071	264,663
循環器内科 神経内科	18,150	75,790	93,940	18,050	83,204	101,254	19,020	70,820	89,840	18,102	64,460	82,562	17,739	55,197	72,936	16,739	66,641	83,380	17,823	61,610	79,433	18,648	67,814	86,462
消化器内科	9,938	22,006	31,944	10,689	27,684	38,373	11,646	28,638	40,284	11,658	28,389	40,047	12,669	26,928	39,597	11,375	27,685	39,060	12,240	34,332	46,572	13,048	32,498	45,546
総合内科	26,685	35,537	62,222	26,913	39,919	66,832	27,803	35,806	63,609	27,777	34,418	62,195	30,136	36,261	66,397	28,678	31,592	60,270	29,790	38,256	68,046	30,968	44,026	74,994
血液内科	18,841	44,398	63,239	17,464	50,779	68,243	20,068	45,081	65,149	19,695	36,980	56,675	24,368	35,818	60,186	19,203	29,145	48,348	22,946	33,372	56,318	15,928	41,733	57,661
神経科・精神科	5,578	7,274	12,852	5,417	6,951	12,368	6,589	7,641	14,230	6,634	12,989	19,623	6,734	8,909	15,643	6,844	11,277	18,121	6,502	9,426	15,928	7,142	9,108	16,250
小児科	6,596	8,706	15,302	7,185	6,913	14,098	8,041	9,849	17,890	6,782	7,226	14,008	6,494	3,740	10,234	5,778	6,898	12,676	6,320	6,424	12,744	6,300	5,898	12,198
外科(計)	28,155	45,433	73,588	27,655	40,929	68,584	30,356	35,372	65,728	26,955	36,816	63,771	26,313	50,547	76,860	24,280	50,596	74,876	26,749	46,085	72,834	22,714	44,212	66,926
消化器・一般外科	16,723	38,507	55,230	15,582	35,875	51,457	16,603	30,713	47,316	14,933	30,804	45,737	15,065	44,186	59,251	13,165	43,751	56,916	13,082	39,783	52,865	12,114	36,293	48,407
乳腺外科	11,432	6,926	18,358	12,073	5,054	17,127	13,753	4,659	18,412	12,022	6,012	18,034	11,248	6,361	17,609	11,115	6,845	17,960	13,667	6,302	19,969	10,600	7,919	18,519
整形外科	6,441	26,610	33,051	6,756	38,270	45,026	7,061	32,980	40,041	6,713	26,315	33,028	7,375	38,891	46,266	7,680	33,473	41,153	8,355	43,202	51,557	8,184	41,599	49,783
皮膚科	14,571	10,895	25,466	16,062	7,201	23,263	14,985	10,212	25,197	14,373	16,294	30,667	19,058	15,359	34,417	16,611	11,003	27,614	17,818	15,620	33,438	18,517	11,945	30,462
泌尿器科	13,196	16,753	29,949	14,543	21,305	35,848	14,348	20,302	34,650	13,891	20,014	33,905	13,566	23,906	37,472	13,613	22,091	35,704	14,377	15,319	29,696	13,899	15,865	29,764
産婦人科	17,206	68,795	86,001	18,444	72,817	91,261	18,588	73,842	92,430	18,169	75,252	93,421	20,986	70,821	91,807	18,683	63,631	82,314	21,879	83,632	105,511	20,615	80,533	101,148
眼科	6,650	11,358	18,008	7,184	14,586	21,770	7,841	16,811	24,652	7,519	12,453	19,972	7,765	15,129	22,894	7,626	18,445	26,071	7,464	14,818	22,282	7,019	8,946	15,965
耳鼻咽喉科	6,705	13,639	20,344	7,339	17,847	25,186	8,308	18,798	27,106	6,443	21,349	27,792	6,885	22,428	29,313	6,465	21,266	27,731	7,208	21,226	28,434	6,976	21,951	28,927
放射線科	4,775	1,352	6,127	4,276	1,835	6,111	4,802	1,908	6,710	4,890	1,699	6,589	4,458	890	5,348	4,987	1,011	5,998	3,805	1,999	5,804	3,545	1,563	5,108
麻酔・緩和医療科	553	1,284	1,837	841	1,473	2,314	970	1,555	2,525	784	1,758	2,542	661	1,696	2,357	695	1,784	2,479	613	3,188	3,801	791	3,759	4,550
救急診療科	1,577	172	1,749	1,709	34	1,743	1,859	6	1,865	1,900	64	1,964	1,846	2	1,848	1,708	38	1,746	2,037	50	2,087	1,711	18	1,729
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	14	0	14	18	0	18	20	0	20	16	0	16
計	185,616	390,003	575,619	190,527	431,747	622,274	202,284	409,622	611,906	192,289	396,473	588,762	207,064	406,521	613,585	190,984	396,575	587,559	205,947	428,557	634,504	196,021	431,469	627,490
百分率	32%	68%	100%	31%	69%	100%	33%	67%	100%	33%	67%	100%	34%	66%	100%	33%	67%	100%	32%	68%	100%	31%	69%	100%

(注) 共観科の収入は主たる科の収入に含む場合もある。

[単位:千円]

9月			10月			11月			12月			累計			前年度累計	対前年差額
外来	入院	計	外来	入院	計											
72,898	184,848	257,746	80,968	179,941	260,909	81,547	164,968	246,515	77,031	191,503	268,534	937,241	2,108,077	3,045,318	3,041,540	3,778
17,212	66,791	84,003	17,769	65,745	83,514	17,568	54,227	71,795	16,964	82,140	99,104	213,784	814,439	1,028,223	1,171,151	▲ 142,928
10,626	31,696	42,322	12,084	33,050	45,134	12,070	31,664	43,734	11,535	34,460	45,995	139,578	359,030	498,608	384,169	114,439
27,560	43,451	71,011	31,912	39,413	71,325	31,067	40,382	71,449	29,992	36,523	66,515	349,281	455,584	804,865	708,408	96,457
17,500	42,910	60,410	19,203	41,733	60,936	20,842	38,695	59,537	18,540	38,380	56,920	234,598	479,024	713,622	777,812	▲ 64,190
6,126	11,312	17,438	6,318	12,082	18,400	6,855	7,256	14,111	6,625	7,558	14,183	77,364	111,783	189,147	217,601	▲ 28,454
6,224	6,663	12,887	7,510	7,636	15,146	7,649	6,274	13,923	7,306	6,435	13,741	82,185	82,662	164,847	161,094	3,753
23,002	38,881	61,883	27,335	41,597	68,932	24,042	49,570	73,612	22,109	41,387	63,496	309,665	521,425	831,090	781,173	49,917
12,396	31,387	43,783	13,411	34,268	47,679	12,200	41,126	53,326	11,576	33,120	44,696	166,850	439,813	606,663	588,787	17,876
10,606	7,494	18,100	13,924	7,329	21,253	11,842	8,444	20,286	10,533	8,267	18,800	142,815	81,612	224,427	192,386	32,041
7,909	34,364	42,273	8,859	40,844	49,703	7,829	44,204	52,033	7,148	39,457	46,605	90,310	440,209	530,519	517,621	12,898
17,468	11,746	29,214	18,896	7,395	26,291	20,517	7,401	27,918	15,996	10,192	26,188	204,872	135,263	340,135	295,093	45,042
13,253	19,770	33,023	15,217	18,833	34,050	13,749	20,839	34,588	13,175	23,615	36,790	166,827	238,612	405,439	430,249	▲ 24,810
19,928	72,415	92,343	21,936	84,673	106,609	21,121	83,755	104,876	18,926	71,712	90,638	236,481	901,878	1,138,359	1,113,354	25,005
7,145	12,835	19,980	7,628	12,503	20,131	7,149	15,817	22,966	5,667	13,871	19,538	86,657	167,572	254,229	288,621	▲ 34,392
5,433	15,889	21,322	7,473	16,992	24,465	6,677	20,238	26,915	6,151	16,014	22,165	82,063	227,637	309,700	269,054	40,646
4,214	933	5,147	6,398	995	7,393	5,726	1,122	6,848	5,122	1,585	6,707	56,998	16,892	73,890	64,825	9,065
618	1,227	1,845	776	1,697	2,473	527	1,945	2,472	732	1,667	2,399	8,561	23,033	31,594	25,658	5,936
2,586	533	3,119	1,898	1,031	2,929	2,386	773	3,159	2,083	215	2,298	23,300	2,936	26,236	28,291	28,291
17	0	17	23	0	23	13	0	13	29	0	29	157	0	157	0	157
186,823	411,416	598,239	211,234	426,220	637,454	205,787	424,163	629,950	188,101	425,213	613,314	2,362,677	4,977,979	7,340,656	7,234,177	106,479
31%	69%	100%	33%	67%	100%	33%	67%	100%	31%	69%	100%	32%	68%	100%		

[医事G]

14 医療行為別医療収入

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月		
	外来	入院	計																					
初診料	4,286	263	4,549	4,581	219	4,800	4,621	215	4,836	4,320	226	4,546	4,735	259	4,994	4,389	179	4,568	4,892	281	5,173	4,692	317	5,009
再診料	9,317	0	9,317	9,598	0	9,598	10,219	0	10,219	10,120	0	10,120	10,704	0	10,704	10,193	0	10,193	10,689	0	10,689	10,583	0	10,583
指導料	14,503	4,146	18,649	14,658	4,614	19,272	14,464	4,285	18,749	14,764	4,678	19,442	15,395	4,654	20,049	14,263	5,107	19,370	15,348	4,988	20,336	14,839	5,108	19,947
投薬料	3,393	5,839	9,232	4,458	6,335	10,793	4,041	5,744	9,785	4,435	5,976	10,411	4,693	6,366	11,059	3,437	5,869	9,306	5,216	5,007	10,223	3,932	4,418	8,350
注射料	42,593	6,182	48,775	44,008	9,478	53,486	46,103	10,002	56,105	41,950	5,301	47,251	50,143	7,397	57,540	41,806	3,934	45,740	46,933	4,710	51,643	40,089	2,924	43,013
処置料	3,107	1,827	4,934	3,271	2,664	5,935	3,471	2,272	5,743	3,160	1,741	4,901	3,335	2,366	5,701	3,167	2,531	5,698	3,194	2,186	5,380	3,269	939	4,208
手術料	4,324	88,707	93,031	4,788	101,467	106,255	4,739	88,413	93,152	4,823	90,429	95,252	4,972	102,610	107,582	5,838	94,584	100,422	4,741	98,575	103,316	4,398	97,118	101,516
検査料	59,258	6,750	66,008	61,463	8,229	69,692	64,908	7,509	72,417	62,607	7,560	70,167	64,587	7,913	72,500	61,454	7,847	69,301	67,043	6,948	73,991	65,462	6,623	72,085
画像診断料	24,457	1,179	25,636	24,243	1,923	26,166	27,928	1,645	29,573	25,855	1,440	27,295	27,042	1,883	28,925	25,466	1,556	27,022	26,516	1,682	28,198	27,284	1,425	28,709
入院料	0	50,518	50,518	0	52,645	52,645	0	50,265	50,265	0	48,158	48,158	0	49,704	49,704	0	48,395	48,395	0	52,087	52,087	0	48,576	48,576
DPC入院料	0	182,878	182,878	0	195,018	195,018	0	192,012	192,012	0	184,749	184,749	0	179,664	179,664	0	182,040	182,040	0	198,166	198,166	0	211,819	211,819
理学療法料	273	4,159	4,432	331	4,789	5,120	309	4,483	4,792	197	4,260	4,457	246	4,811	5,057	307	5,189	5,496	380	5,213	5,593	314	5,635	5,949
処方箋	7,206	0	7,206	7,171	0	7,171	7,563	0	7,563	7,211	0	7,211	7,692	0	7,692	7,215	0	7,215	7,687	0	7,687	7,615	0	7,615
その他	12,899	37,555	50,454	11,957	44,366	56,323	13,918	42,777	56,695	12,847	41,955	54,802	13,520	38,894	52,414	13,449	39,344	52,793	13,308	48,714	62,022	13,544	46,567	60,111
計	185,616	390,003	575,619	190,527	431,747	622,274	202,284	409,622	611,906	192,289	396,473	588,762	207,064	406,521	613,585	190,984	396,575	587,559	205,947	428,557	634,504	196,021	431,469	627,490

(注) 共観科の収入は主たる科の収入に含む場合もある。

[単位:千円]

9月			10月			11月			12月			累計			前年度累計	対前年差額
外来	入院	計	外来	入院	計											
4,139	240	4,379	4,753	288	5,041	4,560	284	4,844	4,292	250	4,542	54,260	3,021	57,281	56,444	837
9,762	0	9,762	10,783	0	10,783	10,592	0	10,592	10,173	0	10,173	122,733	0	122,733	120,959	1,774
14,613	4,302	18,915	16,021	4,611	20,632	15,947	4,852	20,799	15,909	4,668	20,577	180,724	56,013	236,737	226,573	10,164
2,829	4,160	6,989	3,082	6,593	9,675	3,096	5,741	8,837	3,408	7,135	10,543	46,020	69,183	115,203	132,677	▲ 17,474
41,398	3,535	44,933	48,258	6,322	54,580	47,198	7,011	54,209	38,884	5,613	44,497	529,363	72,409	601,772	584,499	17,273
2,847	808	3,655	3,455	1,238	4,693	3,331	1,910	5,241	3,201	4,251	7,452	38,808	24,733	63,541	62,992	549
3,948	90,100	94,048	5,304	98,464	103,768	4,758	106,826	111,584	3,907	95,647	99,554	56,540	1,152,940	1,209,480	1,209,936	▲ 456
60,453	7,010	67,463	66,602	7,853	74,455	64,888	7,757	72,645	61,267	7,660	68,927	759,992	89,659	849,651	807,504	42,147
26,042	1,345	27,387	28,358	1,466	29,824	26,855	1,531	28,386	23,960	1,442	25,402	314,006	18,517	332,523	324,750	7,773
0	47,477	47,477	0	51,711	51,711	0	49,208	49,208	0	49,020	49,020	0	597,764	597,764	651,860	▲ 54,096
0	203,525	203,525	0	194,588	194,588	0	189,451	189,451	0	197,467	197,467	0	2,311,377	2,311,377	2,235,930	75,447
329	4,728	5,057	331	5,773	6,104	286	5,014	5,300	277	4,951	5,228	3,580	59,005	62,585	50,076	12,509
6,933	0	6,933	7,784	0	7,784	7,772	0	7,772	7,379	0	7,379	89,228	0	89,228	89,779	▲ 551
13,530	44,186	57,716	16,503	47,313	63,816	16,504	44,578	61,082	15,444	47,109	62,553	167,423	523,358	690,781	680,198	10,583
186,823	411,416	598,239	211,234	426,220	637,454	205,787	424,163	629,950	188,101	425,213	613,314	2,362,677	4,977,979	7,340,656	7,234,177	106,479

[医事G]

15 病院従業員数 (4月1日時点)

		職員	性別		専攻医	研修医	嘱託		パート
			男	女			常勤	非勤	
医 師	24年度	59	48	11	10	11	4	39	
	23年度	59	48	11	10	13	3	39	
薬剤師	24年度	12	5	7					3
	23年度	11	5	6					3
放射線技師	24年度	12	9	3					
	23年度	13	10	3					
臨床検査技師	24年度	23	9	14					2
	23年度	22	8	14					
理学療法士	24年度	6	5	1					1
	23年度	5	4	1					
作業療法士	24年度	1		1					
	23年度	1		1					
栄養士	24年度	1		1					2
	23年度	1		1					2
ケースワーカー	24年度	2		2					
	23年度	2		2					
視能訓練士・眼鏡士	24年度	2		2					4
	23年度	2		2					4
臨床心理士	24年度	0							1
	23年度	0							1
臨床工学技士	24年度	3	1	2					
	23年度	3	1	2					
看護師	24年度	281	6	275					14
	23年度	272	3	269					13
准看護師	24年度	1		1					10
	23年度	1		1					10
看護助手	24年度								19
	23年度	1		1					16
事務員	24年度	36	21	15					12
	23年度	33	18	15					9
一般技能労務職	24年度	4	2	2			1	1	3
	23年度	5	3	2			1	1	4
総 計	24年度	443	106	337	10	11	5	40	71
	23年度	431	100	331	10	13	4	40	62

16 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

平成18年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10(2003年版)準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

平成18年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

1) 退院患者医療評価指標①

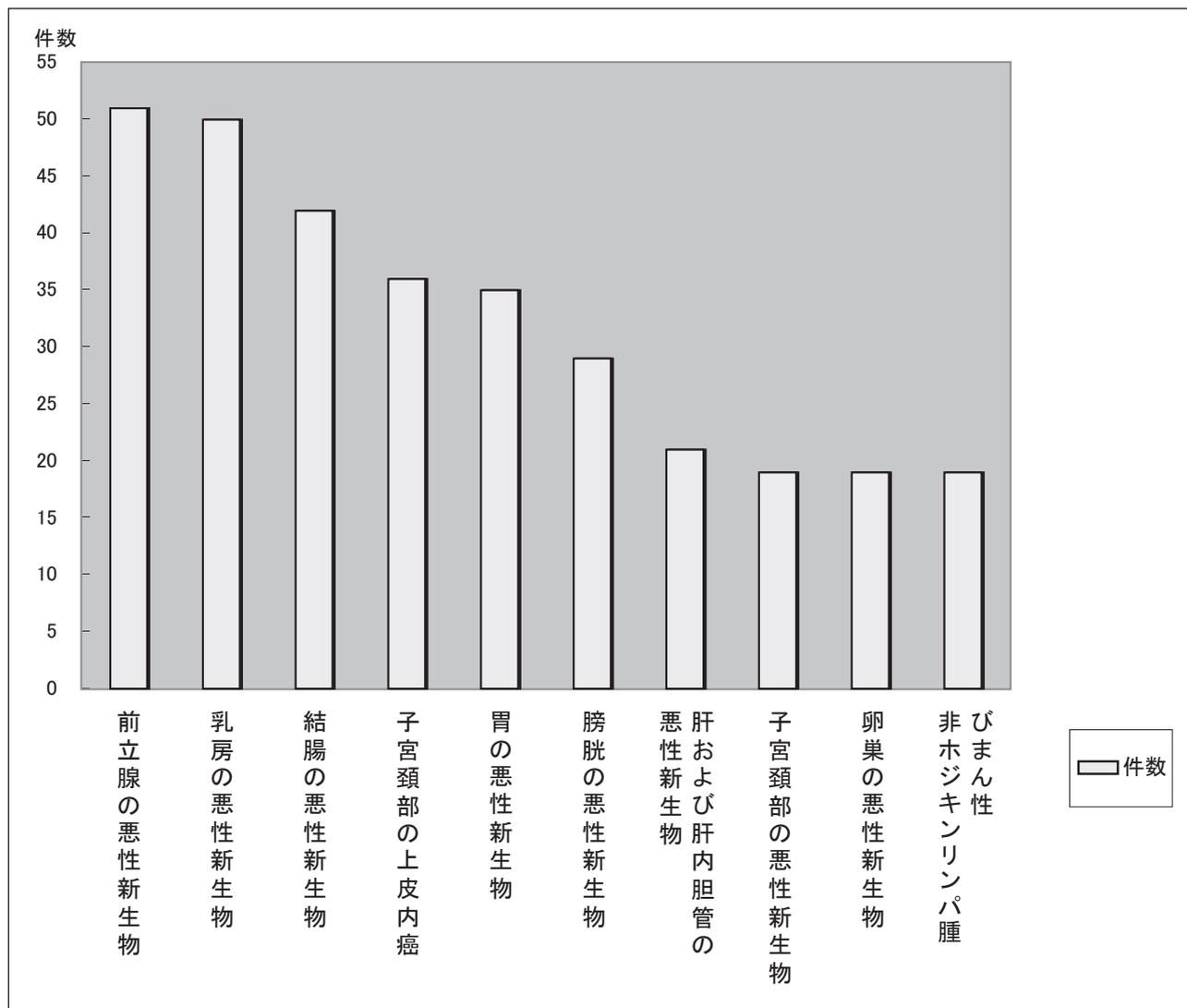
	算定式	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	269	273	272	269	280	283	278	273
病床稼働率(%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	76.9	78.0	77.7	76.9	80.0	80.9	79.4	78.0
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	15.3	14.7	14.6	14.1	14.2	13.2	13.3	12.3
実退院患者数(人)		5,900	6,359	6,350	6,486	6,740	7,283	7,119	7,396
転科数		176	249	158	140	176	206	164	209
総退院患者数		6,076	6,608	6,508	6,626	6,916	7,489	7,283	7,605
実退院患者平均在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	16.2	15.7	15.6	15.0	15.5	14.1	14.6	14.6
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.5	2.9	2.7	2.4	2.5	2.2	2.1	2.1
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.2	2.6	2.4	2.2	2.4	2.2	1.8	1.9
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	5.5	11.4	8.9	7.2	5.8	9.6	6.6	7.7
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	0.04	0.03	—	—	—	—	—	—
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	18.9	20.6	23.4	19.1	17.0	18.8	16.8	16.6
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	—	—	—	—	—	—	—	—
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	—	—	—	—	—	0.2	—	—
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	32.4	34.9	35.9	38.0	40.5	40.8	38.8	38.1
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	36.1	38.1	43.1	43.6	41.1	36.1	40.2	44.9
診療情報の利用									
診療録利用件数(冊)		5,808	1,204	1,022	506	324	172	198	215
コンピュータ情報利用件数(依頼件数)		65	55	84	98	63	82	65	56

1) 退院患者医療評価指標②(悪性新生物)

	算定式	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)
悪性新生物:比率(%)	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	15.5	17.2	15.7	15.3	14.0	15.3	14.7	16.1	14.8
悪性新生物:新発患者数		352	413	432	445	454	503	548	553	465

○2012年1月～12月一初発がん統計トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	51	5
乳房の悪性新生物	50	15
結腸の悪性新生物	42	28
子宮頸部の上皮内癌	36	4
胃の悪性新生物	35	33
膀胱の悪性新生物	29	9
肝および肝内胆管の悪性新生物	21	25
子宮頸部の悪性新生物	19	9
卵巣の悪性新生物	19	23
びまん性非ホジキンリンパ腫	19	50



診療科別・月別・患者数 (2012年)

日本生命済生会付属 日生病院

診療科	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	死亡	剖検
総数	計 7,396	506	609	641	605	584	637	622	639	608	640	650	655	156	12
	男 3,164	207	263	285	269	231	304	259	277	269	289	244	267	90	8
	女 4,232	299	346	356	336	353	333	363	362	339	351	406	388	66	4
循環内科	計 963	58	98	78	81	63	81	71	65	87	93	79	102	17	3
	男 533	30	57	40	37	41	50	37	46	46	41	53	60	9	2
	女 420	28	41	38	30	26	31	30	30	41	33	43	49	8	1
消化器内科	計 1,031	52	77	93	89	82	82	95	99	96	86	88	92	22	3
	男 584	26	47	58	54	40	46	55	55	58	40	46	60	10	1
	女 447	26	40	35	35	42	35	40	44	38	40	40	32	12	1
総合内科	計 677	51	57	48	48	44	63	50	70	64	66	55	61	20	2
	男 305	21	31	19	20	16	33	25	25	29	31	19	24	10	2
	女 372	30	26	29	28	28	30	25	39	35	29	36	37	10	-
血液治療内	計 232	21	19	28	19	23	17	17	16	16	16	21	19	24	4
	男 140	11	16	13	13	15	9	9	12	11	13	11	7	20	3
	女 92	10	3	15	6	8	8	8	4	5	3	10	12	4	1
神経科精神科	計 87	6	5	4	10	7	9	7	7	5	15	7	5	-	-
	男 25	1	2	2	2	2	3	4	2	2	5	1	1	-	-
	女 62	5	3	2	8	5	6	3	5	3	10	6	4	-	-
小児科	計 308	28	24	32	34	15	25	27	23	25	26	29	20	-	-
	男 182	17	13	21	17	8	15	14	16	15	18	20	8	-	-
	女 126	11	11	11	17	7	10	13	7	10	8	9	12	-	-
消化器・一般外科	計 468	35	41	39	27	42	44	39	38	34	44	41	44	31	-
	男 293	30	26	26	16	23	29	17	27	27	33	16	26	19	-
	女 175	5	15	13	11	19	15	22	14	7	11	25	18	12	-
乳腺外科	計 131	9	12	8	9	12	13	9	13	10	11	12	13	4	-
	男 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女 129	9	12	8	9	12	13	9	13	10	9	12	13	4	-
整形外科	計 297	25	21	30	13	24	21	27	27	24	23	32	30	3	-
	男 115	10	9	12	4	14	11	13	13	3	11	8	7	2	-
	女 182	15	12	18	9	10	10	14	14	21	12	24	23	1	-
皮膚科	計 227	20	15	22	17	25	22	21	21	17	12	17	16	1	-
	男 112	9	5	11	12	14	13	9	12	7	3	7	10	-	-
	女 115	11	10	11	5	11	9	12	11	10	9	10	6	1	-
泌尿器科	計 406	26	30	43	44	30	43	27	28	36	30	33	36	17	-
	男 338	21	27	36	34	23	35	24	24	31	24	30	29	12	-
	女 68	5	3	7	10	7	8	3	4	5	6	3	7	5	-
産婦人科	計 1,506	100	122	127	127	129	112	137	135	116	139	133	129	7	-
	男 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女 1,506	100	122	127	127	129	112	137	135	116	139	133	129	7	-
眼科	計 569	43	51	51	45	46	63	51	32	41	42	60	44	1	-
	男 234	15	20	23	21	13	29	24	19	21	21	21	16	1	-
	女 335	28	31	28	24	33	34	27	13	20	30	39	28	-	-
耳鼻咽喉科	計 472	31	36	37	44	40	41	40	55	35	33	39	41	7	-
	男 287	16	19	24	28	31	16	20	24	20	22	24	25	6	-
	女 185	15	17	13	16	16	11	16	24	15	11	15	16	1	-
救急診療科	計 7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	2	1	-	-
	男 2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	1	-	-
	女 24	1	-	1	1	2	1	4	8	1	1	2	2	2	-
麻酔・緩和医療科	計 8	-	-	-	-	2	-	-	3	-	1	1	1	1	-
	男 16	1	-	1	1	-	1	4	5	1	-	1	1	1	-
	女 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
健康管理科	計 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

3) 診療科別・月別・死亡剖検数

診療科別・月別・死亡(剖検)患者数(2012年)

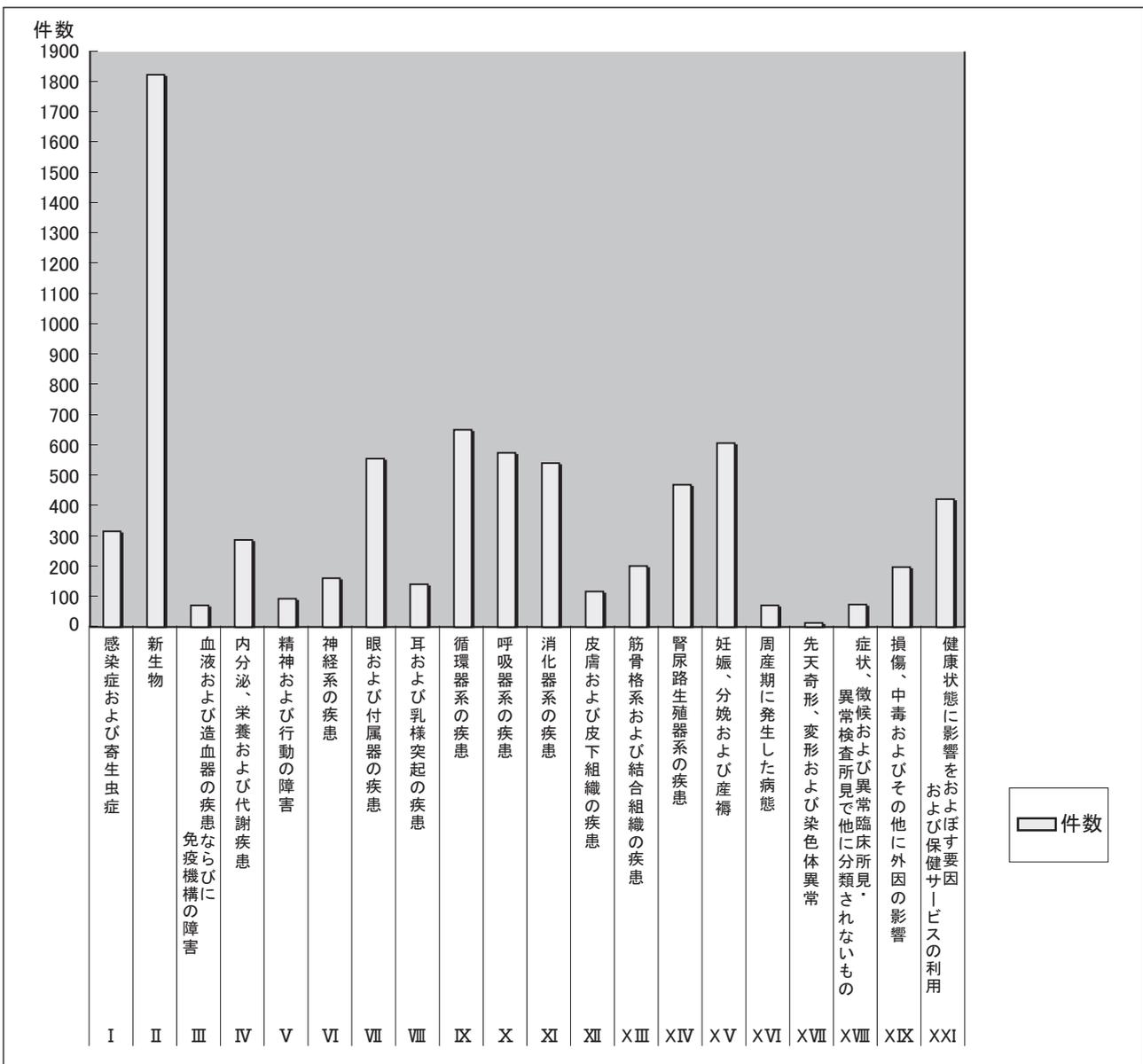
日本生命済生会付属 日生病院

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	兼科患者数	退院患者数	粗死亡率	精死亡率	剖検率
総数	156 (12)	13 (-)	8 (1)	12 (1)	10 (4)	11 (2)	12 (-)	19 (2)	16 (-)	18 (-)	10 (-)	12 (-)	21 (1)	7,396	156 (2.1)	144 (1.9)	12 (7.7)
循環内科	17 (3)	2 (-)	1 (1)	1 (-)	- (-)	2 (-)	2 (-)	1 (1)	3 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	953	17 (1.8)	14 (1.5)	3 (17.6)
消化器内科	23 (3)	1 (-)	1 (-)	- (-)	3 (2)	- (-)	5 (-)	3 (-)	1 (-)	3 (-)	2 (-)	2 (-)	2 (1)	1,032	23 (2.2)	22 (2.1)	3 (13.0)
総合内科	20 (2)	2 (-)	3 (-)	1 (-)	3 (1)	3 (1)	3 (-)	- (-)	4 (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	7 (-)	677	20 (3.0)	18 (2.7)	2 (10.0)
血液治療内	24 (4)	5 (-)	3 (-)	3 (1)	2 (1)	3 (1)	1 (-)	2 (1)	1 (-)	3 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	232	24 (10.3)	21 (9.1)	4 (16.7)
神経科精神科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	87	- (-)	- (-)	- (-)
小児科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	308	- (-)	- (-)	- (-)
消化器・一般外科	31 (-)	4 (-)	2 (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	5 (-)	2 (-)	3 (-)	3 (-)	3 (-)	1 (-)	468	31 (6.6)	30 (6.4)	- (-)
乳腺外科	4 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	131	4 (3.1)	4 (3.1)	- (-)
整形外科	3 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	3 (-)	297	3 (1.0)	3 (1.0)	- (-)
皮膚科	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	227	1 (0.4)	1 (0.4)	- (-)
泌尿器科	16 (-)	2 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	3 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	4 (-)	405	16 (4.0)	16 (4.0)	- (-)
産婦人科	7 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1,506	7 (0.5)	5 (0.3)	- (-)
眼科	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	569	1 (0.2)	1 (0.2)	- (-)								
耳鼻咽喉科	7 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	472	7 (1.5)	7 (1.5)	- (-)
救急診療科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	7	- (-)	- (-)	- (-)
麻酔・緩和医療科	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	24	2 (8.3)	2 (8.3)	- (-)
健康管理科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1	- (-)	- (-)	- (-)

4) 疾病統計

○2012年1月～12月 国際疾病分類大分類別件数・平均在院日数

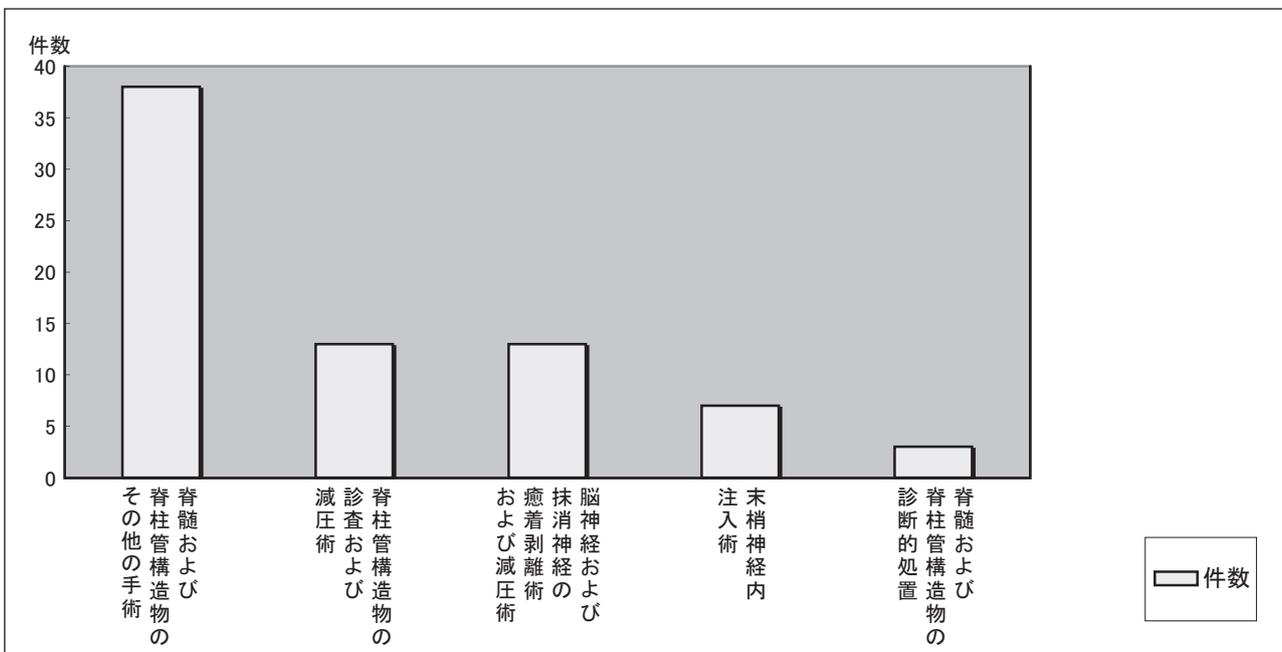
コード	国際分類大項目分類	件数	平均在院日数
I	感染症および寄生虫症	316	10
II	新生物	1826	15
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	71	25
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	288	18
V	精神および行動の障害	93	43
VI	神経系の疾患	161	14
VII	眼および付属器の疾患	556	4
VIII	耳および乳様突起の疾患	141	8
IX	循環器系の疾患	652	16
X	呼吸器系の疾患	576	14
XI	消化器系の疾患	542	11
XII	皮膚および皮下組織の疾患	117	19
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	201	29
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	470	9
XV	妊娠、分娩および産褥	608	8
XVI	周産期に発生した病態	71	7
XVII	先天奇形、変形および染色体異常	13	8
XVIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	74	13
XIX	損傷、中毒およびその他に外因の影響	198	26
XXI	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	422	2
総計		7396	13



5) 手術統計

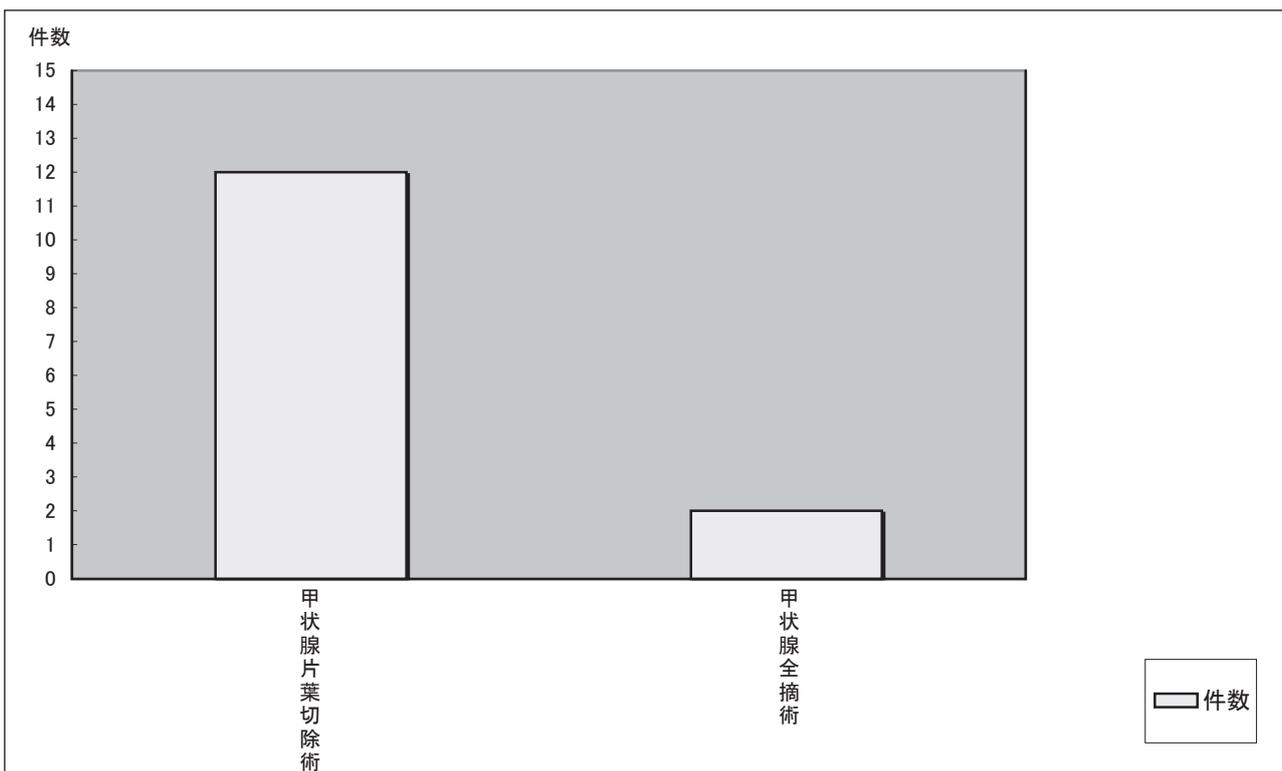
2012年1月～12月－1.神経系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
脊髄および脊柱管構造物のその他の手術	38	30
脊柱管構造物の診査および減圧術	13	33
脳神経および抹消神経の癒着剥離術および減圧術	13	10
末梢神経内注入術	7	68
脊髄および脊柱管構造物の診断的処置	3	18



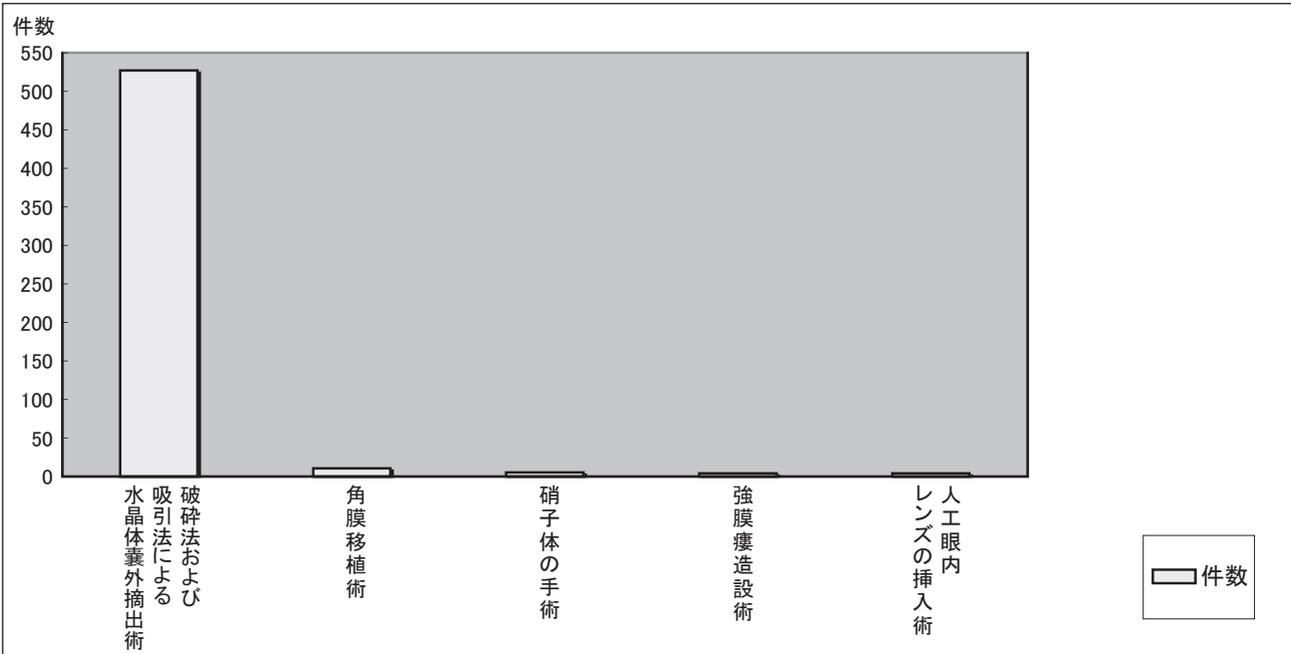
2012年1月～12月－2.内分泌系の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
甲状腺片葉切除術	12	10
甲状腺全摘術	2	12



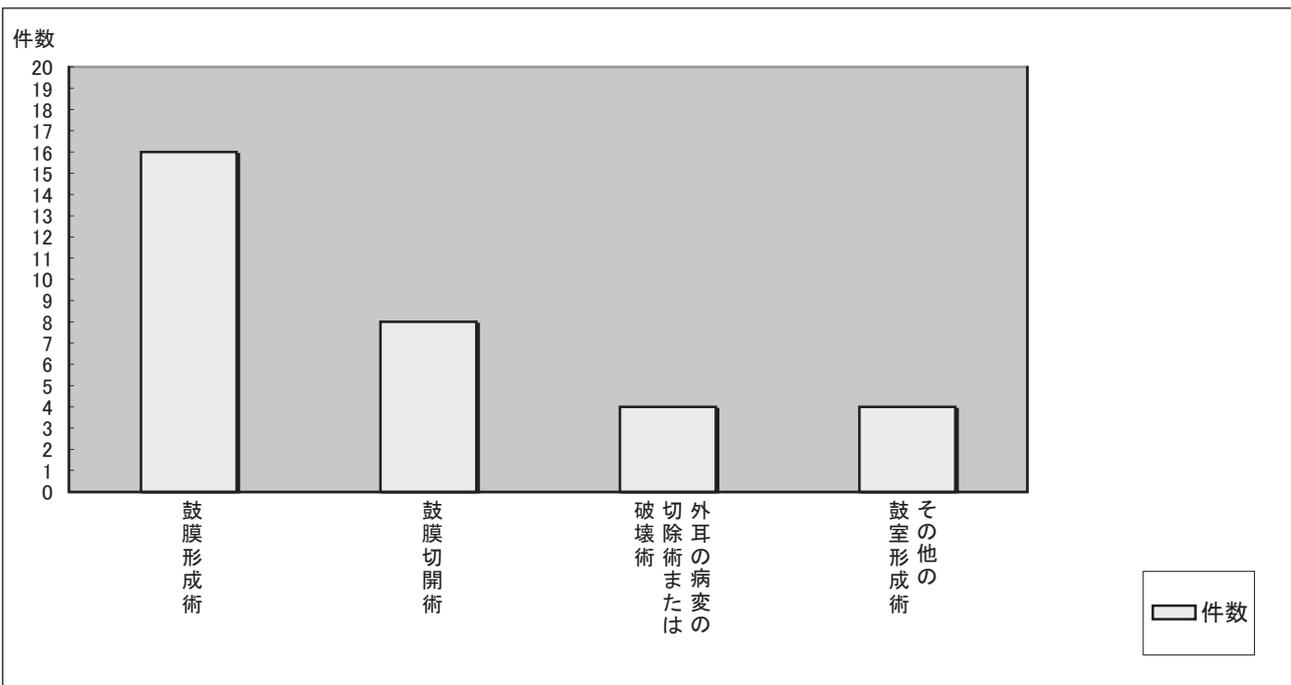
2012年1月～12月－3.目の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
破砕法および吸引法による水晶体嚢外摘出術	527	3
角膜移植術	10	18
硝子体の手術	5	14
強膜瘻造設術	4	33
人工眼内レンズの挿入術	4	5



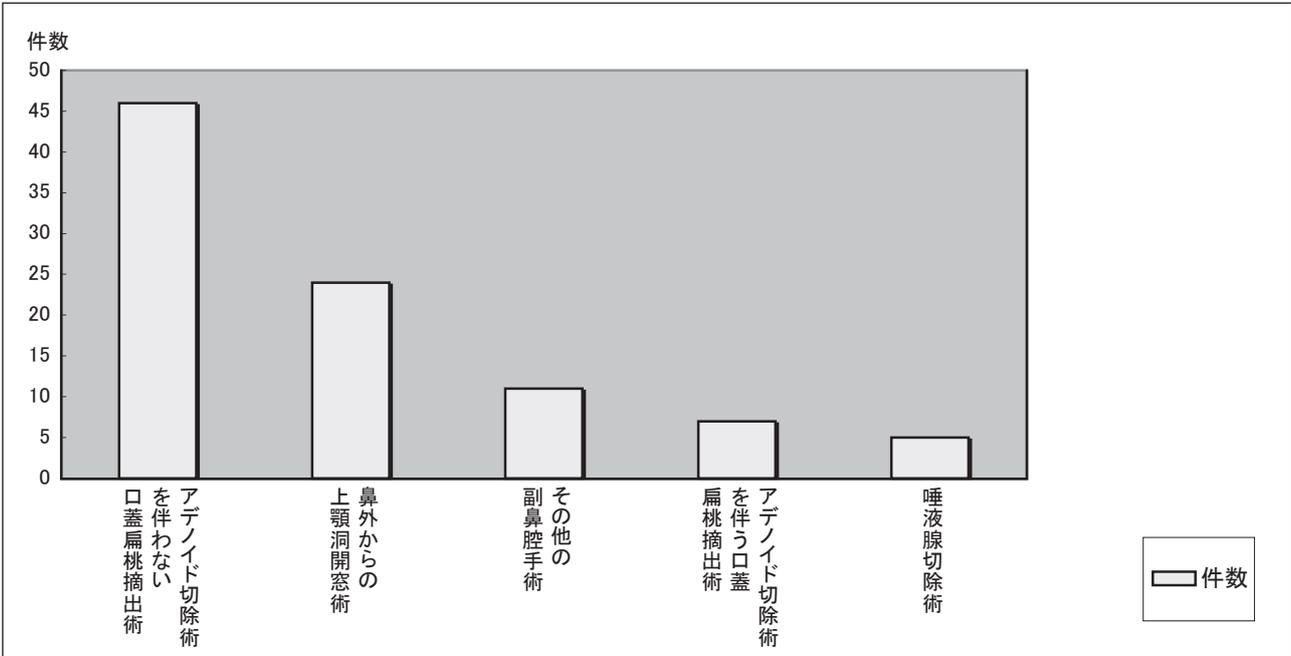
2012年1月～12月－4.耳の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
鼓膜形成術	16	8
鼓膜切開術	8	9
外耳の病変の切除術または破壊術	4	6
その他の鼓室形成術	4	15



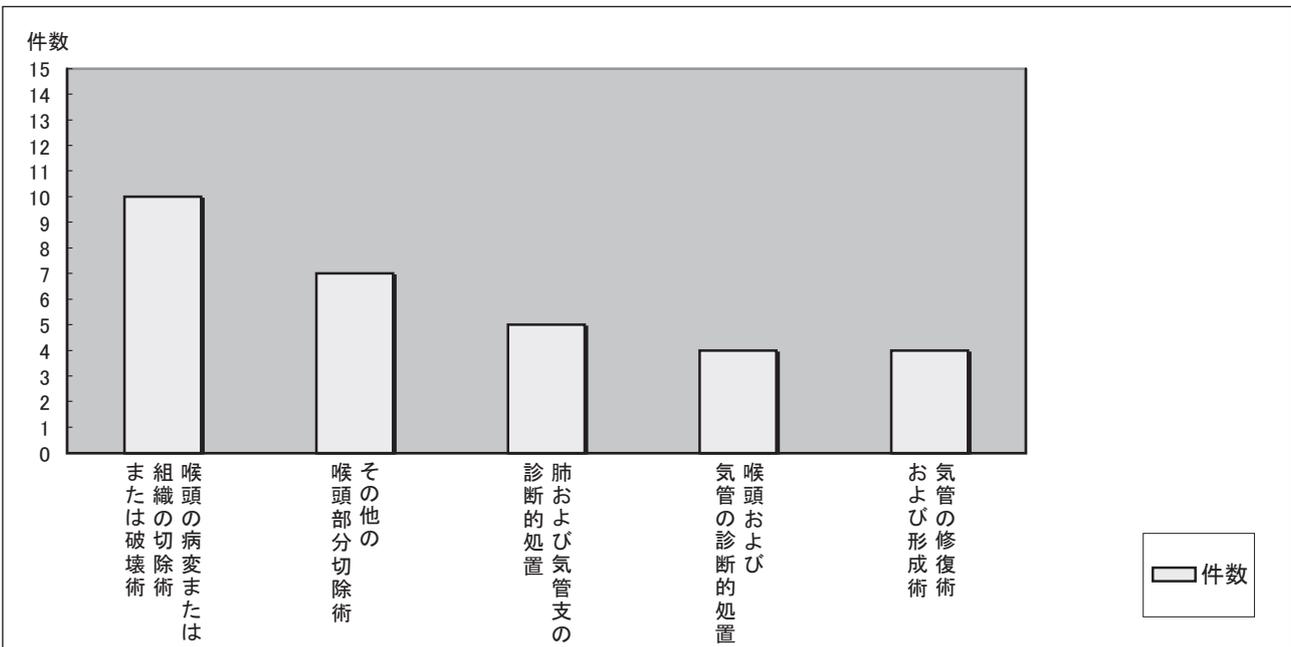
2012年1月～12月－5.鼻、口、及び咽頭の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
アデノイド切除術を伴わない口蓋扁桃摘出術	46	8
鼻外からの上顎洞開窓術	24	8
その他の副鼻腔手術	11	9
アデノイド切除術を伴う口蓋扁桃摘出術	7	6
唾液腺切除術	5	11



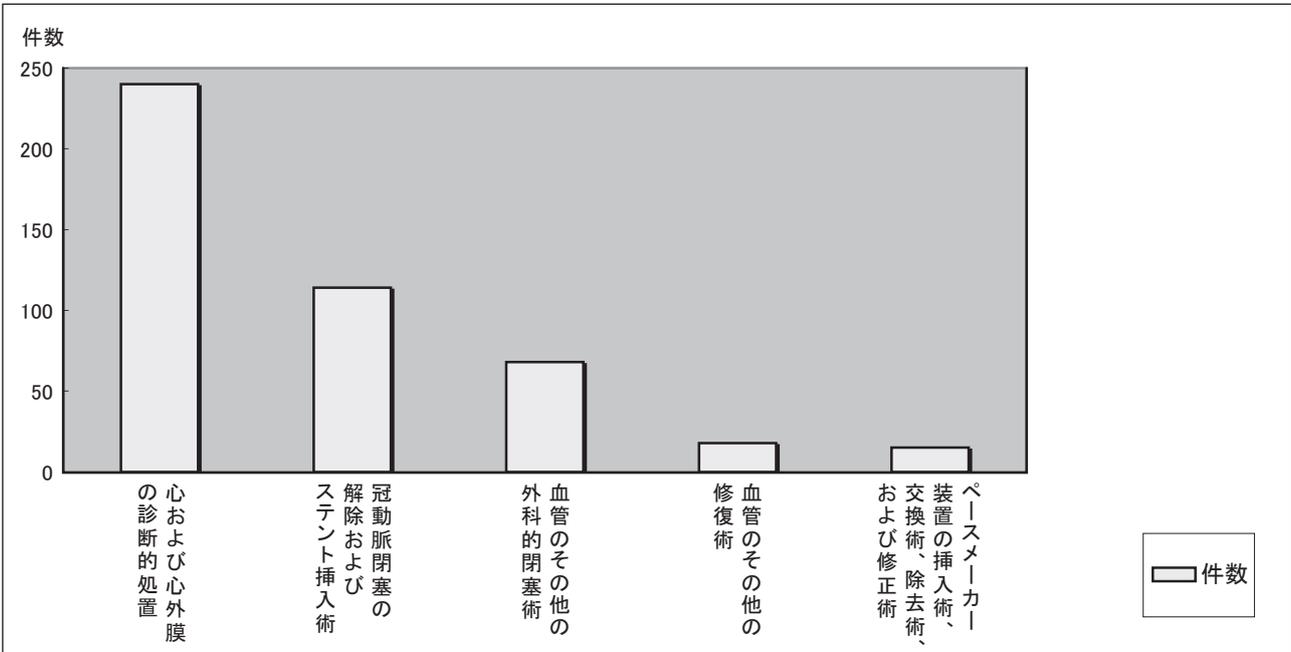
2012年1月～12月－6.呼吸器系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
喉頭の病変または組織の切除術または破壊術	10	8
その他の喉頭部分切除術	7	8
肺および気管支の診断的処置	5	50
喉頭および気管の診断的処置	4	27
気管の修復術および形成術	4	13



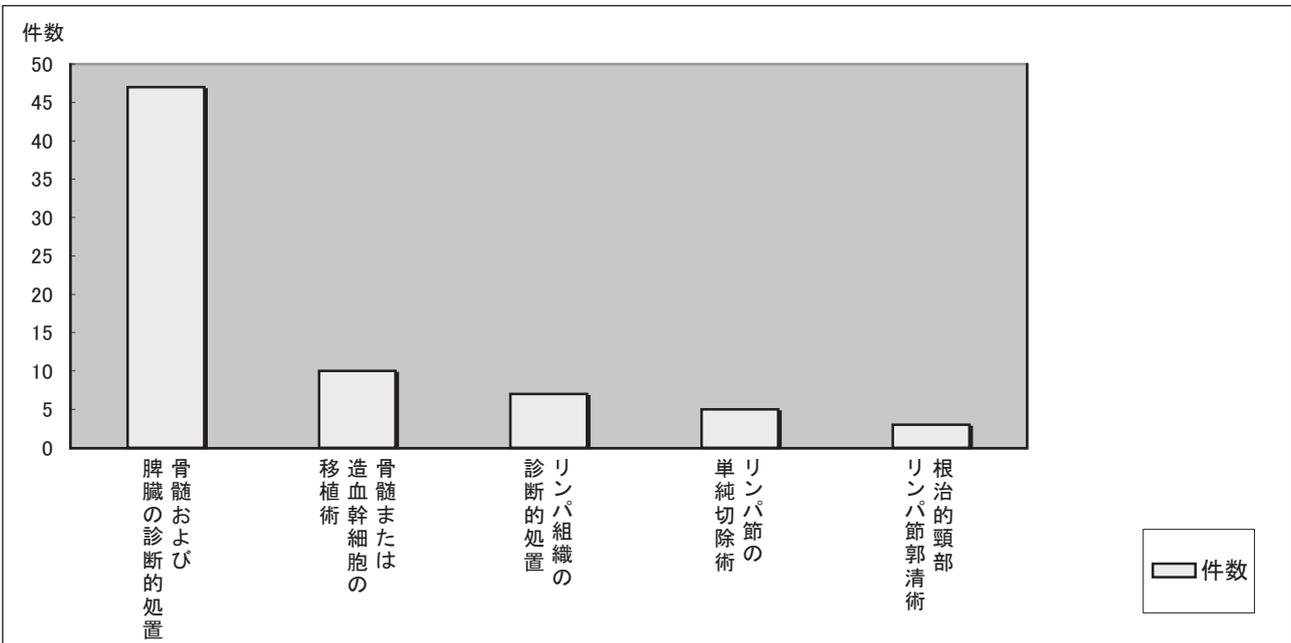
2012年1月～12月－7.循環器系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
心および心外膜の診断的処置	240	8
冠動脈閉塞の解除およびステント挿入術	114	17
血管のその他の外科的閉塞術	68	15
血管のその他の修復術	18	30
ペースメーカー装置の挿入術、交換術、除去術、および修正術	15	28



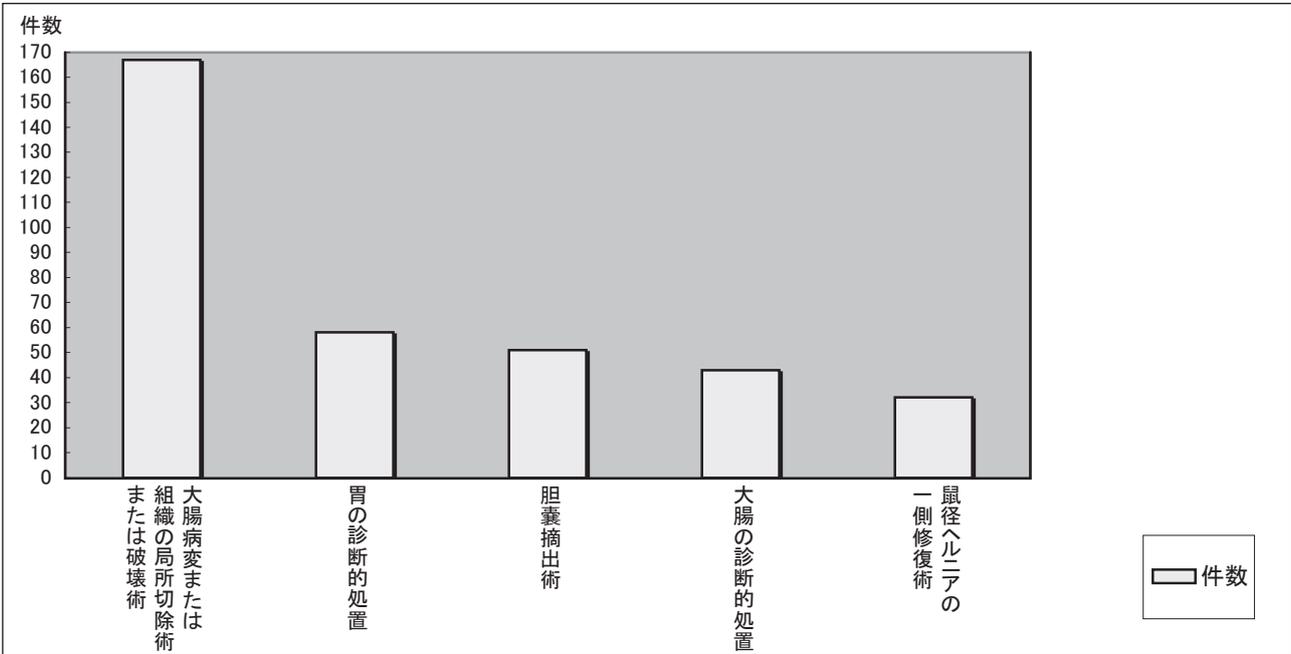
2012年1月～12月－8.血液系及びリンパ系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
骨髄および脾臓の診断的処置	47	43
骨髄または造血幹細胞の移植術	10	46
リンパ組織の診断的処置	7	37
リンパ節の単純切除術	5	3
根治的頸部リンパ節郭清術	3	12



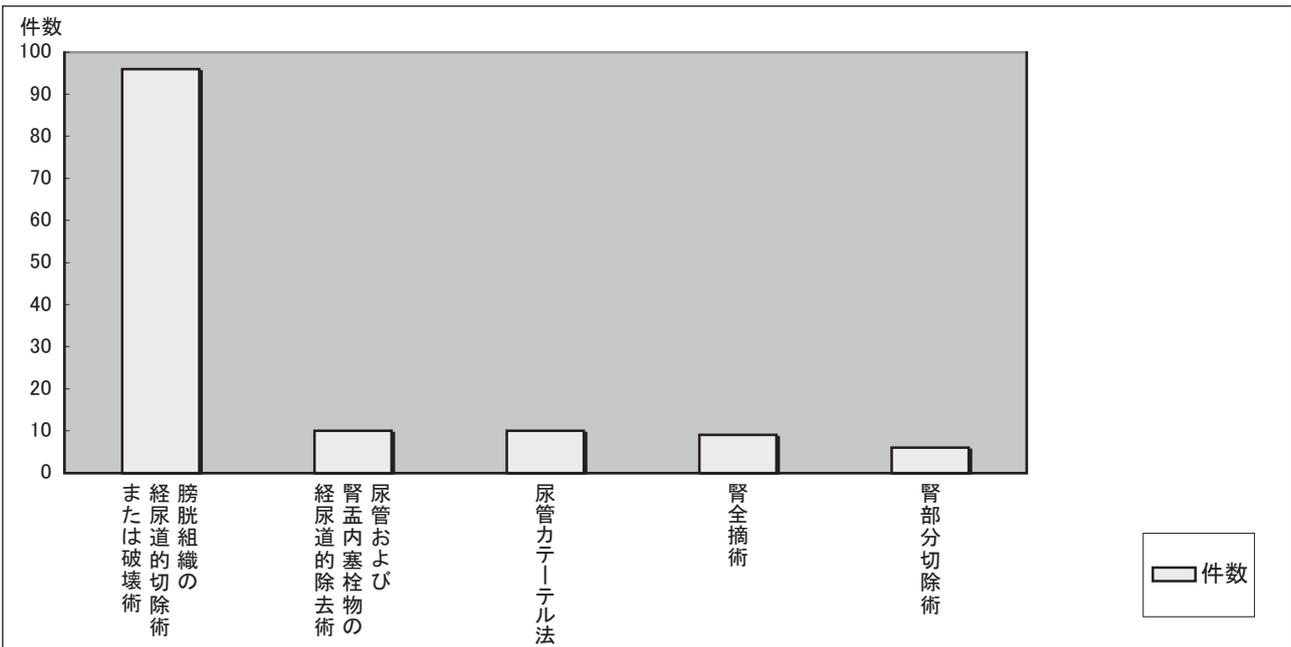
2012年1月～12月－9.消化器系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
大腸病変または組織の局所切除術または破壊術	167	4
胃の診断的処置	58	15
胆嚢摘出術	51	14
大腸の診断的処置	43	6
鼠径ヘルニアの一側修復術	32	11



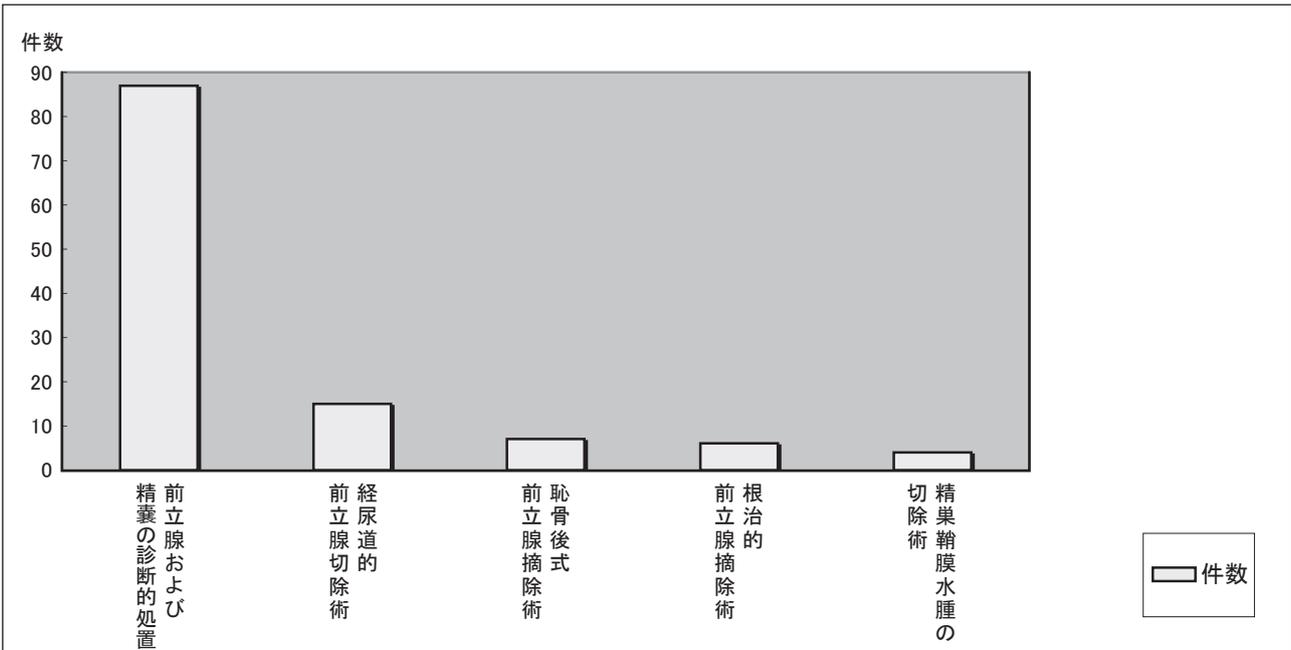
2012年1月～12月－10.尿路系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
膀胱組織の経尿道的切除術または破壊術	96	9
尿管および腎盂内塞栓物の経尿道的除去術	10	6
尿管カテーテル法	10	49
腎全摘術	9	17
腎部分切除術	6	16



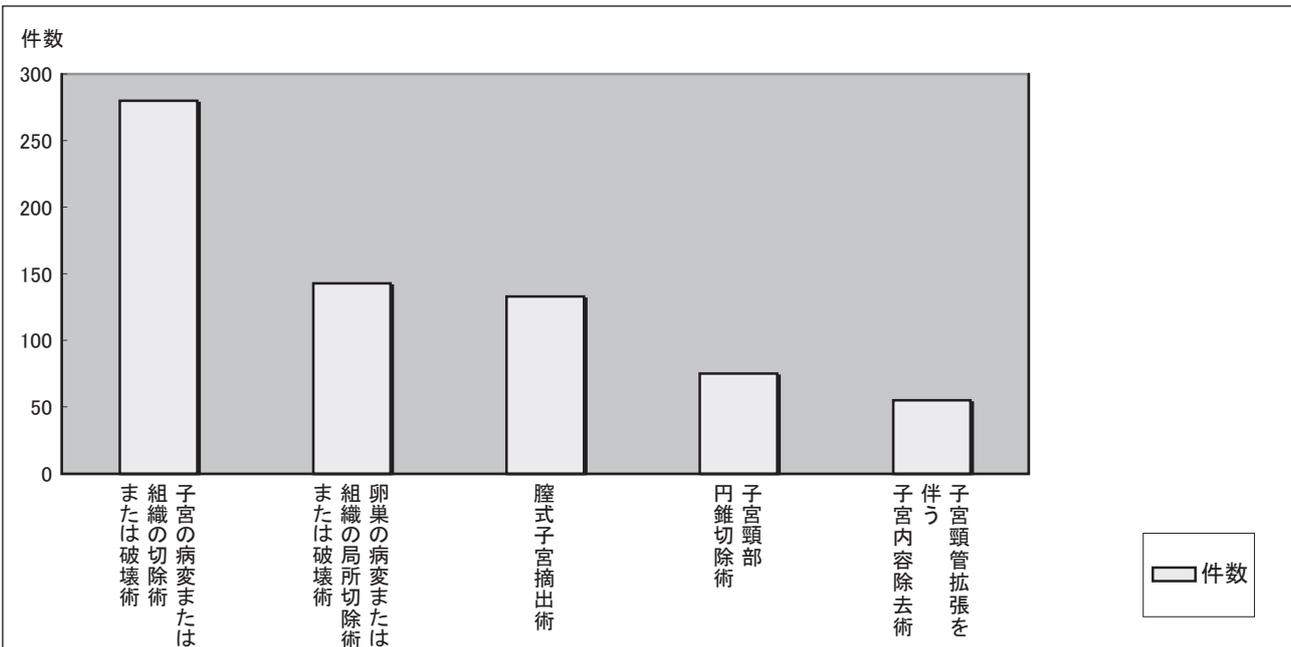
2012年1月～12月－11.男性生殖器の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
前立腺および精嚢の診断的処置	87	3
経尿道的前立腺切除術	15	13
恥骨後式前立腺摘除術	7	11
根治的前立腺摘除術	6	20
精嚢鞘膜水腫の切除術	4	7



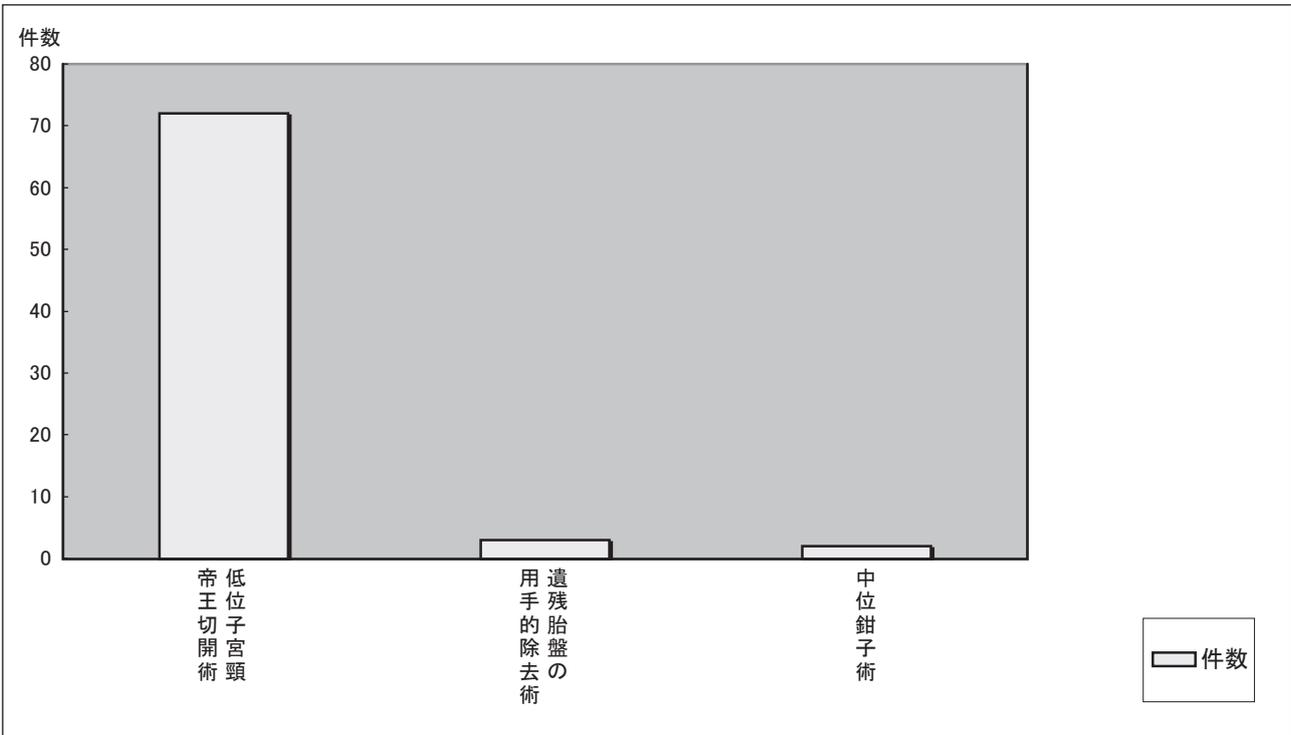
2012年1月～12月－12.女性生殖器の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
子宮の病変または組織の切除術または破壊術	280	6
卵巣の病変または組織の局所切除術または破壊術	143	7
腔式子宮摘出術	133	9
子宮頸部円錐切除術	75	3
子宮頸管拡張を伴う子宮内容除去術	55	2



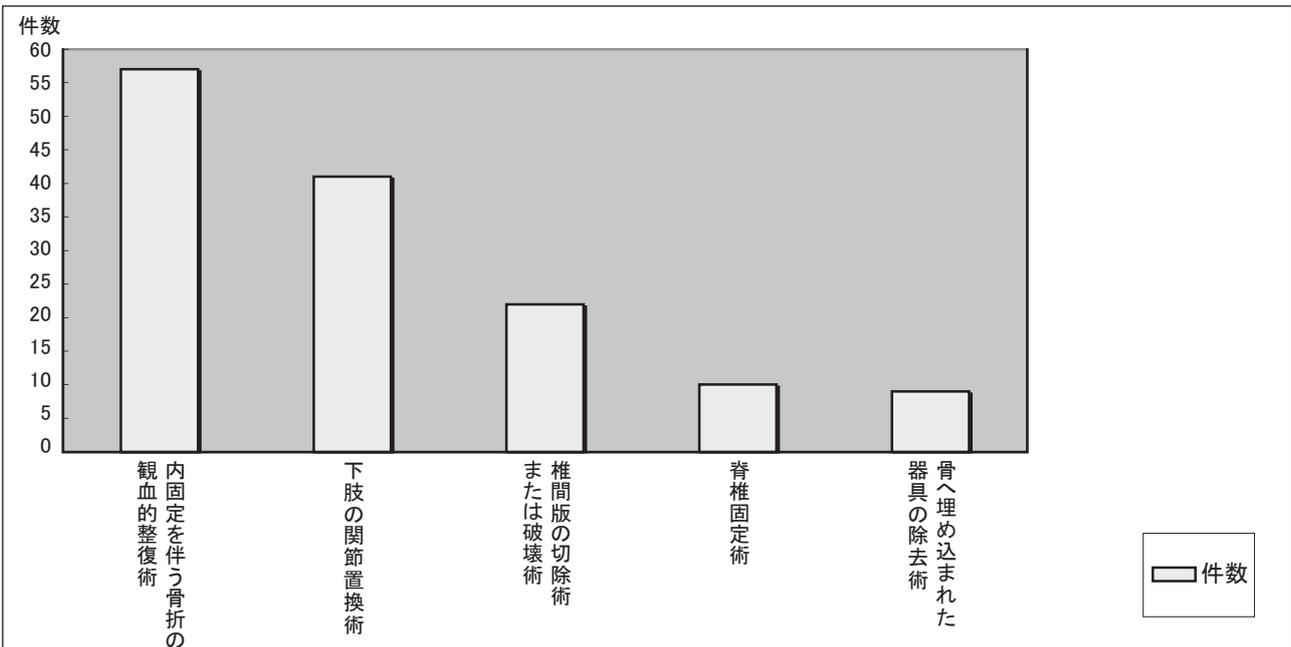
2012年1月～12月－13.産科的処置(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
低位子宮頸帝王切開術	72	10
遺残胎盤の用手的除去術	3	11
中位鉗子術	2	12



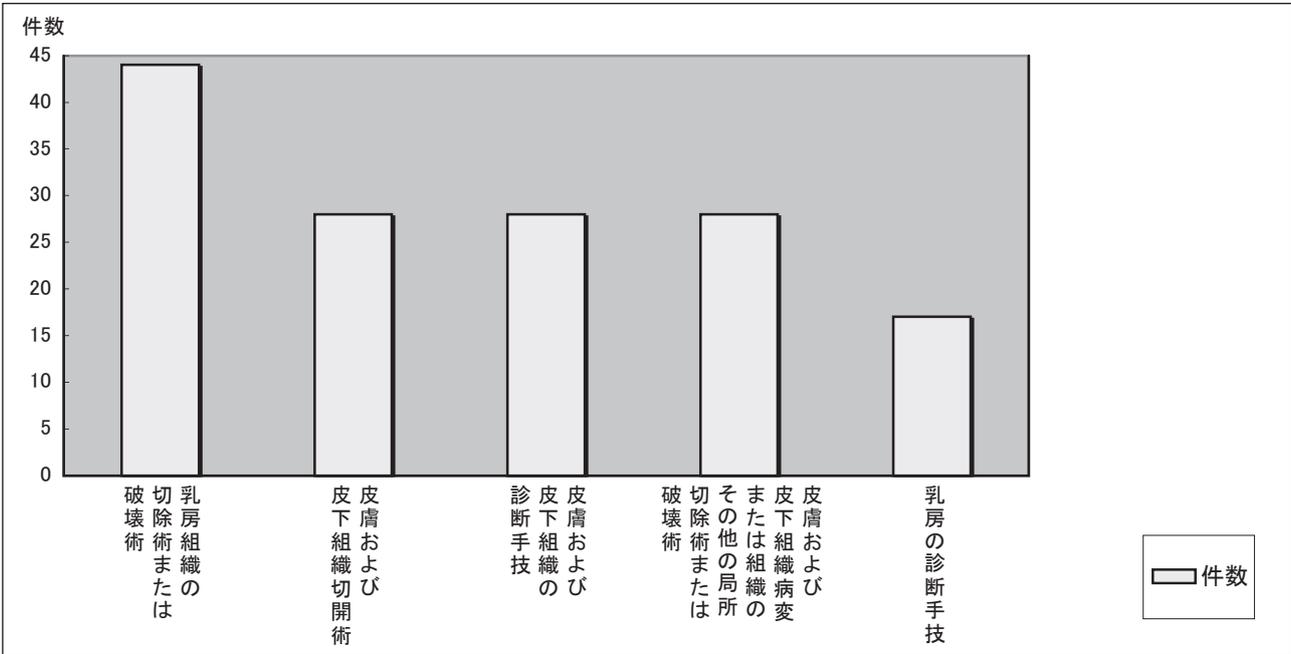
2012年1月～12月－14.筋骨格系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
内固定を伴う骨折の観血的整復術	57	37
下肢の関節置換術	41	40
椎間版の切除術または破壊術	22	36
脊椎固定術	10	69
骨へ埋め込まれた器具の除去術	9	9



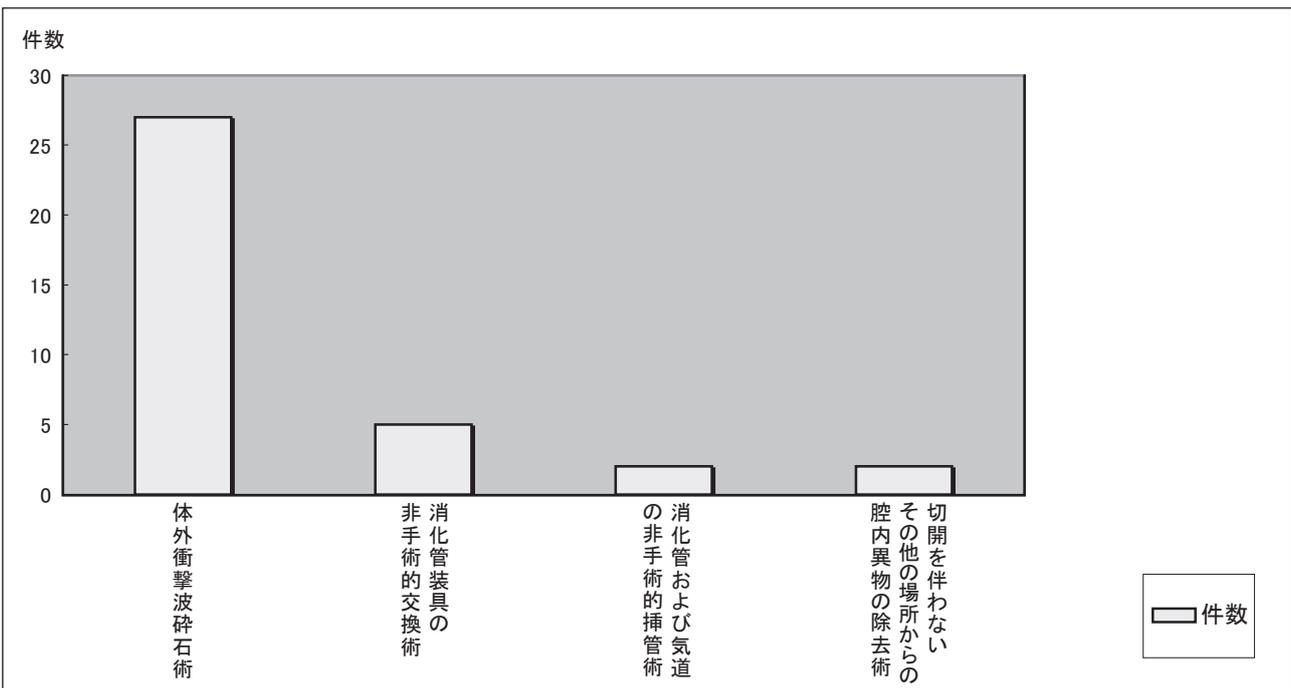
2012年1月～12月－15.表皮組織の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
乳房組織の切除術または破壊術	44	14
皮膚および皮下組織切開術	28	28
皮膚および皮下組織の診断手技	28	19
皮膚および皮下組織病変または組織のその他の局所切除術または破壊術	28	12
乳房の診断手技	17	4



2012年1月～12月－16.多種の診断および治療(件数・平均在院日数)

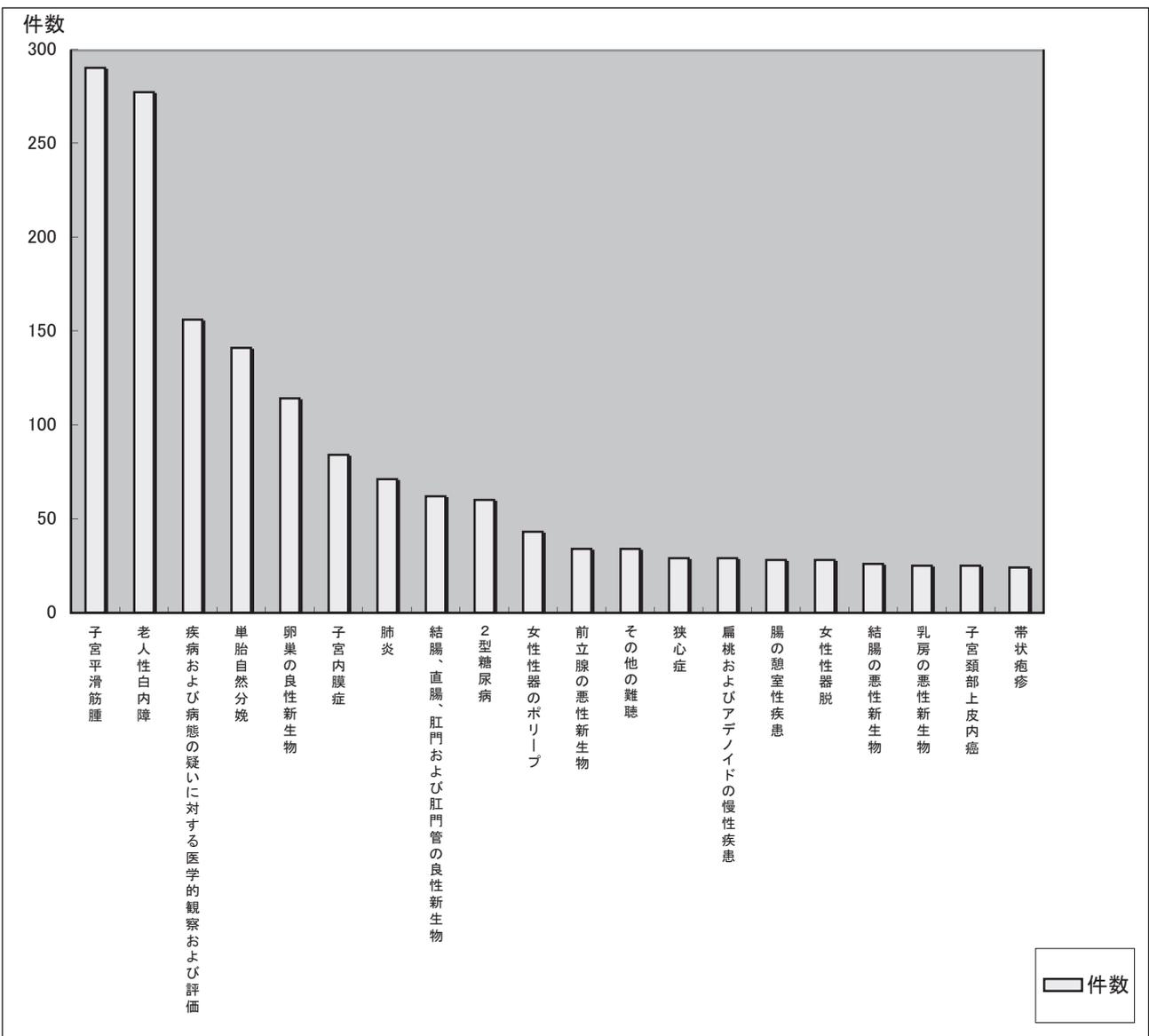
主手術名	件数	平均在院日数
体外衝撃波碎石術	27	4
消化管装具の非手術的交換術	5	24
消化管および気道の非手術的挿管術	2	20
切開を伴わないその他の場所からの腔内異物の除去術	2	2



6) 紹介入院患者 疾患トップ20

○2012年1月～12月紹介入院患者－疾患別トップ20(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	290	8
老人性白内障	277	3
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	156	1
単胎自然分娩	141	7
卵巣の良性新生物	114	8
子宮内膜症	84	8
肺炎	71	12
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	62	2
2型糖尿病	60	18
女性性器のポリープ	43	4
前立腺の悪性新生物	34	4
その他の難聴	34	6
狭心症	29	7
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	29	8
腸の憩室性疾患	28	5
女性性器脱	28	11
結腸の悪性新生物	26	20
乳房の悪性新生物	25	15
子宮頸部上皮内癌	25	3
帯状疱疹	24	11



◆ 2012年1月～12月紹介入院患者一科別疾患トップ3(件数・平均在院日数)

○ 循環器内科・神経内科

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症又は慢性虚血性心疾患	42	8
心房細動	12	16
心不全	11	47

○ 消化器内科

疾患名	件数	平均在院日数
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	140	1
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	60	2
腸の憩室性疾患	21	3

○ 総合内科

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	50	17
肺炎	23	15
下垂体疾患	8	11

○ 血液・化学療法内科

疾患名	件数	平均在院日数
悪性リンパ腫	20	48
紫斑病およびその他の出血性病態	6	34
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	5	53
骨髄異形成症候群	5	15
その他の無形成性貧血	5	45

○ 神経科・精神科

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	4	61
てんかん	3	29
神経系のその他の変性疾患	2	57

○ 小児科

疾患名	件数	平均在院日数
肺炎	32	5
急性細気管支炎	14	5
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	11	5

○ 消化器・一般外科

疾患名	件数	平均在院日数
結腸の悪性新生物	15	30
膵膵ヘルニア	15	8
胆石症	14	12

○ 乳腺外科

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	25	15
乳房の画像診断における異常所見	8	2
乳房の良性新生物	5	2

◆ 2012年1月～12月紹介入院患者一科別疾患トップ3(件数・平均在院日数)

○ 整形外科

疾患名	件数	平均在院日数
脊椎障害および椎間板障害	32	31
大腿骨骨折	13	39
肩および上腕の骨折	11	36

○ 皮膚科

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹	21	11
乾癬	9	25
蜂巣炎	6	12

○ 泌尿器科

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	34	4
膀胱の悪性新生物	22	10
前立腺肥大症	19	8

○ 産婦人科

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	290	8
単胎自然分娩	141	7
卵巣の良性新生物	114	8

○ 眼科

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	280	3
角膜のその他の障害	6	16
眼球および眼窩の損傷	2	8
移植臓器および組織の不全および拒絶反応	2	14
体内プロステシス, 挿入物および移植片の合併症	2	4

○ 耳鼻咽喉科

疾患名	件数	平均在院日数
その他の難聴	33	6
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	29	8
慢性副鼻腔炎	18	9

○ 麻酔・緩和医療科

疾患名	件数	平均在院日数
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	6	3
後腹膜および腹膜の悪性新生物	2	5
腹水	2	3
他に分類される疾患における脳神経障害	2	9

第3章 診療業務

循環器内科・神経内科

1. スタッフ

副院長兼部長 濱田偉文：浅野彰彦(神経)、仁科拓也(神経)、岡部太一(循環器)(9月～)、
中川 厚(循環器)、長谷川浩司(循環器)、
村西寛実(循環器)、八木良樹(～3月)
専攻医：岡本祐典(～3月)、高橋秀明(4月～)

2. 診療活動

循環器内科では虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症等の診断治療を行っております。その中心となる疾患は虚血性心疾患でありまして、平成24年は心エコー2433件、頸動脈エコー988件、下肢静脈エコー192件、腎動脈エコー86件、トレッドミル検査313件、ホルター心電図270件、PWV/ABI 1051件、アデノシン負荷心筋シンチ75件、冠動脈造影CT268件、血管内超音波検査150件、冠動脈造影検査507件施行し、経皮的冠動脈形成術（PCI）を129件に施行しまして良好な成績を上げています。また閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術（PTA）を22件に施行、下肢静脈インターベンション11例、下大静脈フィルター挿入6例、ペースメーカー植え込み術19例を行っております。

神経内科では、目眩や痺れといった身近な例から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応し、難病疾患の在宅療養におきましても、地域の先生や訪問看護スタッフと連携しまして、病状の変化に柔軟に対応するように努力しています。

文責 濱田偉文

2012年1月～12月－循環器内科・神経内科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症又は慢性虚血性心疾患	303	8
心不全	85	36
肺炎/(誤嚥性肺炎20件を含める)	52/(72)	22/(32)
心房細動	38	13
糖尿病	32	25
閉塞性動脈硬化症	30	16
脳梗塞/(後遺症4件含める)	24/(28)	26/(38)
感染症と推定される下痢および胃腸炎	24	10
心筋梗塞	23	18
前庭機能障害	17	15
本態性高血圧症	17	15

消化器内科

1. スタッフ

部長 中村秀次：担当部長 湯川雅彦(消化器内視鏡センター長兼任)

村本 理、稲次洋平

専攻医：三上高司(4月～)

2. 診療活動

4月から専攻医1名が加わり5名の常勤スタッフで、消化器疾患を主とした診療を行っている。消化器癌の早期発見に主眼を置き、外科・放射線科との連携のもと早期診断・早期治療に努めている。上部内視鏡検査では、拡大内視鏡、色素内視鏡を積極的に用いて診断精度の向上をはかっている。大腸内視鏡検査においては、軸保持短縮法による挿入法を用いて苦痛の軽減に努め、診断法としてはピットパターン診断を取り入れて、高い診断精度を目指している。治療的手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術を行った。膵・胆管疾患に対しては、内視鏡的逆行性膵胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行った。膵癌、胆管癌に対しては、TS-1, Gemcitabineを中心とした化学療法を行い、また進行胃癌に対しても積極的に全身化学療法を行った。肝疾患に対しては、病診連携を通じて慢性肝炎の抗ウイルス治療を積極的に行っている。B型慢性肝炎に対してエンテカビル投与を行い、C型慢性肝炎に対してPegIFN・Ribavirin・Telaprevir3者併用療法を8例に実施した。肝硬変に対しては、肝発癌抑制を目指したIFN治療、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法を積極的に行い、肝硬変患者のQOLおよび生存率の向上を目指している。肝細胞癌に対しては、放射線科医との緊密な連携の元、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法(TACE)等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例、TACE無効例、血管侵襲例、転移例に対しては、分子標的治療薬を積極的に導入し、H24年は6例に対してSorafenibの治療を行った。肝細胞癌に対して、局所療法、分子標的治療、全身化学療法、肝動注療法による集学的治療を行いQOLおよび生存率の向上を目指している。

文責 中村秀次

消化器内科症例数(2012年1月～12月)

表1 消化器内科の主な入院治療疾患(件数)

	疾患名	件数
1	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	168
2	肝および肝内胆管の悪性新生物	79
3	腸の憩室性疾患	70
4	腸のその他の疾患	39
5	慢性ウイルス性肝炎	33
6	潰瘍性大腸炎	21
7	胆石症	21
8	アルコール性肝疾患	16
9	膵の悪性新生物	10
10	急性膵炎	6

表2 内視鏡件数

	件数
上部消化管内視鏡検査	2312
下部消化管内視鏡検査	1035
内視鏡的治療	205
ERCP(EST)	44

表3 肝炎・肝癌の治療

	件数
C型慢性肝炎のPegIFN/Ribavirin療法(Telaprevir/PegIFN/RBV療法)	29(8)
肝癌の肝動脈化学塞栓療法(TACE)	60
肝癌のラジオ波焼灼療法(RFA)	9
肝癌に対する分子標的治療(Sorafenib)	6

表4 膵・胆管癌の治療

進行膵癌・胆管癌に対する全身化学療法	4
--------------------	---

総合内科（内分泌・代謝・糖尿病内科、リウマチ科、アレルギー疾患内科）

1. スタッフ

副院長兼部長 笠山宗正：担当部長 小瀬戸正博、医長 森田真也、副医長 宇都佳彦
専攻医：向井康祐（～3月）、平井孝一（～3月）、出口令子、
藤本康介（4月～）

<兼任>

佐藤文三（名誉院長）、三木俊治（救急診療科・臨床研修部）、住谷 哲（予防医学センター）
泉由紀子（予防医学センター）、鈴木真優美（予防医学センター）

<学会認定医および専門医の数>

日本内科学会認定内科医	10名	日本リウマチ学会専門医	1名
日本内科学会総合内科専門医	5名	日本アレルギー学会専門医	1名
日本内分泌学会専門医	4名	日本呼吸器学会専門医	1名
日本糖尿病学会専門医	3名		

2. 診療活動

内分泌疾患・糖尿病・関節リウマチ・膠原病・感染症を中心として専門性の高い診療を行っている。

①入院患者診療

1日の入院患者数の平均は34名であり、昨年に比べて3名増加した。

糖尿病患者の入院件数は146件（このうち1型糖尿病は17件）あり、昨年に比べて11件増加した。最近では、2型糖尿病患者であっても著しい高血糖とケトーシスを呈し入院治療となる症例が増加している。その多くは強化インスリン療法により高血糖を是正した後、経口血糖降下薬や食事療法のみで管理できる症例であった。日本看護協会糖尿病看護認定看護師と糖尿病療養指導士の資格を有する医療技能職スタッフとともに、週4回糖尿病教室を開催している。

内分泌疾患については、下垂体疾患の入院が21件、原発性アルドステロン症やクッシング症候群などの副腎疾患の入院が18件あった。

全身性エリテマトーデス、多発性筋炎などの膠原病患者の入院は13件あり、昨年より5件増加した。また、生物学的製剤による治療を中心とした関節リウマチ患者の入院も15件に増加した。さらに、喘息重責発作による入院が8件あった。

そのほか、呼吸器感染症77件、急性腎盂腎炎11件、感染性胃腸炎19件、敗血症14件など感染症の入院も多くあった。

②外来患者診療

1日の外来患者数の平均は103名、他院からの紹介患者件数は年間で557件であり、昨年より、各々4件、119件増加した（時間外受診患者を除く）。

糖尿病患者に対する外来インスリン導入や関節リウマチ患者に対する生物学的製剤による治療も積極的に実施している。

文責 笠山宗正

<外来診療日程>

	月	火	水	木	金
午前	笠山 小瀬戸 宇都	佐藤 三木 森田	佐藤 笠山 吉田	笠山 三木 宇都	小瀬戸 藤本
午後	笠山 森田 末村	佐藤 出口	佐藤 小瀬戸 泉	笠山 住谷	佐藤 鈴木

2012年1月～12月－総合内科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	129	18.1
呼吸器感染症(肺炎、誤嚥性肺炎など)	77	18.6
下垂体疾患(下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	21	9.2
感染性胃腸炎	19	7.7
副腎疾患(クッシング症候群、副腎腫瘍、褐色細胞腫、アルドステロン症など)	18	17.2
1型糖尿病	17	19.0
関節リウマチ	15	12.4
敗血症	14	18.6
脱水症	13	12.5
膠原病(全身性エリテマトーデス、多発筋炎、血管炎など)	13	23.0

血液・化学療法内科

1. スタッフ

部長 中川雅史：川上 学、石河 純

2. 診療活動

急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの血液悪性疾患および、溶血性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病など、血液疾患の全般的に診察にあたっている。

特に、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法に積極的に取り組んでいる。

同種骨髄移植に関しても、スタッフ全員が十分な経験を有しており、移植前の管理・移植病院へのスムーズな引き継ぎ・移植後ケアなどすべての面で診療を行なっている。

高齢化にともない増加傾向を認める骨髄異形成症候群に対しても、地域の血液専門診療科として、積極的に在宅・通院治療に取り組んでいる。

文責 中川雅史

2012年1月～12月－血液・化学療法内科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
悪性リンパ腫	86	36
急性骨髄性白血病	29	47
多発性骨髄腫	21	48
骨髄異形成症候群	16	23
特発性血小板減少性紫斑病	14	51
急性リンパ性白血病	10	43
肺炎	10	14
再生不良性貧血	7	35
悪性免疫増殖性疾患	3	31
無顆粒球症	3	27

神経科・精神科

1. スタッフ

部長 江川 功：高橋 励、木藤友実子

2. 診療活動：当科の診療活動は外来（専門外来を含む）、自科入院、他科入院患者の診療の3つである。

一般外来では、うつ病、パニック障害、適応障害などの一般的な加療のほか、身体表現性障害、強迫性障害、全般性不安障害などの神経症圏のものが多く、また時代を反映して認知症の患者の受診が増えている。専門外来は一般診療の時間枠内で行われており慢性疲労症候群、てんかん、睡眠障害等に対応している。外来での心理分野では、認知症スクリーニング、ストレス測定バッテリー、人格障害スクリーニング、うつ病の重症度評価などを行っている。また患者の希望に応じ一部症例ではカウンセリングも施行している。

自科入院は精神科を標榜する一般病棟での診療であり、入院患者の内訳は表に示す通りうつ病が中心となっているが、神経症圏、てんかん及び一部軽症の統合失調症の患者の入院も受け入れている。これは当科を受診する患者の傾向を一部反映していると考えられるが、一方で、精神病圏、認知症を含む症状性・器質性精神障害は入院よりも外来における診療が中心となっている。

近年入院加療を行っている総合病院精神科の減少が続いており、診療所からの紹介患者の受け入れが従来よりも高まっている。社会的要因や疾患の特徴などから単科での入院が困難なケースにはできる限り対応するように心がけている。また外来部門でも縮小や閉鎖する病院は本年も増加傾向にあり、外来数は年々増加しており、紹介以外は受け入れが困難な状態になっている。

院内の他科入院患者の診察依頼は共観および往診の形態で行われており、適応障害、せん妄、身体化病態などへの対応が中心となっている。せん妄は高齢者の入院が増えていることから増加傾向にあり、対応マニュアル等を作成することも必要かもしれない。またがん治療センターの活動の一環として緩和ケアが重要となってきているが、当科でも積極的に高橋、丸山（臨床心理士）を中心に取り組んでいる。予防センターと協力して企業のメンタルヘルス等にも取り組んでおり、企業のストレスチェックが法令化されることが予想されるのでこの分野での活動も更に推し進めていく必要がある。

文責 江川 功

2012年1月～12月－神経科・精神科の疾患(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	53	48
双極性感情障害	6	51
神経症性障害	4	75
てんかん	4	39
不安障害	3	57
神経系のその他の変性疾患	3	59
統合失調症	2	61
その他の筋障害	2	79

小児科

1. スタッフ

部長 山根秀一：植田 仁

2. 診療活動

- (a) 常勤医師数は変わりなかった。
- (b) 年間入院患者数は延べ1901人で前年に比して延べ284人減、年間外来患者数は延べ10548人で延べ412人減、救急受診者数は延べ209人、年間入院患者死亡数は0人であった。
- (c) 総入院件数は308件で前年に比して33件減、そのうち小児科入院した新生児は74件で、前年に比して6件減であった。
- (d) 一般小児科入院は例年通り、大半が感染症によるものであった。川崎病は7件で、すべて超大量ガンマグロブリン療法が著効した。他に目立ったところではITPが5件（2人）、胃腸炎関連けいれんが3件、ネフローゼ症候群が3件（2人）、肥厚性幽門狭窄症が2件、Leigh脳症が2件（1人：検査入院）、先天性神経筋疾患疑いが1件、點頭てんかんが1件、PRSP髄膜炎が1件あった。
- (e) 一般小児科入院のうち高次医療機関へ転医となったのは5件で、肥厚性幽門狭窄で入院したが発作性上室性頻拍に気づかれたものが1件、急性穿孔性虫垂炎が1件、生後9ヶ月の熱傷が1件、二分脊椎の手術後にVPシャントが留置してある児で気管支炎により呼吸不全を生じていると考えられたものが1件、ITPでガンマグロブリンに対する反応が不良で、鼻出血を再発した後に吐血を繰り返し消化管出血が疑われたものの、結局、鼻出血が止血しておらず、その後も出血のコントロールが困難であったものが1件であった。
- (f) 総出生数は441件で前年に比して6件（1.3%）減であった。そのうち約16.8%に当たる74件が小児科入院となった。仮死および呼吸障害による入院が42件（57%）と前年に比して10件増加した。在胎週数短縮もしくは低体重によるものが10件（14%）を占めた。21 trisomyの出生は1件であった。
- (g) 高次医療機関へ新生児搬送になったのは4件（5.4%）で、完全大血管転位が1件、APGARスコア2/3/5の重症新生児仮死が1件、新生児気胸で管理中に酸素飽和度の上下肢の乖離に気づかれ、新生児遷延性肺高血圧症であったものが1件、呼吸障害で先天性心疾患を疑われたが新生児一過性多呼吸+心室中隔欠損であったものが1件であった。

文責 山根秀一

2012年1月～12月－小児科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
肺炎	66	5
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	32	4
急性(細)気管支炎	43	5
感染症と推定される下痢および胃腸炎	10	5
喘息	9	4
結節性多発性動脈炎および関連病態	8	11
細菌感染症	6	5
けいれん<痙攣>	6	4
紫斑病およびその他の出血性病態	5	6
その他の細菌性腸管感染症	4	5
皮膚および粘膜病変のウイルス感染症	4	4
部位不明のウイルス感染症	4	6
急性鼻咽頭炎	4	6

2012年1月～12月－新生児の疾患(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
胎児および新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	17	8
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	13	4
新生児の呼吸窮迫	11	8
新生児吸引症候群	9	7
出産時仮死	8	7
周産期に発生した間質性気腫および関連病態	3	5
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	3	9
周産期に特異的なその他の感染症	2	8
新生児の哺乳上の問題	2	5

消化器・一般外科

1. スタッフ

部長 藤川正博：黄 泰平、前田庄平(1月－3月)、森田哲史、吉良俊彦

2. 診療活動

平成24年の治療実績および在院日数を表に示す。消化器一般外科の手術件数は全身麻酔206例、腰椎・硬膜外麻酔7例、局所麻酔31例であった。

おもな良性疾患に対する手術は、胆石症、総胆管結石症、胆嚢腺筋症など胆嚢胆管良性疾患に対する手術(胆嚢摘出術、胆道再建術など)が58例(腹腔鏡下51例、開腹7例)、ソケイ部のヘルニア修復術35例、急性虫垂炎などに対する虫垂切除術22例(うち腹腔鏡下7例)であった。胆石症では炎症が高度な症例に対しても積極的に腹腔鏡下手術を施行し、また通常の胆石症に対する場合でも、より合併症の少ない、クリップなどの異物を遺残させない“上質の腹腔鏡下胆嚢摘出術”をこころがけている。

悪性腫瘍切除手術は81例で、部位別の内訳は大腸45例(うち腹腔鏡補助下9例)、胃十二指腸22例(うち腹腔鏡補助下1例)、肝8例、胆道6例であった。各領域の悪性腫瘍の手術数は前年とほぼ同程度であった。腹腔鏡補助下結腸切除は原則として早期癌、良性腫瘍に適応を限定して行ってきたが、一部の進行癌にも適応を拡大して実施している。

在宅医療の推進とDPCの観点から、術後症例に対しての補助化学療法のみならず、進行再発癌に対する化学療法は、ほとんどの症例を外来通院で行っている。大腸癌進行再発症例に対するFOLFOX、FOLFIRI療法などの化学療法や在宅経静脈栄養のため、また他科からの依頼によるCVポート留置術を17例に行った。

文責 藤川正博

2012年1月～12月ー消化器・一般外科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
胃の悪性新生物	68	22
胆石症	50	15
結腸の悪性新生物	49	29
鼠径ヘルニア	36	10
直腸の悪性新生物	33	21
急性虫垂炎	26	9
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	21	3
悪性新生物治療後の経過観察検査	21	2
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	17	23
腸の憩室性疾患	15	7

乳腺外科

1. スタッフ

部長 西田 幸弘：橘高 信義

2. 診療活動

1) 紹介

平成20年10月より開設致しました。平成22年4月より大阪大学乳腺内分泌外科より医局員を派遣していただき2名体制となりました。

2) 診療方針

乳癌検診に関しては、マンモグラフィーと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となります。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し1週間後には結果を出すシステムです。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法センターにて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行います。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応します。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応いたします。再建術は大阪大学形成外科医局の協力のもと医員を派遣していただき一期的同時再建を施行しております。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指します。診断部門では微細な石灰化に対する診断としてマンモトーム生検も実施しております。

3) 統計

外来化学・分子標的療法は80～100例/月、超音波・マンモグラフィは約160例/月、手術数は60例（うち一期的同時再建1例）、ステレオガイド下マンモトーム生検は12例/年でした。

文責 西田幸弘

2012年1月～12月－乳腺外科の入院疾患(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
乳癌	60	14
乳腺微細石灰化症	12	2

整形外科

1. スタッフ

部長 稲岡 正裕：三木 宏真(平成24年12月31日まで)、友永 真人

糸原 朋信(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

専攻医：吉田 博一(平成24年3月31日まで)、

川本 匡規(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

平成25年4月1日付けで、松井 稔 担当部長兼リハビリテーション室長、緒方 正明 医員が着任している。

2. 診療活動

- a. 外来診療は、初診担当医1名、再診担当医1名の2名体制とした。平均外来患者数は1日約70名であった。変形性関節症や腰痛症、頸肩腕痛などに対して、薬物療法、理学療法、物理療法、装具療法、ブロック療法などの保存的治療を行った。義肢装具は火、木、金曜日の午前を作製日とした。平成24年4月1日からスタッフ5人体制となり、水曜日の外来業務を再開した。平成25年1月1日からスタッフ4人体制となったが、水曜日の初診外来業務は継続とした。
- b. 専門外来は、金曜日の午後に脊椎外来(担当：稲岡)火曜日の午後に関節外来(担当：三木、糸原)を継続し、特に専門的な対応を要する患者の診療や術後経過観察などを行った。木曜日の午後に身障診断等に関する診察を行った。
- c. 入院診療において、手術件数は、平成24年は総手術件数は225件であった。内訳は、脊椎疾患、関節疾患、外傷、及びその他に分類すると、脊椎疾患は52件、その内訳は椎弓形成術などの頸椎疾患が12件、椎弓切除術や後方進入椎体間固定術、脊椎短縮固定術など胸腰椎疾患が40件であった。関節疾患においては、人工膝関節置換術23件、半月板処置や靭帯再建術、Lavageなど膝関節鏡視下手術4件、人工股関節置換術5件、人工骨頭置換術15件、ガンマーネイルなど骨接合術10件であった。四肢の骨折に対する骨接合術や鋼線固定術62件、靭帯、腱の縫合など1件、手根管症候群や肘部管症候群など末梢神経に対する手術や腱鞘炎に対する腱鞘切開など31件、腫瘍性疾患に対する切除術や生検術22件であった。
- d. リハビリテーション室では、リハビリ診療を整形外科がバックアップした。理学療法、作業療法とともに整形外科的疾患に十分な対応ができるように配慮し、その件数は本年も昨年を上回るものとなった。
- e. 整形外科における診療及び学術に関する定期的会議としては、抄読会は毎週金曜日早朝、術前検討会議は毎週金曜日午後、病棟会議、リハビリ連絡会議は毎月1回行った。

文責 稲岡正裕

2012年1月～12月－整形外科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
脊椎障害および椎間板障害	66	29
大腿骨骨折	35	42
膝関節症	23	35
腰椎および骨盤の骨折	18	35
肩および上腕の骨折	17	29
下腿の骨折(足首を含む)	17	34
前腕の骨折	15	15
上肢の単ニューロパチー	14	10
整形外科的経過観察ケア	9	9
多部位の骨折	8	55

皮膚科

1. スタッフ

部長 東山真里(日本皮膚科学会認定皮膚科専門医)：中川幸延(3月退職)、
平野亜由子(9月退職)、高橋玲子(11月～)
専攻医：林 美沙、岡田みどり(4月～)

2. 診療活動

a. 特色

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、円形脱毛症、尋常性白斑などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。

b. 症例数・治療・成績

(外来) 2012年の外来患者数は1日平均113名。紹介患者数 45名/月。

専門外来：【乾癬外来】月平均新患者数は10名で再診は延べ300名余り。(1)1. 外用療法 2. 光線療法(入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト 3. 内服療法(レチノイド、シクロスポリンA 4. 生物学的製剤も導入。これらより個々の患者に最適な治療を選択

(2) 扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因につき精査。(3) 重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウスチキヌマブなどの生物学的製剤を積極的に導入し特に関節症性乾癬にも奏功。整形外科医と診断と治療につき連携。入院、外来とも可能。(4) 療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める【アトピー外来】重症例では光線療法やネオオーラル療法も適用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。【皮膚外科外来】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。年間手術件数260件(全身、腰椎、麻酔手術4件含む)皮膚生検数 350件/年

*医療設備 薬浴室(外来、病棟とも)全身型紫外線照射装置(UVA,UVB,ナローバンドUVB)

*外来診療 主治医制で再診は予約制。原則3診体制で診察。初診外来あり(月、水曜は東山担当)。再診外来は月～金(午前)。専門外来：乾癬外来は火、木(午後)、予約制。アトピー外来は木・金(午前)、皮膚腫瘍外来は水(午前)

*入院 新入院患者数は年間234名、1日平均10名で、帯状疱疹(76名)、重症乾癬(29名)、蜂か織炎(14名)、薬疹(14名)、皮膚悪性腫瘍(5名)、丹毒(5名)皮膚良性腫瘍(5名)など

c. 学術活動

論文：1編 学会発表および講演会：21演題

日本皮膚科学会大阪地方会、日本乾癬学会などに発表。

文責 東山真里

2012年1月～12月－皮膚科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹	76	10
乾癬	29	16
蜂巣炎	14	12
摂取物質による皮膚炎	8	9
ヘルペスウイルス感染症	7	10
多形紅斑	7	13
丹毒	5	11
皮膚の上皮内癌	5	12
良性脂肪腫性新生物(脂肪腫を含む)	5	9
紫斑病およびその他の出血性病態	5	23
有害作用,他に分類されないもの	5	5

泌尿器科

1. スタッフ

副院長兼部長 黒田 昌男：福井 辰成、花房 隆範、福本 亮(4月～)
専攻医：金宮 健翁(～3月)

2. 診療活動

- a. **膀胱癌**に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術102例、根治的膀胱全摘除術7例（自排尿型代用膀胱形成術3例・回腸導管造設術4例）に対して行いました。7例に多剤併用全身化学療法を施行しました。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防としてBCG膀胱内注入療法を53例に施行しました。膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしています。
- b. 前立腺生検を100例に行い、新たに**前立腺癌**と診断された52症例に対して、抗男性ホルモン療法25例、前立腺全摘除術（ミニマム創内視鏡下）5例、放射線治療10例を行いました（診断が平成23年で翌年に治療を行った症例を含む）。11例は悪性度が低く、余命に影響を与えない小さい癌として待機療法（治療せず経過観察のみ）としました。1例は併発していた膀胱癌のために膀胱全摘除術を行いました。
70歳以上の症例に前立腺全摘除術を行うと、尿失禁を生じやすいことから、全摘は原則として70歳未満の症例に対して行うことにしています。前立腺外に浸潤する癌に対しても、本邦では抗男性ホルモン療法を行った後に前立腺全摘除術がよく行われていますが、再発率が高く、癌が残るのみならず尿失禁も残るため、前立腺全摘除術は癌が前立腺内にとどまっている病期のみに限るようにしています。抗男性ホルモン療法の副作用を軽減し医療費も節約できる間断的抗男性ホルモン療法を取り入れています。
- c. **前立腺肥大症**に対する外科的治療として、経尿道的前立腺切除術（経尿道的核出術を含む）15例、前立腺被膜下摘除術7例を行いました。腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術（TUEB）を主に行っています。
- d. **尿路結石**（腎結石、尿管結石）に対して、入院して体外衝撃波碎石術（ESWL）を行ったのが47例、外来通院で61例に行っています。経尿道的膀胱碎石術を3例に、経尿道的尿管碎石術を8例に行いました。
- e. 経尿道的手術以外の**内視鏡手術**を8例に行いました。腎癌に対する腎摘除術2例、腎部分切除術1例、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘除術3例、副腎摘除術2例です。手術時間はやや延長しますが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できます。現在、対象としているのは、腎悪性腫瘍、腎盂尿管悪性腫瘍、水腎症、尿管狭窄、副腎腫瘍などです。腎悪性腫瘍、後腹膜腫瘍で、開腹手術を行った症例は、各々8例、1例で、大きな悪性腫瘍以外は内視鏡手術を行うことにしています。
- f. 高カルシウム血症を呈する副甲状腺機能亢進症に対して、副甲状腺摘除術を2例行いました。
- g. 慢性腎不全症例に対して血液透析を行っています。9例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行いました。

文責 黒田昌男

2012年1月～12月－泌尿器科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
膀胱の悪性新生物	110	12
前立腺の悪性新生物	78	10
前立腺肥大症	34	8
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	25	3
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	20	3
腎結石および尿管結石	18	5
急性腎盂腎炎	16	12
腎盂を除く腎の悪性新生物	10	16
前立腺の炎症性疾患	10	7
精巣の悪性新生物	7	16

産婦人科

1. スタッフ

副院長兼部長 船渡孝郎：佐伯典厚、大塚博文、高山敬範(4月～)、羽田野悠子(4月～)
 橋本奈美子、小玉美智子(～6月)、吉見佳奈
 専攻医：尾上昌世、祝 小百合(4月～)

2. 診療活動

今年度は愛染橋病院から高山医師・大阪日赤病院から羽田野医師・大阪大学から専攻医1年目の祝医師の3名がスタッフに加わり徐々に10名でスタートしました、しかし吉見医師が子育て支援制度を受けられ常勤嘱託医の身分になられ、また6月に内視鏡技術認定医の小玉医師がアメリカ留学の為に退職され、これらのことにより実質的には昨年度より戦力ダウンとなりました。先進医療の腹腔鏡下子宮体部癌根治術は1症例実施しました。今年度は新たに先進医療である腹腔鏡下仙骨腫固定術(LSC)の認可をとるために当院倫理委員会の承認を受け手術を行っております。手術総数は968件(産科手術181件)を実施し過去最高件数を実施いたしました。また地域医療ではニッセイ産婦人科病診連携懇話会を6月にANAクラウンホテルで開催し、多数の診療所の先生方と密に意見交換をいたしました、また第2回ニッセイ産婦人科内視鏡研究会を開催し、平地会の若手医師の内視鏡技術指導をいたしました。

a) 産科

分娩件数445 帝王切開術72件 帝王切開率16.1%

b) 婦人科

内視鏡手術

#腹腔鏡下手術494件

TLH:129 TLM:103 LAM:41 卵巣嚢腫:138 内膜症性嚢腫74

子宮体癌根治術(先進医療):1 子宮外妊娠:2 その他:6

#子宮鏡下手術(TCR):102

開腹手術

単純子宮全摘術:16 筋腫核出術:3 広汎子宮全摘術:6 卵巣癌:23(LPMを含む)

子宮体部癌:7 C/S:72 その他:19

経膣手術

円錐切除術:78 子宮内容清掃術:57 その他:52

骨盤臓器脱

TVM:34 その他:5

文責 船渡孝郎

2012年1月～12月－産婦人科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	323	8
単胎自然分娩	311	7
卵巣の良性新生物	134	8
子宮内膜症	98	8
女性性器のポリープ	53	4
卵巣の悪性新生物	47	16
女性性器脱	41	11
既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	40	9
受胎のその他の異常生成物	35	2
子宮頸部の悪性新生物	33	8

眼科

1. スタッフ

部長代行 島袋 幹子：瀬口 道秀

当院眼科は大阪大学眼科の関連病院で、医師：常勤2名、非常勤医師4名、看護師：3名（うち非常勤1名）、視能訓練士：4名（うち非常勤2名）、眼鏡士2名の体制で、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めております。質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げています。また病診連携を積極的に進めており、オープンシステムも推進し、かかりつけ医との連絡を密に取りながら、診療を行っております。

2. 診療活動

a. 全般

一般的な眼科疾患の診断・治療、特に白内障手術、角膜移植手術、緑内障手術、網膜硝子体手術など幅広く行っています。2012年ののべ手術件数は白内障655件・緑内障4件・網膜硝子体4件・角膜移植術12件・眼瞼形成手術4件、など観血的内眼手術679件でした。

b. 白内障手術は主として一泊入院体制を中心に、あるいは日帰りで、患者様の希望に沿った入院期間を設定しています。術式は99%以上が角膜小切開超音波白内障手術+foldable眼内レンズ挿入術（切開創2.2～3mm）で、重篤な術後合併症も認めませんでした。LASIK術後の方の白内障手術も可能です。

c. 角膜移植術については、輸入角膜による予定入院の手術体制をとり、我が国のドナー角膜の提供を待つ場合と異なり、ある程度ご希望に合わせた日程で手術の施行が可能です。角膜白斑、水疱性角膜症、角膜変性症などを主な適応とし、一般的には2週間程度の入院で、全層角膜移植、表層角膜移植、上皮移植、角膜内皮移植（DSAEK）などを症例に応じて施行し、重篤な合併症も認めていません。角膜内皮移植においてケラトームで2度切除するUltra-thin-DSAEKを日本で初めて取り組みました。

d. 緑内障では、眼圧日内変動測定入院の必要な症例では適宜施行し、眼圧日内変動パターンに応じて個々の患者様に最適な、24時間単位の質の高い眼圧コントロールを心がけています。閉塞隅角緑内障には超音波生体顕微鏡（UBM）による隅角閉塞機序の診断を積極的に追加し、開放隅角緑内障には選択的レーザー線維柱帯形成術（SLT）も積極的に施行しています。手術治療が必要な症例には主にトラベクトミーを選択し、術後合併症も重篤なものを認めていません。

e. 網膜・硝子体疾患については、増殖硝子体網膜症疾患、特に黄斑浮腫例（糖尿病性、網膜静脈閉塞など）に対して積極的に手術治療を選択し、大部分の例では網膜機能の改善を得ています。

f. 眼瞼痙攣症例にボトックス注射を、加齢性眼瞼下垂症例に手術加療を行っています。

文責 島袋幹子

2012年1月～12月—眼科の疾患(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	527	3
角膜のその他の障害	15	20
緑内障	5	27
体内プロステシス,挿入物および移植片の合併症	4	4
眼球および眼窩の損傷	3	11
網膜の障害	3	16
水晶体のその他の障害	2	7
移植臓器および組織の不全および拒絶反応	2	14

耳鼻咽喉科

1. スタッフ

部長代行 赤羽 誉：谷口由希子(～3月)、細野研二、今泉哲宏(～9月)
 岡安 唯(4月～)
 専攻医：尾崎大輔(10月～)

2. 診療活動

平成24年4月と10月にスタッフの勤務交代があった。従来からの急性炎症疾患（咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎など）、慢性疾患（副鼻腔炎、めまい、難聴など）、頭頸部腫瘍に対する集学的治療を行い、最近では耳科領域の手術にも積極的に取り組み、1年間で施行した手術は264例（全身麻酔181例、局所麻酔83例：前年度とほぼ同数、ここ数年間は250～270例/年を推移）であった。

- a. 外来診療 月～金曜日の午前一般診療に加えて、午後の専門外来では、頭頸部腫瘍は赤羽、補聴器外来は細野が継続し、めまい外来は谷口から岡安が引き継いだ。また、4月より開始した甲状腺外来は今泉が担当し、退職に伴い尾崎により引き継がれた。火曜日は以前同様に終日手術日のため、手術担当医以外の1名で初診患者の診療を行った。
- b. 入院診療 外来通院で対応困難な急性炎症疾患（摂食困難、膿瘍形成、高度腫脹など）や顔面神経麻痺・突発性難聴に対するステロイド治療（とくに糖尿病の合併を有する場合）の緊急入院治療を行った。手術治療では、習慣性扁桃炎や慢性副鼻腔炎などの炎症性疾患、慢性中耳炎に対する鼓膜・鼓室形成術、さらに頭頸部腫瘍領域の唾液腺・甲状腺腫瘍の手術、咽喉頭癌に対する化学・放射線治療、また癌摘出後の再建手術も4例に行い無事退院された。ここ最近では、積極的に耳科領域の手術にも取り組んだ結果、昨年度と比較して、2倍以上の手術件数増加となり、今後、さらなる増加に取り組みたい。
- c. 特殊検査 めまい症に対する平衡機能検査、赤外線眼振計、補聴器適合検査
 頸部腫瘍（甲状腺、唾液腺、リンパ節など）に対するエコー下穿刺細胞診
 脳血管障害や頭頸部癌再建術後の嚥下造影検査
- d. 主な手術治療

口蓋扁桃摘出術	53例
鼻内内視鏡手術	37例（57側）
鼻中隔矯正術	13例
鼓膜・鼓室形成術	23例（24側）
喉頭微細手術	18例
唾液腺腫瘍手術	9例
甲状腺・副甲状腺手術	15例
頭頸部癌再建手術	4例
喉頭全摘・部分切除	4例
口腔・咽頭癌に対する手術	5例
頸部郭清術	12例（18側）

文責 赤羽 誉

2012年1月～12月－耳鼻咽喉科の入院治療トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
扁桃・アデノイドに対する手術治療	53	7.5
急性難聴に対する薬物治療	47	6
急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍に対する消炎治療	47	6
めまい症状に対する薬物治療	37	8.1
慢性副鼻腔炎に対する手術治療	33	8.9
慢性中耳炎に対する手術治療	23	8.6
顔面神経麻痺に対する薬物治療	18	5
甲状腺・副甲状腺に対する手術治療	15	11.6
唾液腺腫瘍に対する手術治療	9	11.6
頭頸部癌(口腔・鼻・咽・喉頭癌)に対する手術・放射線治療	19	54.7

放射線科

1. スタッフ

部長 三谷 尚：岩澤 仁、橋本尚子

(技師長) 在津裕明

2. 診療活動

当院放射線科は、腹部超音波検査、消化管造影、CTやMRIなどの画像診断はもとより、放射線治療、各種IVRを施行しております。三谷 尚が日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本IVR学会専門医、検診マンモグラフィー読影認定医、岩澤 仁は日本医学放射線学会放射線診断専門医、検診マンモグラフィー読影認定医、日本がん治療認定医機構認定医、日本がん検診診断学会認定医、日本IVR学会専門医、日本肺がんCT検診認定機構認定医、日本脈管学会専門医、日本人間ドック学会認定医であります。

3. H24年(2012.1.1-2012.12.31)

1) 各種IVR施行件数

i) vascular IVR ; 77件

肝細胞癌などの悪性肝腫瘍のTACE 62件、膵悪性神経内分泌腫瘍のTAE 3件、BRTO 1件、腹腔内仮性動脈瘤塞栓術1件、止血目的の動脈塞栓術4件、経皮経門脈塞栓術1件、肝動注5件

ii) nonvascular IVR ; 55件

臓器生検 ; 17件

膿瘍ドレナージ術、胆嚢ドレナージ術 ; 17件

PTBD ; 7件、胆管ステント留置術 : 2件

RFA ; 12件

以下はH24年実績(2012.1.1-12.31)

2) 放射線治療

症例数 ; 124例

症例内訳

頭頸部 17例

乳癌 40例

食道癌 2例

肺癌 2例

肝、胆道系悪性腫瘍 2例

前立腺癌、膀胱癌 10例

悪性リンパ腫 10例

子宮、卵巣悪性腫瘍 1例

転移性骨腫瘍などその他 47例

文責 三谷 尚

麻酔・緩和医療科

1. スタッフ

部長 川原玲子：花田留美、奥野聡子、山崎恭子、玉井 裕、本庄郁子(4月より)
専攻医：清水梨江

2. 診療活動

a. 当科の特徴

手術時の麻酔を担当しています。全身麻酔はもちろんですが脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもあります。術中管理を行うにあたり、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っています。術前診察では手術前に問診・検査結果・診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い手術に適した麻酔法を選択します。麻酔法およびその合併症について患者さんに説明・承諾していただくため非常に重要です。術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA (Patient Controlled Analgesia) 装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用しています。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ抜去まで行います。

ペインクリニックも麻酔科で行っています。ペインクリニック外来は毎日、透視下ブロックは月曜日午前に行っています。癌性疼痛管理にも携わり、緩和医療にも積極的に折り組んでいます。高周波熱凝固を用いた恒久ブロックや外来通院での麻薬の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れています。麻薬を持って海外旅行をされた患者さんもおり、痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目標としています。平成20年2月より緩和ケアチームが発足し、回診とカンファレンスを開始しました。緩和ケアの確立にも麻酔科は積極的に関わっており、副主治医として緩和ケアチーム依頼患者に対応しています。

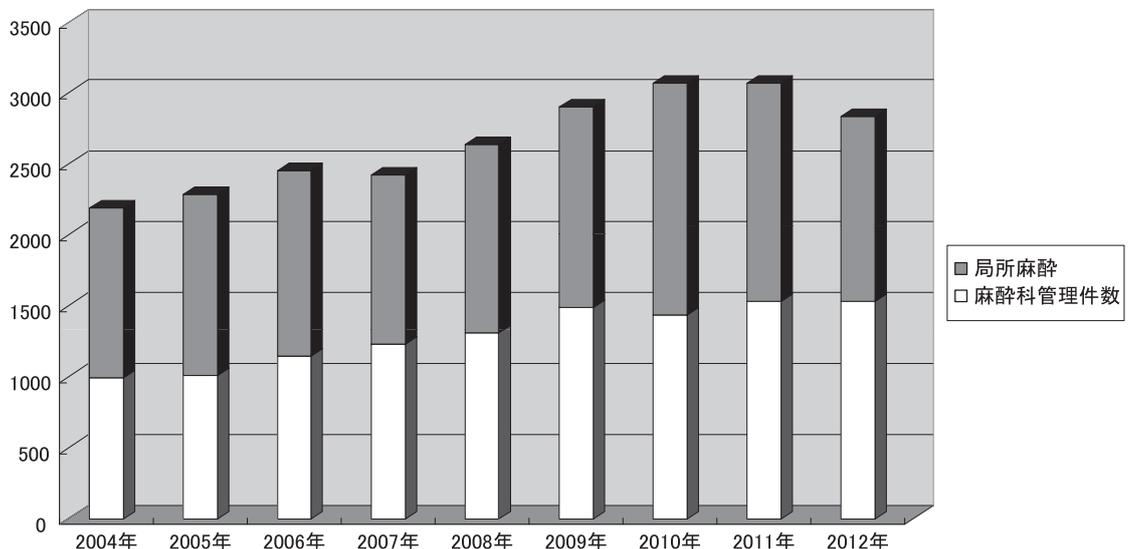
教育にも携わっています。平成16年4月より新研修医制度がスタートしました。当院のプログラムではスーパーローテートと言って1年目の1~2ヶ月は麻酔科を研修します。そこで私たちも麻酔業務の傍ら、研修医を教育しています。常に1人から2人の研修医を預かるのはなかなか大変です。ただこうして若い人たちが増えたことで現場が活気付いたことは思わぬメリットでした。ICLS講習会や緩和ケア研修会も開催し、一緒に学んでいます。一般病院で育つ医師像を模索しつつ、教育活動を続けていきたいと考えています。

b. 平成23年の診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成 24 年は 2833 件となりました。この手術件数を維持するだけでも麻酔科医の負担は顕著ですが、全身麻酔のみならず重症例の全身管理など麻酔科医のニーズが高まっているのは全国的で、マンパワーが不足しています。

ペインクリニックの平成 24 年の外来患者総数は 6146 人でした。ペインクリニックの新規患者様は他科あるいは他院からの紹介がほとんどで紹介元の科と共同で診療・治療に当たることが多くあります。病診連携が最も必要な科とも言えるでしょう。緩和の広がりの中で癌性疼痛に対する永久ブロックに積極的に取り組んでおり、高周波熱凝固・フェノール・アルコールなどを用いて癌の痛みを和らげたり、硬膜外ポートを埋め込み在宅で PCA による鎮痛を計ることで、帰宅できた方もありました。放射線科の協力のもと開始しましたコーンビーム CT ガイド下内臓神経ブロックは、従来の方法に比し、安全性・確実性が向上しました。また腹水濾過濃縮再静注法 (Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy : CART) も開始し、がん性腹膜炎による腹水の治療も開始しました。他院でがんの治療中の患者さんの CART も 3 日ほどの入院で始め、病病連携が深まっています。ブロックや腹水処理などの積極的な症状緩和に加え、デイグニティーセラピーなども取り入れ、患者さんの Quality Of Life を高めることを目標にしています。

文責 川原玲子



病理診断科

1. スタッフ

副院長兼部長 黒田昌男：臨床検査技師 3名

2. 病理検査の集計

平成24年病理検査の集計は表に示した通りで、病理組織検査は年間4,225件（前年比0.8%減少）、術中迅速診断は121件（9.0%増加）で、免疫染色は393件（4.0%増加）であった。細胞診は年間9,705件（5.6%増加）で、婦人科系が6,135件と63.2%を占めた。病理解剖は12件（昨年比9.0%増加）で、院内剖検率（内科）は9.1%から14.5%と増加した。病理解剖内訳は、内科系12件（剖検率14.5%）、外科系0件であった。

CPCの開催は18回行われ、内容は下記の示す如くであった。

- 192回01月26日：腹部大動脈瘤（総合内科）
- 193回02月10日：成人T細胞白血病（血液・化学療法内科）
- 194回02月24日：成人T細胞白血病（血液・化学療法内科）
- 195回03月09日：慢性骨髄性白血病、急性肺炎（血液・化学療法内科）
- 196回05月11日：間質性肺炎（循環器・神経内科）
- 197回05月18日：胃癌+腎癌術後（泌尿器科・消化器内科）
- 198回06月08日：C型肝硬変+肝細胞癌（消化器内科）
- 199回06月15日：原発性胆汁性肝硬変+脊椎椎間板炎（総合内科）
- 200回07月13日：肺炎+肺気腫+前立腺癌（総合内科）
- 201回07月20日：MDS+肺炎+DIC（血液・化学療法内科）
- 202回08月10日：C型肝硬変（消化器内科）
- 203回09月14日：胃癌術後+敗血症性ショック（循環器・神経内科）
- 204回09月28日：多臓器不全+DIC（総合内科）
- 205回10月12日：敗血症+直腸癌+皮膚筋炎+両側腎細胞癌（総合内科）
- 206回10月26日：肺炎+慢性心房細動+心不全（循環器・神経内科）
- 207回11月16日：胃癌術後（消化器・一般外科）
- 208回11月30日：膀胱癌+転移性肝癌+腹膜播種、間質性肺炎（消化器内科）
- 209回12月21日：右胸水貯留+肺炎+胸膜炎疑い（総合内科）

3. 診療方針

病理学的組織診断を正確に行うためには臨床各科と患者の医療情報交換を密にする様に心がけています。電子カルテ導入により、臨床情報の入手が容易となり、病理医と臨床各科とより密に正確な情報交換が可能となり、より正確な診断が出来る様になったと思います。

また、病診連携の重要性が言われており、紹介患者の医療情報を必要十分に得るためにも紹介医療機関の医師との情報交換も密にする必要があり、病理に関することの疑問点やその他病理情報が必要である場合には病理医に直接連絡できる体制にしているので、ご連絡よろしく申し上げます。

文責 黒田昌男

平成24年
(2012) 組織

細胞診

	入院	外来	件数 (内視鏡)	入院	外来	組織数	術中迅速	免疫染色	剖検数	婦人科 (ドック)	その他 (ドック)	細胞診 計
H20	1992	1179	3171 (884)	2438	1207	3645	92	251	11	4906 (1049)	4375 (1163)	9281
H21	2184	1106	3290 (674)	2785	1157	3942	127	303	12	5250 (1511)	4717 (1495)	10237
H22	2395	1326	3721 (692)	2964	1381	4345	147	412	16	5624 (1941)	4354 (1140)	9978
H23	2291	1317	3608 (598)	2870	1390	4260	111	378	11	5738 (2232)	3452 (0)	9190
H24	2322	1258	3580 (717)	2911	1314	4225	121	393	12	6135 (2496)	3570 (0)	9705

救急診療科

1. スタッフ

部長 三木俊治：部長代理 中川 厚(循環器・神経内科副部長兼任)

★高橋秀明、★三上高司、★出口令子、★藤本康介(★内科専攻医)

▲駒田 暢(▲初期研修医2年目)

●小田晃義、●佐藤和明、●清水 綾、●豊田新一郎、●田中 智、●山元麻生
(● 初期研修医1年目)

2. 診療活動：平成23年4月より診療開始

a. 外来診療

内科初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、初期研修医のプライマリケア、内科2次救急に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムの一環となっている。

平成24年外来診療患者数：平成24年1月～12月

	24年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
初診	男	37	47	44	37	32	29	59	42	54	51	52	52
再診	男	42	34	44	35	31	34	27	32	27	29	44	43
合計	男	79	81	88	72	63	63	86	74	81	80	96	97
初診	女	32	42	37	44	44	45	46	40	58	52	67	45
再診	女	44	34	42	29	40	45	33	21	27	41	66	50
合計	女	79	76	79	73	84	90	79	61	85	93	133	95
初診	小計	69	89	81	81	76	74	105	82	112	103	119	99
再診	小計	86	68	86	64	71	79	60	53	54	70	110	93
合計	小計	155	157	167	145	147	153	165	135	160	173	229	192

b. 入院診療

当科にて診察の後、入院の必要がある場合は、各専門分野診療科に紹介し、入院とすることを原則とするが、短期間での入院経過観察患者は一部当科での入院となる。

平成24年入院患者数：平成24年1月～12月：15名(内8名は入院後 転科)

疾患名	件数	平均年齢	平均在院日数(転科症例は除く)
憩室炎	3	50歳	7日
胃潰瘍	2(1)	78歳	5日
虫垂炎	(2)	43歳	

膵膜炎、適応障害、アルコール性肝硬変、(狭心症)、(脳梗塞)、(めまい)、(肺炎)、(腎盂腎炎) 各1
():入院後転科症例

文責 三木俊治

がん治療センター

1. スタッフ

センター長 黒田昌男

[がん治療センター運営委員会]

藤川正博(消化器・一般外科)、中川雅史(血液・化学療法内科)、江川功(神経科・精神科)、川原玲子(麻酔・緩和医療科)、石垣直也(放射線科)、野村浩英(薬剤部)、東郷豊子、小山佐知子、松浦三月(以上看護部)、許斐正啓(総合企画部)、川口義樹(あったかサポートセンター)、村上学(医事サービス部)]

[緩和ケアチーム チーム長 川原玲子(麻酔・緩和医療科)]

回診メンバー 寺川直樹(産婦人科)、高橋励(神経科・精神科)、森真由子(薬剤部)、小山佐知子、國友実加(以上看護部)、本家裕子、松榮優子(以上あったかサポートセンター；医療ソーシャルワーカー)、丸山加奈(神経科・精神科：非常勤；臨床心理士)]

2. 活動

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

・主たる業務

- ①がんに関する集学的治療の充実
- ②緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する院内外の教育研修
- ③がん治療に関する相談対応、情報提供
- ④がん登録の推進

・外来化学療法室

10床の外来化学療法室を有効に活用し、関係各科と連携しつつ、安全な治療を円滑に実施した。

・緩和ケア

緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスの開催、月2回の各職種による定例勉強会・症例検討会の開催を行なった。

がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「日生病院緩和ケア研修会」を、講師・参加者とも近隣の他医療機関からも参加者を得て開催した。

全職員及び近隣医療機関職員を対象とした、緩和ケア講演会を開催した。

・レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、化学療法オーダーシステムを導入し、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

・相談支援

がん相談の充実と、図書情報コーナーの整備を進めた。

・がん登録

入院患者全件並びに、一部外来での登録を行った。

・広報

パンフレット、ホームページの更新を行った。

文責 黒田昌男

低侵襲医療センター

1. スタッフ

センター長 船渡 孝郎

〔低侵襲医療センター運営委員会〕

中川 厚(循環器内科)、藤川 正博(消化器・一般外科)、福井 辰成(泌尿器科)

大野 典子、瓜本 恵美子(看護部)、許斐 正啓、上垣内 健(事務)

2. 診療活動

このセンターの特色は各診療科の個々の協力がなければ発展していかない部門である。
今年度を振り返り次年度の活動はより広報に力をいれて診療実績の向上に努力したい。

a 治療部門 (抜粋)

低侵襲手術件数：1909件 (2012年1月～2012年12月)

前年2067件 (2011年1月～2011年12月)

胃内視鏡検査：2196件 (2012年1月～2012年12月)

前年1951件 (2011年1月～2011年12月)

白内障手術：634件 (2012年1月～2012年12月)

前年715件 (2011年1月～2011年12月)

子宮鏡検査：164件 (2012年1月～2012年12月)

前年159件 (2011年1月～2011年12月)

b 学術部門

研修医・コメディカル対象：インターベション治療バーチャル体験実施

内視鏡手術トレーニングルーム：通年での研修医への開放

c 広報 (サービス) 部門

【ニッセイ[夏休み子ども医療体験2012]】：2012年7月～8月

鏡視下手術にチャレンジコーナー設置

【第2回ニッセイ産婦人科内視鏡研究会】：2012年10月

【低侵襲医療イベント2012】：2013年2月

代表的な低侵襲医療のパネル展示を実施予定

文責 船渡孝郎

糖尿病センター

1. スタッフ

センター長 笠山宗正：医師：住谷 哲、看護師 角南ちえ子、井上恵子、川瀬俊子
 管理栄養士：米田育子（～3月）、出口暁子、山原瑞穂（～2月）、
 池上理絵（～3月）、松村寿美（4月～）、伊藤有希子（4月～）

2. 糖尿病センター運営委員会

院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる運営委員会において、当センターにおける業務内容を検討している。

＜運営委員会委員＞

笠山宗正、濱田偉文、中村秀次、江川功、林美沙、瀬口道秀、住谷哲、東郷豊子、角南ちえ子、
 在津裕明、廣田将史、柳川友加、野村浩英、出口暁子、森本洋子、許斐正啓、坂本一郎

3. 年間活動

糖尿病センターでは、糖尿病患者および過食・運動不足などの生活習慣が関与する肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

①オーダーメイド糖尿病診療

毎週月～木曜日の4日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、きめ細やかな患者指導を行っている。30分枠の完全予約制とし、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を行っている。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。平成24年に当センターを受診した患者数は760名であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施している。平成24年における実施件数は70件であった。

また、平成24年4月からは、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による指導管理も実施した（糖尿病透析予防指導管理）。平成24年における実施件数は34件であった。

③糖尿病集団指導

入院糖尿病患者を対象として、総合内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導（糖尿病教室）を週4日実施した。

④日生病院糖尿病フェアの開催

世界糖尿病デーにあわせて、糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を行い、糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行った。当センターのスタッフを中心に、パネル展示、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

＜日時＞平成24年11月15日（木）、16日（金）11:30～13:30

＜場所＞日生病院外来玄関ホール

＜内容＞・糖尿病啓発のためのパネル展示 ・お薬相談、災害時のための薬管理
 ・血糖測定・HbA1c測定 ・栄養素と血糖の関係、果物糖質クイズ
 ・フットケア ・医療相談
 ・頸動脈エコー ・運動指導、筋肉量測定 など

⑤公開セミナーの開催

患者および一般市民を対象に「日生病院糖尿病センター公開セミナー」を開催した。

＜日時＞平成24年4月7日（土）14:00～16:00

＜場所＞日生病院別館講堂

＜内容＞第1部 講演：『糖尿病と心臓病』

・糖尿病と心疾患の関係～症状の少ない狭心症の早期発見、治療について～
 （循環器内科：中川厚副部長）

・糖尿病・心臓病におすすのお食事は？（栄養管理室：出口暁子課長）

・みんなでやってみよう！今すぐできる運動！

（リハビリテーション室：廣田将史理学療法士）

第2部：『アマチュア落語』

出演：桂文喬主催落語研究会

⑥糖尿病患者友の会「錦会」に対する支援活動

糖尿病患者会の関連行事に対して支援活動を行った。

1) 錦会総会・食事会：平成24年7月20日（金）

2) 糖尿病ランチ&トーク：
 平成24年11月30日（金）

文責 笠山宗正

＜外来診療日程＞

	月	火	水	木	金
午前	○	○	○	○	
午後	○	○	○	○	

消化器内視鏡センター

1. スタッフ

センター長 湯川雅彦

[消化器内視鏡センター運営委員会]

委員 住谷 哲(予防医学センター部長)

委員 森田 哲史(消化器・一般外科)

委員 稲次 洋平(消化器内科)

委員 芳賀 宣子(看護師)

委員 森本 洋子(患者様サービスG)

委員 榎本 知奈美(看護師)

2. 診療活動

消化器内視鏡センターは、日生病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上をめざしております。消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療をめざしております。予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日生病院での検査、加療を行っております。また、安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導いたしてまいります。地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約いただける便宜をはかり、日本消化器内視鏡指導施設の役割を果たしてまいります。

A. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術 (EMR)

内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL)

内視鏡的胃瘻造設術 (PEG)

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影 (ERCP)

内視鏡的乳頭括約筋切開術 (EST)

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術 (ENBD・ERBD tube)

下部消化管内視鏡

軸保持短縮挿入法・診断・治療

上部胃内視鏡検査：2312件（2012年1月～2012年12月）

下部内視鏡検査：1035件

予防医学センター内視鏡室 上部内視鏡検査：1439件

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：

内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

文責 湯川雅彦

1. スタッフ

センター長 中村秀次：医務部長 住谷 哲

泉由紀子、高島周志、鈴木真優美、佐藤文三(特別顧問)

2. 平成24年の概要

人間ドック受診者総数は7624名に達し、対前年度1110名増（17.0%の増加）と引き続き大きな伸びを示した。定期健康診断受診者は33277名と、前年度より約2%増加した。特定保健指導は社会的背景もあり減少した。健診精査内科は、人間ドック受診者数の増加を反映し、また定期健診受診者からの新たな紹介体制の確立により、受診者数は堅調に推移し、1850名に達した。以上より総収入としては6億1850万円となり、収支では7000万円の黒字となり、黒字幅を拡大して4年連続して償却前収支黒字を実現することができた。

人間ドック受診者の年代別、性別の要治療率、要精密検査率は表2に示す。40歳未満では要治療8.4%、要精密48.6%であるが、50歳台で要治療16.0%と上昇し、要精密64.4%と6割を超え、60歳以上では要治療14.4%とやや低下するも、要精密は69.1%まで上昇した。要治療、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。今年は眼科疾患が増加し、男性で1位となり22.7%を占めた。女性では前年度より5%増加し3位に入った。生活習慣病の高脂血症はリピート率の向上と指導、加療の効果により前年度より男性で10%、女性で8%低下し、男性で4位、女性で2位となった。糖尿病も男性でやや低下し3位に後退した。一方、生活習慣病の高血圧は男性で3%増加し2位に入った。また、腎・尿路疾患は5.6%増加し、女性で1位となり、男性で5位を維持した。女性では婦人科疾患は17.8%とやや低下し4位となり、乳房疾患は13.3%と5位を占めた。精度の高い健診に努め、悪性疾患の発見は24名（0.31%）であった（表4）。この内 20名（83.3%）が早期癌であった。

D1,D2判定者で健診精査内科および直接に日生病院各科に紹介した患者は大幅に増加した（表5）。健診精査内科以外では、消化器内科、眼科、乳腺外科が上位を占めた。再検率は36.4%と、昨年よりわずかに上昇した。再検率のアップが今後の課題である。

健診の質の面からは、看護師による専門的なケア、保健師による指導、専門技師による検査、専門医師による診察、読影、診断、およびダブルチェック体制を継続徹底するとともに、当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科健診の週4日体制を維持し、月2回のレディースデイを2診体制とし、午後の乳がん検診も引き続き実施した。22年度より開始しているメンタルヘルスサポート事業では、新たな解析ソフトを導入してサービスの向上を諮っている。また、運営体制を見直し、待ち時間の短縮に成功した。受診者のリピート率の向上を目指しているが、24年は65%に達した。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として27施設、約2500名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、今年も引き続き8月に母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を実施し、済生会の公益性の向上と地域福祉に貢献した。

労働安全衛生分野における産業医の重要性の高まりを踏まえ、近隣企業への産業医派遣体制を構築し、今年新たに済生会職員数名の認定産業医を養成し、非常勤産業医として派遣した。

学術活動として、恒例の「あわぎ産業医セミナー」を4月に開催し（特別講演：大阪大学名誉教授、隈病院顧問 網野信行先生）、132名の産業医、日生病院登録医の参加を得た。学会活動として人間ドック学会に2題発表し、雑誌「人間ドック」に投稿した。更に、各医師が専門領域の学会でも発表した。日生医誌に論文1篇掲載された。

表1. 定期健康診断・人間ドック受診者数

	H24年 名	対前年 %	備考
定期健康診断	33,277	101.9	
人間ドック(日帰り)	4,473	120.6	標準コースの人間ドック
人間ドック(生活習慣病など)	3,151	112.4	協会けんぽなどの簡易人間ドック
人間ドック 合計	7,624	117.0	

表2. 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目と要精密検査項目の頻度

	要治療項目(治療中を含む) (D1)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	11.1%	27	5.9%	16	8.4%	43
40-49歳	18.0%	96	11.8%	83	14.4%	179
50-59歳	16.5%	87	15.6%	105	16.0%	192
60歳以上	13.8%	70	11.1%	60	12.4%	130
総計	15.5%	280	12.1%	264	13.6%	544

	要精密項目 (D2)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	41.6%	101	55.0%	148	48.6%	249
40-49歳	57.6%	307	56.2%	397	56.8%	704
50-59歳	67.6%	356	62.0%	417	64.4%	773
60歳以上	73.2%	372	65.2%	352	69.1%	724
総計	62.7%	1,136	60.1%	1,314	61.3%	2,450

※ 健診システム(HI-NET)より標準人間ドックコースのみ、判定D1(要治療)、D2(要精密検査)を抽出
 %は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数*100
 総計の%は性別総計数/全受診者数*100

表3. 性別による要治療・要精密検査の上位5項目(日帰り人間ドック受診者)

NO	男性				NO	女性			
	要治療・ 要精密検査項目	1930 人数(名)	占率	(ご参考) H23占率		要治療・ 要精密検査項目	1630 人数(名)	占率	(ご参考) H23占率
1	眼科疾患	439	22.7%	20.4%	1	腎・尿路疾患	398	24.4%	19.6%
2	高血圧	435	22.5%	19.4%	2	高コレステロール血症	392	24.0%	32.3%
3	糖尿病	425	22.0%	23.6%	3	眼科疾患	333	20.4%	15.9%
4	高コレステロール血症	333	17.3%	27.2%	4	婦人科疾患	290	17.8%	19.3%
5	腎・尿路疾患	298	15.4%	9.5%	5	乳房疾患	217	13.3%	12.9%

※ 各検査項目の数値・判定より抽出(センター医師による判断)
 %は検査項目受診数/5項目総受診者数*100

表4. 悪性疾患の発見率

	人数(名)	占率	
癌診断者	24(早期20)	0.31%	乳癌5名、大腸癌5名(直腸1名)、胃癌7名(早期3名)、 子宮頸癌5名(上皮内癌3名)、甲状腺癌1名、原発性マクログロブリン血症1名

表5. 要治療・要精密検査判定者の紹介先(日帰り人間ドック受診者)

有所見者数		2679人	再検査確認数		976人	再検率		36.4%
日生病院	健診精査内科	299人	日生病院	乳腺外科	98人			
日生病院	循環器内科	50人	日生病院	整形外科	1人			
日生病院	神経内科	1人	日生病院	皮膚科	2人			
日生病院	消化器内科	225人	日生病院	泌尿器科	54人			
日生病院	内視鏡センター	22人	日生病院	産婦人科	52人			
日生病院	総合内科	27人	日生病院	眼科	98人			
日生病院	耳鼻科	12人						

第4章 部別概要

中央臨床検査部

1. スタッフ

部長 浅野彰彦、臨床検査技師長 水口洋一

(1) 検体検査部門 (I) 血液、生化学、血清、輸血、凝固線溶機能

(山本慶子)、(池田久美)、吉田隆則、内野高裕、天野精子、倉本訓子、
「松谷憲一」、「玉川雄一」

採血室担当：伊山 修 (非常勤)

(2) 検体検査部門 (II) 細菌、病理・細胞診、外来検査室

細菌検査室：(新井幸子)、藤田育子、角田道久、「小林美香」

病理検査室：水口洋一、(坂口伊津子)、石倉果林、大嶽雄也

外来検査室：坂本美智代

(3) 生体検査部門

超音波・生理機能、脳波・筋電図、聴力・平衡機能検査室：

相馬容子、大西 龍、藤井ゆう子、(川口公次)、古川浩司、柳川友加、森本梓、
(荒木めぐみ)、「金丸麻美」、中尾やす子(非常勤)

予防医学センター配属：篠田和子、大黒慶子

(4) 臨床工学部門

臨床工学室：加藤千尋、三木和美

* 検体検査部門 (I) では、山本慶子・池田久美が定年退職となり、松谷憲一・玉川雄一を採用した。

池田は非常勤職員として再雇用となった。

* 検体検査部門 (II) では、細菌検査室の新井幸子、病理・細胞診検査室の坂口伊津子が定年退職となつた。

細菌検査室の責任者は新井から藤田に引継ぎ小林美香を新しくメンバーとして迎えた。

* 生体検査部門では川口公次と荒木めぐみが退職し、金丸麻美を新たにメンバーとして迎えた。

* 平成17年10月に開設した臨床工学室は、暫定的な二名体制の運営が続いた。

2. 特色

質の高い検査結果を得るための精度管理に力を注ぎ、日本医師会・大阪府医師会・日本臨床検査学会の精度管理調査に39年間にわたり参加しており、常に優秀な成績を収めています。

検査オーダー後、30分以内での検査結果報告を目指して迅速性を増し、また24時間体制をとることで時間外の緊急検査を行い、検体検査管理加算に対応した運営を行っています。

輸血検査から輸血管理までの輸血業務を安全かつ迅速に行う輸血管理体制にも対応しています。

文責 浅野彰彦

看護部

I. 看護部理念

看護部は公財日本生命済生会の基本理念、「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し一人ひとりの状態と立場と気持ちにそった最良の看護サービスを提供します。

平成24年度スローガン 「CS/ESを推進し、思いやりから生まれる創造豊かな看護を提供します。」

看護部基本方針

1. 安心安全な看護の実践
2. 看護師の能力開発
3. 病院経営に参画し効率のよい看護の実践
4. 選ばれる職場環境作りと優秀人材の確保と育成
5. 看護サービスの質改善

II. 病棟状況

病棟状況

部署	定床	H24年度患者数	稼働率	平均在院日数	H24年度配置基準	勤務人員			平均夜勤回数 2交替 前期4-9 後期10-3	備考	
						深	準	日			
3W	45	44	66.9	10.3	30	3	4	13	4.24		
	新										15
	計										60
4W	46	46	71.8	12.9	31	3	4	14	4.15		
	別										14
	計										60
4E	51	41	73.8	10.4	26	3	3	11	4.39		
									4.06		
5W	44 (無菌室4)	39	84.3	24.3	26	3	3	10	3.98		
									3.85		
5E	49	40	75.6	14.9	27	3	3	11	4.42		
									3.97		
6W	42	37	73.4	15.7	28	3	3	11	4.49		
	小	10							3		4.66
6E	27	21	57.1	6	24	金4 3	木4 3	10	4.66		
	未	7							1		4.35
外来					39 /19					17診療科以外に、地域医療連絡室、 治験管理室へ各1名を含む	
手術					18						
管理					5 /11					感染担当1名 新人担当1名を含む 入院調整1名	
計	350	外来 904 病棟 273	72.0	12.3	254				4.33		
									4.15		

III. 看護研修概況

- 1) 院内研修 (別表 P 90 ~ 91)
- 2) 院外研修 (別表 P 92 ~ 93)
 - ・短期研修大阪府看護協会、日本看護協会等
 - ・大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 1名
 - ・セカンドレベル研修 1名
 - ・サードレベル研修 1名
- 3) 学会発表 日本看護協会主催等 10学会 10名

IV. その他

- 1) 看護学生実習受け入れ
 - ・大阪医専看護保健学科 (4年課程) 271名 5月～3月 (基礎・成人・老年・母性看護学)
 - ・大阪保健福祉専門学校 (3年課程) 10名 5月～6月 (母性)
 - (4年課程) 11名 8月～9月 (母性・小児看護学)
 - ・大阪府病院協会看護専門学校 (3年課程) 18名 (母性・小児看護学)
 - ・白鳳女子短期大学 (助産学専攻) 1名 9月～11月 (産科)
 - ・甲南女子大学 (4年課程) 95名 10月～12月 (母性・成人看護学)
 - ・梅花女子大学 (4年課程) 48名 6月～9月 (基礎・成人看護学)
- 2) 研修受け入れ
 - ・CNSコース 1名
- 3) 看護体験受け入れ
 - ・大阪府主催「一日看護体験」 5月25日高校生8名
 - 7月25日高校生9名
- 4) 看護フェア
 - ・5月11日看護相談、身体測定、アロマ、フットケア等
- 5) ニッセイ看護研究会
 - ・1月28日 8施設 17名

文責 正野廣子

薬剤部

スタッフ

部長 畑中 勝義：部員 野村 浩英、土江 恵美(5月から育児休業より復帰)、池田 久雄、
乾 有希子、吉岡 亮、森 真由子、宮 麻紀子、平田 貴宏、牧 秀美、
松田 敦子、瀧川 奈央、六車 裕一(7月～)
パート薬剤師 辻 俊美、中野 静香(5月より産休)、
江戸 由希子(～3月)、松元 麻美(6月～)
事務員(非常勤嘱託)：岩城 淳子

[H. 24年度計画事項とその執行状況]

1. 薬剤部業務体制

- ・人員 : 薬剤師16名(パート3名を含む)
事務員1名
- ・配置 : 調剤・製剤業務7名 薬剤管理指導業務(病棟担当)7名
治験管理室1名、DI室1名、事務担当1名

2. ジェネリック薬品の採用

前年に引続きジェネリック薬品の導入を図った。注射薬3品目、その他6品目を採用し薬品購入における経済効果を図った。(前年比9品目増)

3. 薬剤管理指導業務の充実

1病棟に1名の担当薬剤師を配置しチーム医療を中心に週20時間以上の病棟業務を行った。服薬指導の充実を図った。

4. 院内の薬に関する医療安全管理対策

医薬品安全管理者を設置し、薬剤の適正使用について情報伝達、安全使用の確認を行っている。
ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策等チーム医療に参画し薬剤の適正使用を図った。

5. 新規業務の展開

癌化学療法レジメン管理システムを導入し運用を図っている。

6. 学術活動

日本医療薬学会に3題発表。

[薬科大学学生実習受け入れ] 薬学部6年制に伴う実習受入 実習生15名

[主要業務10項目]

1. 調剤業務(入院54,936枚)(外来21,454枚)(注射76,756枚)(麻薬3,735枚)
(院外処方箋133,126枚)
2. 製剤業務(一般・特殊製剤1,471件)(無菌2,421件)
3. 薬剤管理指導業務(7,693件)
4. DI業務(DIニュース24件)(くすりニュース4件)
5. 抗癌剤無菌調製業務(入院1,122件 外来2,328件)
6. 薬品発注・在庫管理業務(採用品目数1,246)(臨時購入薬品45)(院外届出薬品82)
7. 血液製剤管理業務(16品22規格529件)
8. 院外処方箋に関する問い合わせ(6,123件)
9. 薬事管理委員会(新規採用薬品28、削除薬品33)
10. 治療用薬品払い出し業務(4,215枚)

文責 畑中勝義

治験管理室

スタッフ

室長 江川 功：事務局 松田 敦子(薬剤師)、山本 真佐美(NIC)
CRC 谷口 真理子(看護師)、吉田 悦子(看護師)

[平成24年計画事項とその執行状況]

1. 治験事務局業務
 - ・ 日生病院治験審査委員会標準業務手順書の改定
 - ・ 製造販売後調査、医師主導研究のCRC依頼マニュアルの作成
 - ・ 各医薬品会社への治験打診
2. 臨床研究コーディネーター (CRC) 業務
 - ・ 外部CRC対応マニュアル及びCRC業務マニュアルの改定
 - ・ 製造販売後調査、医師主導研究の受け入れ幅拡大
 - ・ 大阪医薬品協会 治験推進プロジェクトメンバー参加

[平成24年実績]

治験審査委員会 (IRB) 11回開催

倫理委員会 8回開催

- 1) 平成24年新規受託契約課題 6件
 - ・ 低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第3相二重盲検比較試験 (CCT-302) (消化器内科 中村センター長)
 - ・ 低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第3相長期継続投与試験 (OCT-302) (消化器内科 中村センター長)
 - ・ AS-3201の糖尿病性末梢神経障害患者を対象としたプラセボ対照二重盲検群間比較試験 (第三相試験) (総合内科 笠山副院長)
 - ・ 中等症から重症の局面型皮疹を有する乾癬患者および関節症性乾癬患者を対象としたCP-690,550の経口2用量長期投与時の安全性、忍容性および有効性を検討する多施設共同第Ⅲ相無作為化二重盲検比較試験 (皮膚科 東山部長)
 - ・ 中等症から重症の日本人乾癬患者を対象としたLY2439821の有効性及び安全性を評価する多施設共同非盲検長期投与試験 (皮膚科 東山部長)
 - ・ Secukinumabの固定間隔投与又は再発開始時投与を受けた中等症又は重症の局面型皮疹を有する乾癬患者を対象に、プレフィルドシリンジを用いたsecukinumab皮下投与の長期安全性、忍容性及び有効性を評価する二重盲検グループ及びオープンラベルグループから構成される、2年間の多施設共同継続試験 (皮膚科 東山部長)
- 2) 前年からの継続実施課題 4件
 - ・ HFT-290の帯状疱疹後神経痛、慢性腰痛及び変形性関節症を対象とした検証的試験 (麻酔・緩和医療科 川原部長)
 - ・ 乾癬の長期維持療法としてsecukinumabの固定間隔投与と再発開始時投与を比較検討する試験 (SCULPTURE) (皮膚科 東山部長)
 - ・ S-297995のオピオイド投与に伴う便秘を有するがん患者を対象とした後期第2相臨床試験 (乳腺外科 西田部長)
 - ・ JNS020QDの慢性疼痛患者を対象とした第Ⅲ相試験 (麻酔・緩和医療科 川原部長)
- 3) H24年終了課題 4件
 - ・ HFT-290慢性疼痛を対象とした長期投与試験 (麻酔・緩和医療科 川原部長)
 - ・ TRK-820軟カプセル剤 検証的試験 -慢性肝疾患患者における難治性のそう痒症- (消化器内科 中村センター長)
 - ・ 日本人尋常性乾癬被験者におけるLEO90105軟膏 (カルシポトリオール水和物およびジプロピオン酸ベタメタゾン配合薬) の有効性及び安全性 (皮膚科 東山部長)
 - ・ 「乾癬患者を対象にsecukinumab の点滴静脈内投与による治療効果改善の可能性を検討する試験 (STATURE) (皮膚科 東山部長)
- 4) 製造販売後調査
新規契約 - 29件 (CRC依頼有 2件)
終了 - 15件
- 5) 医師主導・自主研究
新規 - 44件

治験数もかなりあり、順調に経過しているが、マンパワーの不足は解消しておらず、来年以降も業績を維持するためにはマンパワーの不足の解消が必要である。

文責 江川 功

リハビリテーション室

○スタッフ

責任者：リハビリテーション室 室長 稲岡正裕

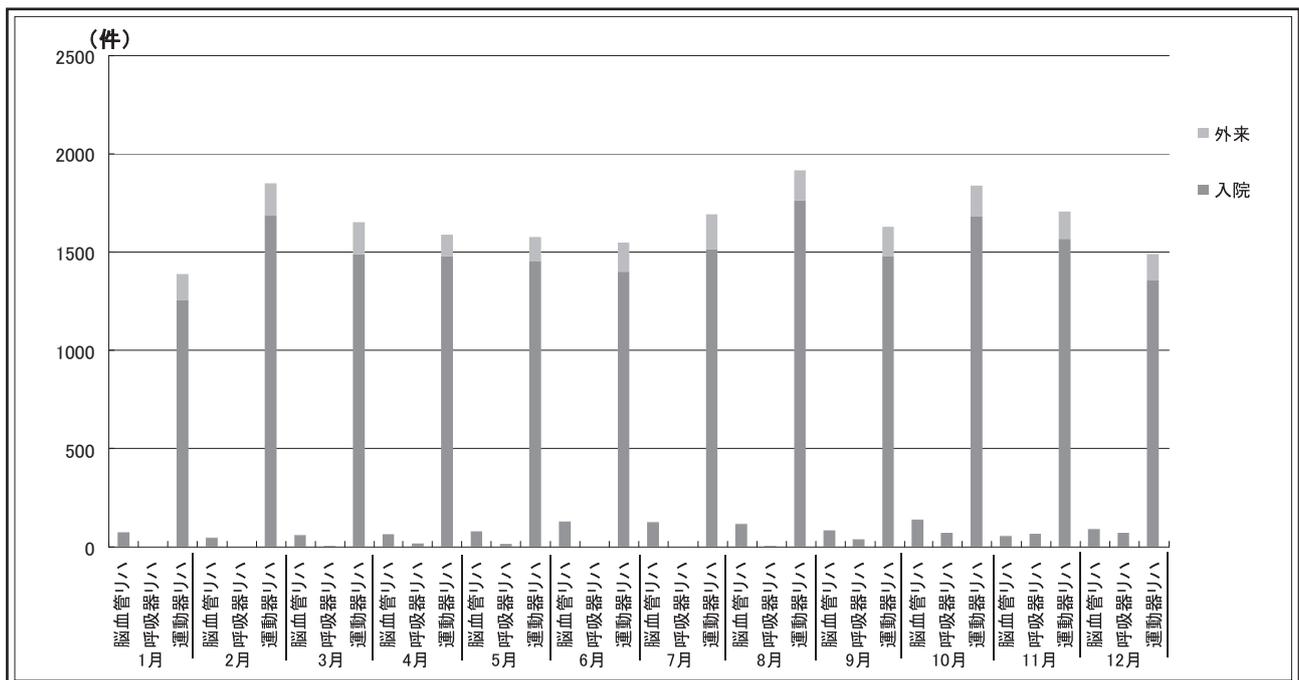
理学療法士 片岡宏一郎、小倉敬子、麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄悟(4月～)、
白川 桂(4月～)

作業療法士 外山晶代

○診療内容

- ・入院患者に対するリハビリに特に重点を置き、診療科の回診（整形外科病棟回診，NST回診，褥創回診）や、各病棟とのカンファレンスなどを通じて、診療の質の向上に努めた。亜急性期病棟におけるリハビリなど長期療養患者に対するリハビリもバランスよく実施した。
- ・作業療法士による、上肢機能の向上を目的とした手指の機能訓練、食事動作などの巧緻性機能の増大を目的としたADL（日常生活動作）練習などの作業療法を実施し、リハビリテーション医療の充実を図った。
- ・定期的に関リハビリカンファレンスを開催し、他職種との連携をとりながら情報交換を行い、医療の質向上に努めた。
- ・重心動揺検査装置や筋力測定器を用いた運動機能の客観的評価を行い、その数値に基づいた治療効果の判定や問題点の抽出を行い、リハビリのレベルアップを行った。
- ・予防医学におけるリハビリの役割の重要性を積極的に啓蒙、普及する必要がある。生活習慣病センターや予防医学センターとの連携をさらに充実させて、糖尿病教室や肥満外来などへの共同参画、運動療法指導、体操療法などの指導を行った。
- ・リハビリ専門学校からの教育実習依頼に対して協力し、実習教育活動の体制を整備して実施した。
- ・院内では整形外科抄読会、糖尿病勉強会などに参加し、院外においては各専門領域の勉強会に参加し、会得した技能、知識はスタッフ間で情報共有を行った。また研究などの学術活動にも積極的に参加し、専門性を活かしたいいくつかの発表を行い、臨床に役立つ内容の発信に努めた。

平成24年版 日生病院年報 統計（月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ件数）



栄養管理室

1. スタッフ

管理栄養士：米田育子(3月迄)、山原瑞穂(2月迄)、池上理恵(2月迄)、出口暁子
伊藤有希子(3月～)、松村寿美(3月～)、調理師：藤田龍也
委託側（管理栄養士2名、栄養士4名、調理師4名、炊事員11名）

2. 栄養管理室の方針

- ・入院給食において、特に治療食の見直しと改善を実施し、より良い給食の提供を給食委託会社と連携して実施する。
- ・入院および外来の栄養指導件数を増加させるための方法を検討し、実行する。
- ・低栄養状態の患者の栄養マネジメントをNSTチームにおいて積極的に行い推進する。
- ・経腸栄養食の薬剤タイプから食品タイプへの移行及び術前補水流動食の新設により収支改善を実施。
- ・食事指導において能力向上のため院内勉強会の実施。院外勉強会等への積極的な参加。

文責 出口暁子

栄養指導件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
胃腸病	1	0	0	1	3	2	4	2	2	3	4	1	23	1
肝臓病	3	5	9	5	3	8	9	7	8	10	7	5	79	44
糖尿病	75	96	72	70	95	92	90	107	79	106	94	97	1073	1188
腎臓病	5	6	4	12	6	5	19	9	8	15	6	9	104	59
高血・心臓・高脂	37	37	35	41	41	45	51	54	48	63	44	44	540	362
肥満症	1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	5	29
術後食	0	0	1	2	1	0	2	0	0	0	0	0	6	11
母子栄養	1	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	1	8
その他	1	2	3	2	4	4	3	4	3	4	1	2	33	37
計	124	147	124	133	155	157	178	183	148	201	156	158	1864	1739

栄養指導〈集団指導〉年間件数

	実施回数	外来人数	入院人数
糖尿病	24	1	103

錦会〈糖尿病患者会〉

7月20日…総会・食事会 参加人数 16名

11月30日…ランチアンドトーク(病院給食の試食と会員の交流会) 参加5名

栄養管理計画書件数〈年間〉

患者給食	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
計画書作成延数	7680	8321	8282											
入院患者延数	7808	8375	8342											
算定率	92.2	99.9	99.4											

患者給食数〈年間〉

患者給食	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
常食	5536	6596	7442	7389	7345	7795	8160	7977	8397	8375	8837	8531	92380	93607
特軟食	12907	13756	12719	12101	12140	11465	13047	13457	12006	12292	11379	12151	149420	149115
合計	18443	20352	20161	19490	19485	19260	21207	21434	20403	20667	20216	20682	241800	242722
調乳本数	1936	1702	2062	2110	1695	1812	2458	2014	2210	2702	2624	2056	25381	27487

あったかサポートセンター

1. スタッフ

センター長 船渡孝郎(副院長)

副センター長 小早川啓(事務長)

(1) 医療連携グループ

谷口史朗、石坪健治、川口義樹、松本満康、西岡千幸

看護師：北村一美、瓜本恵美子

(2) サービス推進グループ

事務員：岡部由利、岩田美栄子(～8月)、渡辺喜代美、岩切綾子

事務員：森本洋子、高松美佳(5月～)

(3) 医療福祉相談グループ

医療ソーシャルワーカー

本家裕子(社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員)、

松栄優子(社会福祉士・介護支援専門員)、

福庭加奈(社会福祉士)(5月～)、清水美紗(社会福祉士)(8月～)

* H24. 4. 1より組織新設 (1～3月：(1)地域医療連携室 (2)患者様サービスグループ (3)医療生活相談室)

2. 医療連携グループの活動内容

①医療連携グループ経由の紹介患者様の対応

②医療機関向けPR冊子の作成と発送

③第13回病診連携フォーラムの開催 (H24. 9. 8)

④紹介患者様の報告、逆紹介チェック

⑤開放型病院登録医の共同診療への協力並びに登録医の増員 (登録医：H24. 12月末 284名)

⑥「登録医だより」の作成と発送 (H24. 1月、4月)

⑦病診連携「ニッセイ クリニカル カンファレンス」開催協力 (H24. 11. 10)

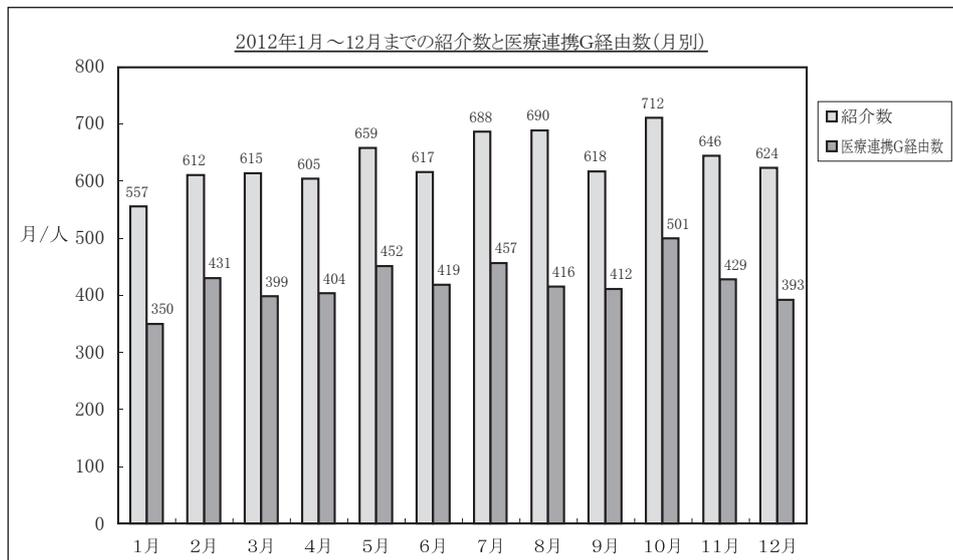
⑧スペシャルドック、健診後受診患者および日生関連企業受診患者対応

文責 岡部由利

2012年1月～12月 科別紹介数、医療連携G経由患者数(年間)

科別	紹介患者数 ※ (救急車搬入患者含む)	医療連携G経由患者数
循環器内科・神経内科	600	275
消化器内科	540	382
総合内科	750	346
血液・化学療法内科	216	123
精神科	152	141
小児科	242	116
外科	148	95
乳腺外科	153	107
整形外科	454	302
皮膚科	540	404
泌尿器科	332	194
産婦人科	1370	828
眼科	347	283
耳鼻咽喉科	706	339
救急医療科	40	4
放射線科	1005	1085
麻酔・緩和医療科	48	39
合計	7643	5063

※紹介患者数は初診算定数。



3. サービス推進グループの活動内容

- ①外向け広報対策として、日生病院登録医・開業医、地域住民、患者様、予防医学センター利用企業等に対する広報誌や、日本生命済生会、日生病院、ニッセイ予防医学センターのホームページ、掲示物等の広報活動
- ②内向け広報対策として、情報の共有化の方策、イントラネット・メール活用等の広報活動
- ③広報活動の一層の充実と推進を図るため、他施設等における広報活動の調査・研究 等
文責 森本洋子

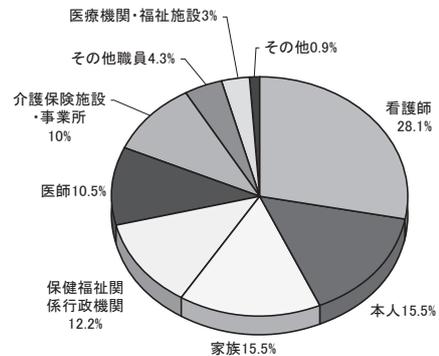
4. 医療福祉相談グループの活動内容

- ①相談援助
 - a. 援助総件数
平成24年は、総数6856件（1日平均27.8件、月平均571.1件）の相談を受けた。
 - b. 新規相談
平成24年の新規相談は1539件（昨年は1170件）であった。紹介経路別にみると、看護師（433件）、医師（161件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が42.9%（昨年は47.5%）を占め、本人（239件）と家族（238件）からの相談が31.0%（昨年は22.5%）であった。診療科別にみると、内科が43.5%と最も多く、次いで整形外科（13.6%）、神経科・精神科（8.7%）となった。
 - c. 相談内容
相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が39.9%（昨年は50.1%）と最も多く、次いで介護保険、身体障害者手帳、特定疾患、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（26.2%）、受診・受療に関する問題調整（10.3%）、無料低額診療に関する相談援助（7.1%）、家庭問題に関する相談援助・生活支援（6.6%）、経済的問題に関する相談援助（4.1%）となった。
- ②地域活動
 - a. 近隣の施設（医療機関、介護老人保健施設等）へ訪問し、面識を持って情報交換をすることにより、スムーズな連携を図ることができた。
 - b. 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区高齢者虐待防止専門部会へ参画し、地域の高齢者施策の充実に尽力した。
 - c. 日生ケアプランセンターにて介護支援専門員（ケアマネジャー）を兼務し、利用者様の在宅生活を支援した。
文責 本家裕子

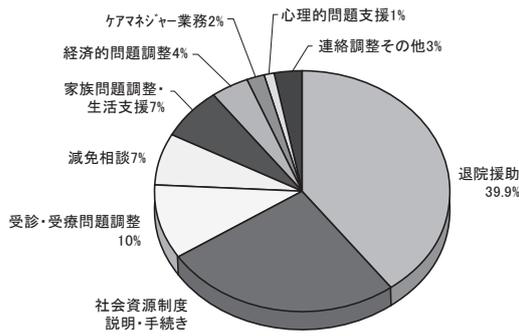
①-a. 相談件数(延べ数)

	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年
内科	3440	3466	2820	2961	2448
神経科・精神科	541	340	324	436	487
小児科	148	26	22	10	36
外科	550	294	377	271	301
乳腺外科	47	31	84		
整形外科	959	974	1012	1029	907
皮膚科	161	123	207	116	139
泌尿器科	279	277	195	287	100
産婦人科	286	52	154	119	205
眼科	35	32	70	17	70
耳鼻咽喉科	197	258	118	112	73
放射線科	2	0	6	2	2
麻酔科	18	2	24	6	2
歯科・口腔外科					0
不明・その他	193	83	96	103	74
合計	6856	5958	5509	5469	4844

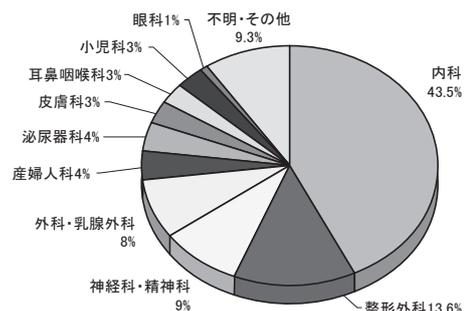
※平成20年：歯科・口腔外科は1月～3月の件数
 ※平成22年：乳腺外科は4月～12月までの件数



①-b-1 新規相談(紹介経路別)



①-c 相談内容



①-b-2 新規相談(診療科別)

2012年日生病院業績集

(2012年1月～2012年12月)

論文発表

循環器内科・神経内科・呼吸器内科

1. 村西寛実, 岡本祐典, 八木良樹, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文, 林 美沙, 東山眞里, 藤島弘顕, 友永真人, 稲岡正裕: Endovascular therapyにより救肢しえた重症虚血性肢の1例 - 当院におけるCritical limb ischemia治療の課題 -. 日生医誌, 40 : 37-43, 2012.
2. 太口 馨, 八木良樹, 村西寛実, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: 重症肺炎に合併したCritical illness polyneuropathy (CIP) の1例. 日生医誌, 40 : 53-57, 2012.
3. 岡部太一: PAPVRを合併した高齢者ASDの1例. Osaka Heart Club, 35 : 6-9, 2012.
4. 高橋秀明, 村西寛実, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: 重症下肢深部静脈血栓症に対しカテーテル血栓溶解療法を施行した1例. 日生医誌, 40 : 117-122, 2012.
5. 廢知淳子, 星賀正明, 藤坂智弘, 岡部太一, 中小路隆裕, 石原 正, 石坂信和, 花房俊昭: 肺動脈性肺高血圧症に対してボセンタンが有効であった18pテトラソミーの1成人例. 心臓, 44 : 463-468, 2012.
6. 佐藤和明, 村西寛実, 高橋秀明, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 濱田偉文, 小西 登: 肺の多型癌を合併した器質化肺炎の1剖検例. 日生医誌, 40 : 129-133, 2012.
7. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正: 糖尿病患者の平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. 日生医誌, 40 : 107-111, 2012.

消化器内科

1. Enomoto H, Inoue SI, Matsuhisa A, Aizawa N, Imanishi H, Saito M, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Sakai Y, Takashima T, Shimomura S, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S : Development of a new in situ hybridization method for the detection of global bacterial DNA to provide early evidence of a bacterial infection in spontaneous bacterial peritonitis. J. Hepatol, 56, 85-94, 2012.

2. Aizawa N, Enomoto H, Imanishi H, Saito M, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Sakai Y, Takashima T, Iwai T, Moriwaki E, Shimomura S, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S : Elevation of the glycted albumin to glycated hemoglobin ration during the progression of hepatitis C virus related liver fibrosis. World J Hepatol, 4 : 11-17, 2012.
3. Sakai Y, Enomoto H, Aizawa N, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Takashima T, Takata R, Iwai T, Uwata K, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S : Relationship between elevation of glycated albumin to glycated hemoglobin ratio in patients with a high bleeding risk of esophageal varices. Hepatogastroenterology, 59 : 2280-2284, 2012. (Epub) (doi : 10. 5754/hge12064.)
4. Bando Y, Kanehara H, Aoki K, Toya D, Notsumata K, Tanaka N, Enomoto H, Nishiguchi SH, Nakasho K, Nakamura H, Kasayama S, Koga M : The glycated albumin to glycated haemoglobin ratio increases along with the fibrosis stage in non-alcoholic steatohepatitis. Ann Clin Biochem, 49 : 387-390, 2012. (doi : 10. 1258/acb. 2012. 011139.)
5. Matsuda F, Torii Y, Enomoto H, Kuga C, Aizawa N, Iwata Y, Saito M, Imanishi H, Shimomura S, Nakamura H, Tanaka H, Iijima H, Tsutsui H, Tanaka Y, Nishiguchi S : Anti-interferon- α neutralizing antibody is associated with nonresponse to pegylated interferon- α plus ribavirin in chronic hepatitis C. J Viral Hepat, 19 : 694-703, 2012. (doi : 10. 1111/j. 1365-2893. 2012. 01598. x.)

総合内科

1. Sumitani S, Morita S, Utsu Y, Mukai K, Miki S, Sato B, Nakamura H, Kasayama S : Effectiveness of metformin and lifestyle interventions as an initial treatment in Japanese patients with newly diagnosed type 2 diabetes : A prospective observational study. J. Med. Invest, 59 : 166-173, 2012.

2. Bando Y, Kanehara H, Aoki K, Toya D, Notsumata K, Tanaka N, Enomoto H, Nishiguchi S, Nakasho K, Nakamura H, Kasayama S, Koga M : The glycated albumin to glycated haemoglobin ratio is increasing along with fibrosis stage in non-alcoholic steatohepatitis. *Ann. Clin. Biochem*, 49 : 387-390, 2012.
 3. Arita H, Kinoshita M, Oshino S, Kitamura T, Otsuki M, Kasayama S, Shimokawa T, Shimomura I, Yoshimine T, Saito Y : Biological characteristics of growth hormone-producing pituitary adenomas are different according to responsiveness to thyrotropin-releasing hormone. *J. Clin. Endocrinol. Metab*, 97 : 2741-2747, 2012.
 4. Miyazaki A, Kohzuma T, Kasayama s, Koga M : Classification of variant forms of hemoglobin according to the ratio of HbA1c to glycated albumin. *Ann. Clin. Biochem*, 49 : 441-444, 2012.
 5. Koga M, Murai J, Saito H, Kasayama S : Prediction of near-future glycated hemoglobin levels using glycated albumin levels before and after glimepiride administration for 2 weeks is useful to decide the effectiveness of the treatment. *Diabetes Int*, 3 : 197-201, 2012.
 6. Koga M, Murai J, Saito H, Aoki K, Kanehara H, Bando Y, Morita S, Kasayama S : Glycated albumin levels are higher relative to HbA1c levels in patients with autoimmune acute-onset type 1 diabetes mellitus than in patients with type 2 diabetes mellitus at the time of diagnosis. *Diabetes Res. Clin. Pract*, in press.
 7. Murai J, Koga M, Saito H, Mukai M, Kasayama S : Serum 1, 5-anhydroglucitol is low in gastrectomized men. *Acta Diabetologia*, in press.
 8. Koga M, Shimzu I, Murai J, Saito H, Kasayama S, Kobayashi T, Imagawa A, Hanafusa T, the Members of the Japan Diabetes Society's Committee on Research on Type 1 Diabetes : The glycated albumin to HbA1c ratio is elevated in patients with fulminant type 1 diabetes mellitus with onset during pregnancy. *J. Med. Invest*, in press.
 9. 宇都佳彦, 笠山宗正 : 骨粗鬆症. 代謝・内分泌疾患診療最新ガイドライン, 257-262頁, 総合医学社, 東京, 2012.
 10. 大月道夫, 齋藤洋一, 笠山宗正, 有田憲生, 岡本新悟, 佐藤文三 : オクトレオチドLAR治療が先端巨大症患者のQOL・臨床症状に与える影響. *日本内分泌学会雑誌*, 88 : 37-38, 2012.
 11. 森田真也, 前田悠一, 藤原弘士, 三木俊治, 広田将司, 藤川正博, 佐々仁美, 中川雅史, 大嶋正人, 藤井智美, 小西 登, 笠山宗正 : 多種の自己免疫疾患と巨大S状結腸を合併した緩徐進行1型糖尿病の1例. *糖尿病*, 55 : 638-644, 2012.
 12. 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正 : 長期間コントロール不良であったバセドウ病に対する薬物療法後にhungry bone syndromeによる低カルシウム血症を来した1例. *日生医誌*, 40 : 48-52, 2012.
 13. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正 : 糖尿病患者の平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. *日生医誌*, 40 : 107-111, 2012.
- 血液・化学療法内科**
1. 間島行則, 川上 学, 石河 純, 中川雅史 : 腫瘍縮小にもなって心臓ペーシングから離脱できた頸部悪性リンパ腫に合併する頸動脈洞性失神. *臨床血液*, 54 : 117-121, 2012.
- 消化器・一般外科**
1. 森田真也, 前田悠一, 藤原弘士, 三木俊治, 広田将司, 藤川正博, 佐々仁美, 中川雅史, 大嶋正人, 藤井智美, 小西 登, 笠山宗正 : 多種の自己免疫疾患と巨大S状結腸を合併した緩徐進行1型糖尿病の1例. *糖尿病*, 55 : 638-644, 2012.
 2. 藤川正博 : 膵神経内分泌腫瘍 - 当院での肝転移症例の治療 -. *日生医誌*, 40 : 93-100, 2012.
- 整形外科**
1. 三木宏真, 川本匡規, 友永真人, 糸原朋信, 稲岡正裕 : 人工膝関節置換術後の大腿骨顆上骨折に対する顆上部髓内釘を用いた骨接合術の治療経験. *日生医誌*, 40 : 123-126, 2012.
- 皮膚科**
1. Shigeyoshi Tsuji, Mari Higashiyama, Masahiro Inaoka, Tetsuya Tomita, Akinori Yokomi, Ayako Satoh, Ayuko Hirano, Misa Hayashi, Maki Tsuji, Yasuo Kunugiza, Masayuki Hamada, Hideo

Yoshikawa : Effect of adalimumab therapy on musculoskeletal manifestations and health-related quality of life in patients with active psoriatic arthritis. *Mod Rheumatol* (Epub ahead of print), 2012.

産婦人科

1. 尾上昌世, 大塚博文, 吉見佳奈, 久 毅, 小玉美智, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎 : 嚢胞内に多数の“floating balls”を有する卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例. *産婦人科の進歩*, 64 : 127-131, 2012.

眼科

1. 鳥袋幹子 : 眼科検査ナビゲーションブック. *眼科ケア*, 夏期増刊 : 118-120, 2012.

耳鼻咽喉科

1. 神田枝里子, 赤羽 誉, 谷口由希子, 細野研二, 今泉広哲, 中川 厚, 三木俊治 : めまいを主訴に当院救急搬送または時間外受診症例の過去1年間の臨床検討, *日生医誌*, 40 : 31-36, 2011.
2. 細野研二, 赤羽誉, 岡本倫朋, 谷口由希子, 今泉哲宏, 大嶋正人 : 甲状舌管と甲状腺に同時に乳頭癌を認めた1例. *頭頸部外科*, 21 : 281-285, 2011.

放射線科

1. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Mitani T : Ablation margin assessment of liver tumors with intravenous contrast-enhanced C-arm computed tomography. *World J Radiol*, 4 : 109-114, 2012.
2. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Mitani T : Local tumor progression following lipiodol-based targeted chemoembolization of hepatocellular carcinoma : A retrospective comparison of miriplatin and epirubicin. *Cancer Manag Res*, 4 : 113-119, 2012.
3. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Muramoto O, Mitani T : Survival after C-arm CT-assisted chemoembolization of unresectable hepatocellular carcinoma. *Eur J Radiol*, 81 : 3985-3992, 2012.
4. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Mitani T : Fusion of intravenous contrast-enhanced C-arm CT and pretreatment imaging for ablation margin assessment of liver tumors : a preliminary study. *Indian J Radiol Imaging*, 22 : 250-252, 2012.

5. Iwazawa J, Hashimoto N, Ohue S, Mitani T : Initial safety and outcomes of miriplatin plus low-dose epirubicin for transarterial chemoembolisation of hepatocellular carcinoma. *Anticancer Res*, 32 : 5039-5044, 2012.

麻酔・緩和医療科

1. 川原玲子 : がんの経過に伴う症状へ有効な漢方薬. 北島政樹 今津嘉宏, *がん漢方*, 第1版, 142-151頁, 南山堂, 東京, 2012.
2. 玉井 裕, 岩澤 仁, 三谷 尚, 川原玲子 : コーンビームCTガイド下に内臓神経ブロックを施行した1症例. *日生医誌*, 40 : 44-47, 2012.

予防医学センター

1. Sumitani S, Morita S, Yoshihiko Utsu, Kosuke Mukai, Shunji Miki, Bunzo Sato, Hideji Nakamura, Soji Kasayama : Effectiveness of metformin and lifestyle interventions as an initial treatment in Japanese patients with newly diagnosed type 2 diabetes : a prospective observational study. *J Med Invest*, 59 : 166-173, 2012.
2. Enomoto H, Inoue SI, Matsuhisa A, Aizawa N, Imanishi H, Saito M, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Sakai Y, Takashima T, Shimomura S, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S : Development of a new in situ hybridization method for the detection of global bacterial DNA to provide early evidence of a bacterial infection in spontaneous bacterial peritonitis. *J. Hepatol*, 56 : 85-94, 2012.
3. Aizawa N, Enomoto H, Imanishi H, Saito M, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Sakai Y, Takashima T, Iwai T, Moriwaki E, Shimomura S, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S : Elevation of the glycted albumin to glycated hemoglobin ratio during the progression of hepatitis C virus related liver fibrosis. *World J Hepatol*, 4 : 11-17, 2012.
4. Sakai Y, Enomoto H, Aizawa N, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Takashima T, Takata R, Iwai T, Uwata K, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S : Relationship between elevation of glycated albumin to glycated hemoglobin ratio in patients with a high bleeding risk of esophageal varices. *Hepatogastroenterology*,

20 : 59 (119) (Epub), 2012.

5. Bando Y, Kanehara H, Aoki K, Toya D, Notsumata K, Tanaka N, Enomoto H, Nishiguchi SH, Nakasho K, Nakamura H, Kasayama S, Koga M : The glycosylated albumin to glycosylated haemoglobin ratio increases along with the fibrosis stage in non-alcoholic steatohepatitis. *Ann Clin Biochem*, 49 : 387-390, 2012.
6. Matsuda F, Torii Y, Enomoto H, Kuga C, Aizawa N, Iwata Y, Saito M, Imanishi H, Shimomura S, Nakamura H, Tanaka H, Iijima H, Tsutsui H, Tanaka Y, Nishiguchi S : Anti-interferon- α neutralizing antibody is associated with nonresponse to pegylated interferon- α plus ribavirin in chronic hepatitis C. *J Viral Hepat*. 19 : 694-703, 2012.

中央臨床検査部

1. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正 : 糖尿病患者の平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. *日生医誌*, 40 : 107-111, 2012.
2. 内野高弘, 倉本訓子, 天野精子, 山本慶子, 池田久美, 吉田隆則, 水口洋一, 浅野彰彦, 稲岡正裕 : 当院における廃棄血削減への取り組み - 過去10年間の血液製剤使用状況と廃棄理由の解析 -. *日生医誌*, 40 : 19-23, 2012
3. 角田道久, 藤田育子, 新井幸子, 水口洋一, 浅野彰彦 : 当院分離菌の検出頻度と薬剤感受性成績. *日生医誌*, 40 : 69-73, 2012
4. Hiroyuki Abe, Daichi Maeda, Rumi Hino, Yuya Otake, Maya Isogai, Aya Shinozaki Ushiku, Keisuke Matsusaka, Akiko Kunita, Tetsuo Ushiku, Hiroshi Uozaki, Yoko Tateishi, Tsunekazu Hishima, Yoshiaki Iwasaki, Shumpei Ishikawa, Masashi Fukayama : ARID1A expression loss in gastric cancer : pathway-dependent roles with and without Epstein-Barr virus infection and microsatellite instability. *Virchows Arch*, 461 : 367-377, 2012.

学会・研究会発表

循環器内科・神経内科・呼吸器内科

1. 太口 翠, 岡本祐典, 八木良樹, 村西寛実, 長谷川浩司, 中川 厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文 : 大量 γ グロブリン療法連続投与により改善を認めたcritical illness polyneuropathyの1例. 第43回 北摂臨床懇話会, 2月, 2012, 大阪.
2. 中川 厚 : デバイスの通過と拡張に難渋した石灰化病変にRAIDENが有効であった1例. *Percutaneous Coronary Intervention Clinical Brief*, 3月, 2012, 大阪.
3. 中川 厚 : 糖尿病と心疾患 無症候性心筋虚血の早期診断と治療. 第2回 生活習慣病センター公開セミナー, 4月, 2012, 大阪.
4. 高橋秀明, 谷川 淳, 田中 克, 田崎龍之介, 横山亮, 垣田 謙, 徳岡孝仁, 藤坂智弘, 武田義弘, 岡部太一, 星賀正明, 石坂信和 : 右冠動脈入口部ステント再狭窄に対するPCIにIVUSが有用であった1例. *Complex PCI Circle勉強会*, 4月, 2012, 大阪.
5. 濱田偉文 : 高齢者高血圧の特徴と治療. 大正区・港区医師会合同学術講演会, 4月, 2012, 大阪.
6. 中川 厚 : テーマ別インターベンション治療ライブ (分岐部病変). 近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL2012), 4月, 2012, 京都.
7. 村津 淳, 安賀裕二, 巴山里木, 平岡久豊, 松澤佑次, 八木良樹, 中川 厚, 濱田偉文, 山下静也 : 多数の高度動脈硬化病変と著明な低HDL-CK血症を認め, Tangier病と考えられた一例. 第197回 日本内科学会近畿地方会, 6月, 2012, 神戸.
8. 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 森田真也, 小瀬戸昌博, 笠山宗正, 仁科拓也, 濱田偉文, 佐々木敏作 : レボカルニチン投与により脳血流の改善を認めたミトコンドリア病の一例. 第197回 日本内科学会近畿地方会, 6月, 2012, 神戸.
9. 高橋秀明, 谷川 淳, 田中 克, 星賀正明, 石坂信和 : 右冠動脈入口部ステント再狭窄に対するPCIにIVUSが有用であった1例. 第113回 日本循環器学会近畿地方会, 6月, 2012, 大阪.
10. 中川 厚 : 新たな心血管リスクとしてのEPA/AA比. EPAセミナー, 7月, 2012, 大阪.
11. 濱田偉文 : 高齢者高血圧の特徴. 日本ペーリング・インゲルハイムセミナー, 7月, 2012, 大阪.
12. 中川 厚, 高橋秀明, 村西寛実, 長谷川浩司, 岡部太一, 濱田偉文 : 冠動脈灌流型バルーンカテーテ

ルの非Bailout症例に対する使用経験. 第19回 日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.

13. 高橋秀明: 当院における静脈インターベンションの現在. ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2012, 大阪.
14. 濱田偉文: 降圧剤服用アドヒヤランス-合剤のメリットについて-. ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2012, 大阪.
15. 中川 厚: Complex PCI. 大阪冠疾患研究会 (OCC2012), 11月, 2012, 大阪.
16. 村西寛実, 高橋秀明, 長谷川浩司, 中川 厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: 下肢難治性潰瘍に対して経皮的血管形成術を施行した高齢関節リウマチ患者の1例. 第23回 日本老年医学会近畿地方会, 11月, 2012, 高槻.
17. 濱田偉文: 高血圧治療はなぜ必要か. 第23回日本老年医学会近畿地方会, 11月, 2012, 高槻.
18. 村西寛実, 高橋秀明, 長谷川浩司, 中川 厚, 濱田偉文: カテーテルインターベンション治療を施行した急性腎梗塞の1例. 大阪医科大学Clinical Conference of Cardiology, 12月, 2012, 大阪.

消化器内科

1. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 湯川雅彦: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioは肝予備能の指標となる. 肝臓53, Suppl. (1), A269, 第48回 日本肝臓学会総会, 6月, 2012, 金沢.
2. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 三上高司, 湯川雅彦: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioと血清Albumin値との関連性の解析. 肝臓53, Suppl. (2), A711, 第16回 日本肝臓学会大会 (JDDW2012), 10月, 2012, 神戸.
3. 中村秀次: PegIFN/Ribavirin/Telaprevir 3者併用療法の現状と今後の展望. テラビックミーティング (兵庫医大), 2月, 2012, 神戸.
4. 中村秀次: C型慢性肝炎の最新の治療法と近未来. ニッセイ医学セミナーUpdate, 4月, 2012.
5. 中村秀次: C型慢性肝炎の最新の治療法~ペグイントロン・レボトール・テラビック 3者併用療法~. C型慢性肝炎治療を考える会, 6月, 2012.
6. 中村秀次: 肝硬変の療養について-薬物・食事・運動療法について-. 大阪府難病医療相談会, 10月, 2012.
7. 中村秀次: C型慢性肝炎の最新治療 ~近未来を

見据えて~. 大阪府病院薬剤師会講演会 (大阪府病院薬剤師会, 第360回 診療所例会) 11月, 2012.

8. 中村秀次: 自己免疫性肝疾患の診断と治療, および療養生活について. 第58回 神戸市難病医療相談会, 12月, 2012.

総合内科

1. 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲: 2型糖尿病患者に対するカーボカウントを用いた食事指導の有用性. 第15回 日本病態栄養学会年次学術集会, 1月, 2012, 京都.
2. 泉本修一, 白川 学, 笠山宗正, 有田憲生: ラトケ嚢胞における血清IGF-1の経時的変化-非手術例と手術例について. 第21回 日本間脳下垂体腫瘍学会, 2月, 2012, 東京.
3. 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 成人GH分泌不全症に対する長期補充療法の効果. 第21回 日本間脳下垂体腫瘍学会, 2月, 2012, 東京.
4. 大月道夫, 齋藤洋一, 笠山宗正, 有田憲生, 岡本新悟, 佐藤文三: オクトレオチドLAR治療が先端巨大症患者のQOL・臨床症状に与える影響についての検討 (シンポジウム: 機能性下垂体腺腫の薬物療法). 第21回 日本間脳下垂体腫瘍学会, 2月, 2012, 東京.
5. 白川 学, 泉本修一, 笠山宗正, 有田憲生: 非機能性下垂体腺腫における術前後のIGF-1値の経時的変化-内視鏡手術と顕微鏡手術の比較-. 第10回 関西間脳下垂体疾患研究会, 2月, 2012, 大阪.
6. 笠山宗正: 糖尿病治療薬の選び方. 大阪市東医師会学術講習会, 2月, 2012, 大阪.
7. 森田真也: 知っておきたいインスリンの基本. 日生ベーシック実践医療セミナー, 3月, 2012, 大阪.
8. 笠山宗正: 骨粗しょう症とはどんな病気? NPO 法人メディッセ第6回市民公開講座「あなたの骨は大丈夫? コツコツ学ぶ骨粗しょう症のお話, 3月, 2012, 大阪.
9. 村井 潤, 斎藤 博, 中村秀次, 笠山宗正, 古賀正史: 糖尿病患者で血清CA19-9が高値をきたす機序に関する検討. 第109回 日本内科学会総会・講演会, 4月, 2012, 京都.
10. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 未治療2型糖尿病に合併した非アルコール性脂肪性肝疾患

- (NAFLD)に対する生活習慣介入と高用量メトホルミンの有効性. 第109回 日本内科学会総会・講演会, 4月, 2012, 京都.
11. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミンの有効性 - HbA1c低下作用とインスリン分泌能およびインスリン感受性との関連について. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
 12. 平井孝一, 森田真也, 出口令子, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: インスリン負荷試験とGHRP-2負荷試験におけるGH頂値と血清IGF-1値の関連について. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
 13. 向井康祐, 森田真也, 平井孝一, 出口令子, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: ACTH単独欠損症患者におけるコルチゾール・アルドステロン値と臨床症状の関連. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
 14. 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 薬物療法を継続中の先端巨大症の予後に関する検討. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
 15. 古賀正史, 村井 潤, 斎藤 博, 鈴木 滋, 棚橋佑典, 笠山宗正: 慢性低血糖症特にインスリノーマにおけるHbA1c測定の有用性. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
 16. 村井 潤, 斎藤 博, 鈴木 滋, 棚橋佑典, 笠山宗正, 古賀正史: インスリノーマの診断のためのFPG/FIRI比の新たなカットオフ値の提案. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
 17. 出口令子, 森田真也, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 長期間治療不十分であったバセドウ病の治療後にhungry bone syndromeによる低カルシウム血症をきたした一例. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
 18. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
 19. 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島弘顕, 吉田博一, 稲岡正裕, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病神経障害は人工関節置換術 (Total knee arthroplasty: TKA) 後早期の機能回復に影響を及ぼす. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
 20. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正: 平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
 21. 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 住谷 哲, 佐藤文三, 古賀正史, 笠山宗正: 糖尿病罹病期間の長い患者ではグリコアルブミンはHbA1cに比して高値を示す. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
 22. 古賀正史, 鈴木 滋, 松尾公美浩, 棚橋佑典, 笠山宗正: 過去の経時的な血糖値を用いてHbA1c, GAを算出する. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
 23. 小瀬戸昌博: 関節リウマチ治療の現状について. 第41回 日生医学セミナーUpdate, 5月, 2012, 大阪.
 24. 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 森田真也, 小瀬戸昌博, 笠山宗正, 仁科拓也, 濱田偉文, 佐々木敏作: L-レボカルニチン投与により脳血流の改善を認めたミトコンドリア病の1例. 第195回 日本内科学会近畿地方会例会, 6月, 2012, 神戸.
 25. 笠山宗正: 病態とステージにあわせた糖尿病治療薬の選び方. 西区スモールセミナー, 6月, 2012, 大阪.
 26. 出口令子: CSII (持続皮下インスリン注入) 療法について. 糖尿病ケアカンファレンス, 6月, 2012, 大阪.
 27. 小瀬戸昌博: 日生病院における膠原病診療について. リウマチ・膠原病セミナー, 6月, 2012, 大阪.
 28. 藤本康介, 南 誠剛, 木庭太郎, 濱口真成, 竹内美子, 仲谷健史, 緒方嘉隆, 山本 傑, 小牟田清: 進行期非小細胞肺癌肺癌症例においてオピオイドの導入が生命予後に及ぼす影響を検証した後方視的研究. 第17回 日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2012, 神戸.
 29. 藤本康介, タンガラージ・カルプチャミー, 武村直紀, 下吹越正紀, 町田朋久, 長谷田泰成, 青枝大貴, 石井 健, 植松 智, 審良静男: 粘膜固有層のCD103+CD8 α +樹状細胞はTLR3, TLR7, TLR9

- を発現しておりTh1応答と細胞傷害性T細胞活性を誘導する. 第77回 日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会, 7月, 2012, 神戸.
30. 佐藤文三: 糖尿病のトータルケア. 糖尿病のトータルケアを目指して, 7月, 2012, 大阪.
 31. 笠山宗正: 糖尿病患者の骨粗鬆症にご用心. 大阪病院給食研究会-7月定例部会, 7月, 2012, 大阪.
 32. 笠山宗正: 糖尿病患者における骨粗鬆症のマネジメント. 茨木市・CV-DMカンファレンス, 7月, 2012, 大阪.
 33. 笠山宗正: 糖尿病のトータルマネジメント. 大阪南糖尿病・合併症治療セミナー2012, 8月, 2012, 大阪狭山.
 34. 笠山宗正: 身体バランス検査による糖尿病性神経障害の評価. 第18回 糖尿病性神経障害を考える会, 8月, 2012, 東京.
 35. 小瀬戸昌博: 当院における膠原病・リウマチ診療の取り組み. 第13回 あわぎフォーラム, 9月, 2012, 大阪.
 36. 笠山宗正: 糖尿病診療の最近の動向. 第1回糖尿病治療のトピックス, 9月, 2012, 大阪.
 37. 笠山宗正: 下垂体機能低下症のTreat to Target. 日本脳神経外科学会第71回学術総会(ランチョンセミナー), 10月, 2012, 大阪.
 38. 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 友永真人, 稲岡正裕, 南 朋子, 北村哲宏, 大月道夫, 下村伊一郎, 齋藤洋一: 腰椎圧迫骨折を契機に診断されたクッシング病患者におけるテリパラチドの治療経験. 第13回 日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2012, 大阪.
 39. 大月道夫, 齋藤洋一, 笠山宗正, 有田憲生, 岡本新悟, 佐藤文三: オクトレオチドLAR治療が先端巨大症患者のQOLに与える影響. 第8回 アクロメガリーフォーラム, 10月, 2012, 大阪.
 40. 森田真也, 藤本康介, 出口令子, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 三木俊治, 佐藤文三, 大月道夫, 齋藤洋一, 笠山宗正: オクトレオチドにより長期間管理中の先端巨大症患者の2例. 第8回 アクロメガリーフォーラム, 10月, 2012, 大阪.
 41. 笠山宗正: 糖尿病性神経障害の診療のコツ. 第15回 池田糖尿病勉強会, 10月, 2012, 大阪.
 42. 笠山宗正: 病態とステージにあわせた糖尿病治療薬の選び方. 中央区糖尿病情報交換会, 10月, 2012, 大阪.
 43. 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真也, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 竹本雅子, 中川雅史: 鉄芽球性貧血に糖尿病を合併した1例. 第49回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.
 44. 森田真也, 平井孝一, 藤本康介, 出口令子, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: インスリンからビルダグリプチンへの変更が有効であった抗インスリン抗体高値糖尿病の1例. 第49回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.
 45. 角南ちえ子, 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真也, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: インスリンからリラグルチドへ切替後メトホルミンでコントロールし得た2型糖尿病の1例. 第49回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.
 46. Sumitani S, Morita S, Utsu Y, Deguchi R, Fujimoto K, Koseto M, Miki S, Sato B, Nakamura H, Kasayama S: Is an initial treatment with metformin and lifestyle interventions effective and safe for long terms in Japanese patients with newly diagnosed type 2 diabetes mellitus? 9th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress, 4th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes, 11月, 2012, Kyoto.
 47. 藤本康介, 南 誠剛, 緒方嘉隆, 仲谷健史, 竹内美子, 濱口眞成, 木庭太郎, 山本 傑, 小牟田清: 肺癌終末期診療における‘心肺蘇生処置をしないこと’ (Do-not-resuscitate) への同意確認の背景と影響. 第53回 日本肺癌学会総会, 11月, 2012, 岡山.
 48. 笠山宗正: 糖尿病神経障害の診断と治療-最近の動向. 第9回 中之島フットケアフォーラム, 11月, 2012, 大阪.
 49. 豊田新一郎: 経過中に混合型自己免疫性溶血性貧血(AIHA)を発症し, その治療中に免疫性血小板減少性紫斑病(ITP)を発症した全身性エリテマトーデス(SLE)の1例. 病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2012, 大阪.
 50. 藤本康介, 山元麻生, 出口令子, 宇都佳彦, 森田真也, 鈴木真優美, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 小瀬戸昌博: 大量の好酸球性胸水を伴ったChurg-Strauss症候群の1例. 第199回 日本内科学会近畿地方会, 12月, 2012, 大阪.
 51. 山元麻生, 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真

也, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正 : 治療に難渋した純粋型自律神経不全症の一例. 第199回 日本内科学会近畿地方会, 12月, 2012, 大阪.

血液・化学療法内科

1. 石河 純 : JAK2V617F変異を確認した真性多血症の1例. 日生クリニカルカンファレンス, 11月, 2012.
2. 石河 純 : 成人T細胞性白血病/リンパ腫 Adult T-cell leukemia/lymphoma (ATLL) の診断と治療. 日生updateセミナー, 6月, 2012.
3. 石河 純, 川上 学, 中川雅史 : レナリドミド投与後, シクロホスファミド大量療法にて幹細胞動員不良であったが, シタラビン大量療法にて十分な末梢血幹細胞を採取し得た多発性骨髄腫の1例. 第97回 近畿血液学地方会, 6月, 2012, 京都.
4. Jun Isiko : BCR-ABL-Induced Down regulation of GADD45G in Chronic Myeloid Leukemia, 2013 Highlights of ASH® in Asia, 3月, 2013, 上海.
5. 石河 純 : Switch from Bortezomib to Lenalidomide ~When and How to Decide? MM-MRD研究会, 3月, 2013, 大阪.
6. 川上 学, 石河 純, 中川雅史 : 単一施設における初発多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植. 第35回 日本造血細胞移植学会, 3月, 2013, 金沢.
7. Takae Kohara, Hirohiko Shibayama, Masashi Nakagawa : Evaluation of efficacy and safety of Bendamustine (B) treatment in Osaka Lymphoma Study Group (OLSG). 第74回 日本血液学会, 10月, 2012, 京都.
8. Kouji Hashimoto, Hirohiko Shibayama, Masashi Nakagawa : Efficacy and safety of L-AMB as empirical antifungal therapy in FN of hematological diseases. 第74回 日本血液学会, 10月, 2012, 京都.
9. Toru Kida, Satoru Kosugi, Masashi Nakagawa : Results of starting dose/schedule modification of bortezomib in long-term treated multiple myeloma. 第74回 日本血液学会, 10月, 2012, 京都.
10. 佐藤和明 : 消化管悪性リンパ腫の精査中に肺腫瘍性病変を指摘された症例. 内科合同カンファ・救急症例検討会, 7月, 2012.
11. 石河 純 : 日生病院における発性骨髄腫に対するBortezomib使用例の検討. 内科合同カンファ・救急症例検討会, 3月, 2013.

神経科・精神科

1. 江川 功 : てんかん患者の運転免許. 病院精神科医・産業医メンタルケア研究会, 6月, 2012, 大阪.
2. 江川 功 : 当院におけるミルタザピンの使用経験. 9月, 2012, 大阪.
3. 江川 功 : 多発性骨髄腫の加療中にRLSとうつ病が発症した1例. 精神科フォーラム, 10月, 2012, 大阪.
4. 高橋 励 : 双極II型障害に対する非定型抗精神病薬の効果について. 北摂医療安全講習会, 3月, 2012, 大阪.
5. 高橋 励 : 抗うつ薬エス=シタロプラムの臨床的特徴 - 自験例25例の分析. 吉富製薬社内講演会, 7月, 2012, 大阪.
6. 高橋 励 : 難治性精神疾患に対する抗てんかん薬Levetiracetamの効果と神経ネットワークモデルの提唱. UCBジャパン・大塚製薬合同社内講演会, 8月, 2012, 大阪.
7. 高橋 励 : 講義と演習「コミュニケーション」他. 済生会野江病院緩和ケア講習会, 9月, 2012, 大阪.
8. 高橋 励 : 講義と演習「コミュニケーション」他. 日生病院緩和ケア講習会, 10月, 2012, 大阪.
9. 高橋 励 : 双極I型・II型障害に対する抗うつ薬の使用. 大阪精神科フォーラム, 10月, 2012, 大阪.
10. 高橋 励 : 非定型抗精神病薬Aripiprazoleの適応外使用について. ABILIFYフォーラム, 12月, 2012, 大阪.
11. 木藤友実子 : 認知症を理解する. 認知症等高齢者支援地域連携事業, 3月, 2013, 大阪.

消化器・一般外科

1. 佐藤和明, 森田哲史, 吉良俊彦, 黄 泰平, 出口令子, 藤川正博 : 結核性腹膜炎を契機に診断治療した上行結腸癌の1例. 第590回 大阪外科集談会, 11月, 2012年, 大阪.
2. 黄 泰平, 藤川正博, 森田哲史, 吉良俊彦 : 子宮内膜症に起因した鼠径ヘルニア(鼠径部子宮内膜症)術後に合併した子宮円索断裂腹腔内出血の1例. 第74回 日本臨床外科学会総会, 11月, 2012, 東京.

乳腺外科

1. 西田幸弘, 橘高信義, 塩見真由, 松浦三月, 酒井希代子, 大畠千春 : 進行再発乳癌に対するエリブリンメシル酸塩(ERI)の有効性と安全性の検討. 日本乳癌学会学術総会(20), 6月, 2012, 熊本.

2. 西田幸弘, 富永修盛, 増田慎三, 鶴谷純司, 佐藤太郎, 川上尚人, 岡本 勇, 森本 卓, 山口正秀, 松並展輝, 新井貴士, 坂本純一, 中山貴寛, 中川和彦: アンスラまたはタキサン耐性のHER2陽性乳癌に対するCPT-11+trastuzumab併用療法におけるfeasibility trial. 日本乳癌学会学術総会 (20), 6月, 2012, 熊本.
 3. 西田幸弘, 橘高信義, 塩見真由: Medroxyprogesterone Acetate (MPA) が長期有効であった乳癌肝転移の1例. 乳癌最新情報カンファレンス (13), 8月, 2012, 福岡.
 4. 西田幸弘, 橘高信義: 生命保険会社営業所における営業員・顧客に対する講演による乳癌検診啓蒙活動. ～生命保険会社だから出来ること～. 日本乳癌検診学会総会 (22), 11月, 2012, 宜野湾.
 5. 西田幸弘, 橘高信義: 再発再燃を繰り返しエリブリン使用した1例. 第2回 乳がんコンセンサスフォーラム, 3月, 2012, 大阪.
 6. 西田幸弘: Life threateningな転移を来たした閉経前Lum A乳癌の1治療例. The 6th Kinki Breast Cancer Frontier Meeting, 5月, 2012, 大阪.
 7. 西田幸弘: 乳がんのサブタイプ別治療方針. 外来講師研修, 5月, 2012, 大阪.
 8. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ～もっと知っておきたい, 乳がんのこと～ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 カスタマーサービス推進室, 2月, 2012, 大阪.
 9. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ～もっと知っておきたい, 乳がんのこと～ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 沼津支社, 7月, 2012, 沼津.
 10. 橘高信義, 西田幸弘, 塩見真由, 松浦三月: 当院におけるMDCT画像による乳癌術前症例の腋窩リンパ節転移診断に関する検討. 日本乳癌学会学術総会 (20), 6月, 2012, 熊本.
 11. 橘高信義, 西田幸弘: 乳癌の薬物療法～ 内分泌療法を中心に ～ 日生病院合同ケモ・カンファレンス, 7月, 2012, 大阪.
 12. 塩見真由, 橘高信義, 西田幸弘: Lapatinib+Capecitabine療法にて減量後も継続治療により奏功の得られた2例. 日本乳癌学会学術総会 (20), 6月, 2012, 熊本.
 13. 塩見真由, 橘高信義, 西田幸弘: 胸部打撲により発見された乳腺紡錘細胞癌の1例. 乳癌最新情報カンファレンス (13), 8月, 2012, 福岡.
 14. 松浦三月, 湯阪久美子, 吉村恵利子, 村上粋子, 西田幸弘: FEC療法による血管障害が及ぼす日常生活への影響の調査. 日本乳癌学会学術総会 (20), 6月, 2012, 熊本.
 15. 酒井希代子, 松浦三月, 大島千春, 橘高信義, 西田幸弘: 術後化学療法を中断した乳がん患者への関わり～チーム医療の観点から, 今後の課題を考える～. 大阪乳がんチーム医療講演会, 2012.
- 整形外科**
1. 吉田博一, 友永真人, 三木宏真, 稲岡正裕: 消化管間質腫瘍 (Gastrointestinal Stromal Tumore) の骨転移による大腿骨頸部病的骨折の1例. 第118回 中部整形外科災害外科学会, 4月, 2012, 大阪.
 2. 川本匡規: 学童期に発症したMRSAによる化膿性肘関節炎の一例. 第118回 中部整形外科災害外科学会, 4月, 2012, 大阪.
 3. 友永真人: LUBACによるNuclear Factor-kappa B活性化は骨肉腫細胞の肺転移を促進する. 第14回 なにわ骨代謝・骨腫瘍研究会, 8月, 2012, 大阪.
 4. 稲岡正裕, 三木宏真, 糸原朋信, 友永真人, 川本匡規: 支援学校教職員の腰痛の現状-10年間の比較-. 第20回 日本腰痛学会, 11月, 2012, 神戸.
 5. 川本匡規: 浅大腿動脈損傷を合併した足背動脈触知可能な大腿骨骨幹部骨折の一例. 第40回 救急医学会総会, 11月, 2012年, 京都.
- 皮膚科**
1. 林 美沙, 平野亜由子, 中川幸延, 東山眞里: 隆起性皮膚線維肉腫の1例. 第200回 大阪皮膚科症例検討会, 3月, 2012, 大阪.
 2. 東山眞里: 大阪地区における多施設での尋常性乾癬・関節症性乾癬におけるアダリムマブの安全性・有効性の検討. 第3回 大阪乾癬バイオフォーラム, 3月, 2012, 大阪.
 3. 東山眞里: 乾癬治療選択update. 第8回 皮膚免疫疾患研究会, 4月, 2012, 大阪.
 4. 東山眞里: 乾癬治療選択update. 西神, 明石地区乾癬講演会, 4月, 2012, 神戸.
 5. 林 美沙, 平野亜由子, 遠山知子, 中川幸延, 東山眞里, 森田真也, 笠山宗正: アダリムマブ投与中に肺感染症を合併した尋常性乾癬の4例. 第28回 日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 4月, 2012, 福岡.
 6. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山眞里: 高

齢者の鼠径部に生じた巨大有棘細胞癌. 第201回大阪症例検討会, 5月, 2012, 大阪.

7. 岡田みどり, 中野真由子, 山岡俊文, 清原英司, 荒瀬規子, 横見明典, 種村 篤, 片山一郎, 岩崎哲也, 宮崎昌典, 薬師神宗行: 十二指腸転移をきたしたメルケル細胞癌の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会, 6月, 2012, 札幌.
8. 東山眞里: 注意を要する薬疹: C型慢性肝炎治療を考える会, 6月, 2012, 大阪.
9. 東山眞里: 病診連携からみた乾癬治療 - 生物学的製剤も含めて. 乾癬治療病診連携の会, 6月, 2012, 奈良.
10. 林 美沙, 平野亜由子, 岡田みどり, 東山眞里: アダリムマブ投与中に肺感染症を合併した尋常性乾癬の4例. 第105回近畿集談会, 6月, 2012年, 京都.
11. 東山眞里, 岡田みどり, 林 美沙, 平野亜由子: 生物製剤が奏効した乾癬性紅皮症. 第27回 日本乾癬学会, 9月, 新潟.
12. 辻 成佳, 濱田雅之, 東山眞里, 平野亜由子, 林美沙, 岡田みどり, 稲岡正裕, 富田哲也, 吉川秀樹: 乾癬性関節炎に対するアダリムマブの52週での有効性と安全性の検討. 第27回 日本乾癬学会, 9月, 新潟.
13. 東山眞里: インフリキシマブが奏効した乾癬性ぶどう膜炎の2例. 第22回 日本脊椎関節炎学会, 9月, 2012, 大阪.
14. 東山眞里: 尋常性乾癬の症状と治療選択. 第22回 日本脊椎関節炎学会スポンサードシンポジウム, 9月, 2012, 大阪.
15. 東山眞里: 乾癬に合併する疾患 - メタボリック症候群・ブドウ膜炎. 第76回 日本皮膚科学会東部支部学術大会 ランチョンセミナー, 9月, 2012, 札幌.
16. 東山眞里: 卒後29年を経て女性皮膚科医師に伝えたいこと. 第63回 日本皮膚科学会中部支部学術大会皮膚科の女性医師を考える会, 10月, 2012, 大阪.
17. 東山眞里: 乾癬の患者さんはメタボに注意を! 大阪乾癬患者会友の会学習会, 11月, 2012.
18. 林 美沙: ヘルペスにご注意・医療講演. 第11回 日生病院皮膚の日の催し, 11月, 2012.
19. 東山眞里: 注意を要する薬疹. 大阪府病院薬剤師会講演会, 第360回 診療所例会, 11月, 2012, 大阪.
20. 東山眞里: 抗がん剤の皮膚副作用対策 - 現状と治療~皮膚副作用のケアで困った症例ありませか~. 第4回 がん薬物療法アーベント, 12月, 2012, 大阪.

21. 岡田みどり, 林 美沙, 高橋玲子, 東山眞里: 最近1年間で当院で経験した高齢者の帯状疱疹. 第434回 大阪地方会, 12月, 2012年, 大阪.

泌尿器科

1. 花房隆範, 金宮健翁, 福本 亮, 福井辰成, 黒田昌男: 前立腺癌に対する間歇的内分泌療法における休薬期間延長症例の検討. 第100回 日本泌尿器科学会総会, 4月, 2012, 横浜.
2. 花房隆範, 福本 亮, 福井辰成, 黒田昌男: T1膀胱癌に対するsecond TURの検討. 第62回 日本泌尿器科学会中部総会, 11月, 2012, 富山.
3. 福本 亮, 花房隆範, 福井辰成, 黒田昌男: 去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセルを用いた化学療法の治療効果の検討. 第62回 日本泌尿器科学会中部総会, 11月, 2012, 富山.

産婦人科

1. 佐伯典厚, 安政啓吾, 黄 泰平, 大嶋正人, 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 船渡孝郎: 産婦人科腹腔鏡手術で癒着剥離の際に憩室穿孔が原因で術中腸管損傷が発症した1例. 第12回 近畿産婦人科内視鏡手術研究会, 2月, 2012, 大阪.
2. 尾上昌世, 大塚博文, 吉見佳奈, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: GnRHα治療後に急性腹症を発症し敗血症に至った子宮筋腫内膿瘍の1例. 第64回 日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2012, 神戸.
3. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 大きな子宮に対する全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)の検討. 第64回 日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2012, 神戸.
4. 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下子宮筋腫核出術に対する自己血輸血についての検討. 第64回 日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2012, 神戸.
5. 橋本奈美子, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下における子宮筋腫核出術の妊娠・分娩に対する影響について. 第64回 日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2012, 神戸.
6. 佐伯典厚: 子宮筋腫の手術療法 - 腹腔鏡下子宮

- 筋腫核出術 (LM) の占める位置. 第1回 ニッセイ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2012, 大阪.
7. 橋本奈美子: 子宮内膜症の手術および術後再発予防. 第1回 ニッセイ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2012, 大阪.
 8. 大塚博文: TLH (Total Laparoscopic Hysterectomy): 良性疾患から体癌へ. 第1回ニッセイ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2012, 大阪.
 9. 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 広靱帯内筋腫を腹腔鏡下に核出した経験. 第52回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2012, 札幌.
 10. 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 卵巣原発印環細胞癌と考えられた1例. 第52回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2012, 札幌.
 11. 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 大きな子宮に対する全腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) の検討. 第52回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2012, 札幌.
 12. 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 大きな頸部筋腫に対して全腹腔鏡下子宮全摘 (TLH) を施行した症例. 第35回 日本産婦人科手術学会, 9月, 2012, 京都.
 13. 橋本奈美子, 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 尾上昌世, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) における尿管損傷~0%維持をめざして. 第35回 日本産婦人科手術学会, 9月, 2012, 京都.
 14. 尾上昌世, 橋本奈美子, 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 卵巣原発印環細胞癌と考えられた1例. 第32回 大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス, 7月, 2012, 大阪.
 15. 祝小百合, 尾上昌世, 橋本奈美子, 大塚博文, 小玉美智子, 吉見佳奈, 羽田野悠子, 高山敬範, 佐伯典厚, 船渡孝郎: OHVIRA症候群に対し膈中隔切除を施行した1例. 第33回 大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス, 11月, 2012, 大阪.
 16. 尾上昌世, 吉見佳奈: 結紮・縫合未経験からの出発~TLHまでの道のり. 第2回 ニッセイ産婦人科内視鏡研究会, 10月, 2012, 大阪.
 17. 佐伯典厚: ~総論~ 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定取得をめざして. 第2回 ニッセイ産婦人科内視鏡研究会, 10月, 2012, 大阪.
 18. 大塚博文: 安全にTLHを行うために. 第2回ニッセイ産婦人科内視鏡研究会, 10月, 2012, 大阪.
 19. 橋本奈美子: 子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防に関する検討. 第6回 子宮内膜症セミナー, 12月, 2012, 大阪.
 20. 船渡孝郎: シンポジウム “低侵襲外科治療の現況-勤労者医療における意義-” 産婦人科. 第60回 日本職業・災害医学会学術大会, 12月, 2012, 大阪.
- ### 眼科
1. 島袋幹子, 瀬口道秀: ウイルスキットが診断に有用であった角膜移植後感染性角膜炎の1例. 第1回 大阪西部眼科病診連携の会, 5月, 2012, 大阪.
 2. 島袋幹子: 白内障手術におけるクリニカルパス. 第8回 クリニカルパス大会 6月, 2012, 大阪.
- ### 耳鼻咽喉科
1. 細野研二, 赤羽 誉, 谷口由希子, 今泉宏哲: -当科における既存院内LANを用いた画像共有化の工夫-. 第320回 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 3月, 大阪.
 1. 赤羽 誉, 細野研二, 今泉哲宏, 岡安 唯: 当科における気管傍郭清術. 畝傍カンファレンス, 4月, 2012, 橿原.
 2. 岡安 唯, 西村忠己, 山下哲範, 松井淑恵, 下倉良太, 柳井修一, 細井裕司, 柳井修一: -シスプラチンを用いた化学放射線療法が骨導超音波聴力に与える影響-. 第113回 日本耳鼻咽喉科学会総会学術講演会, 5月, 新潟.
 3. 赤羽 誉: 耳鼻咽喉科領域の感染症. 第39回RST勉強会 (大阪市中央区医会), 5月, 2012, 大阪.
 4. 細野研二, 赤羽 誉, 今泉宏哲, 岡安 唯, 谷口由希子: -当科における記録画像活用化の工夫-. 第74回 耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会, 7月, 東京.
 5. Tadao Okayasu, Tadashi Nishimura, Akinori Yamashita, Yuka Uratani, Hiroshi Hosoi, Tadao Okayasu, Seiji Nakagawa: National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST) “Mismatch fields elicited by prosodic change of speech-modulated bone-conducted ultrasound. 18th International conference on

Biomagnetism, 8月, 2012, フランス, パリ.

6. 岡安 唯: -脳磁図を用いた骨導超音波聴覚の研究-. 第1回 大阪ENT講演会, 10月, 2012, 大阪.
7. 岡安 唯, 中川誠司, 西村忠己, 山下哲範, 吉田悠加, 長谷芳樹, 細井裕司: 刺激の周波数構造が聴覚野の時間積分に与える影響について. 第57回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 10月, 京都.
8. 岡安 唯: 脳磁図を用いた骨導超音波の研究について. 第19回 青磁会, 10月, 2012, 大阪.
9. 成尾一彦, 山中敏彰, 細井裕司, 岡安 唯, 尾崎大輔: 長期入院を要した下降性壊死性縦隔炎の1症例. 第323回 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 12月, 2012, 大阪

放射線科

【国際学会】

1. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Mitani T: Local progression following the lipiodol-based targeted chemoembolization of hepatocellular carcinoma: a retrospective comparison of miriplatin and epirubicin. APCCVIR, 5/30-6/2, 2012, 神戸.
2. Iwazawa J, Hashimoto N, Ohue S, Mitani T: Initial safety and outcomes of miriplatin plus low-dose epirubicin for transarterial chemoembolization of unresectable hepatocellular carcinoma. ILCA Berlin, 9月, 2012, ドイツ.
3. Iwazawa J, Hashimoto N, Ohue S, Mitani T: Survival after C-arm computed tomography-assisted chemoembolization of unresectable hepatocellular carcinoma. ILCA, 9月, 2012, ドイツ, ベルリン.

【国内学会】

1. 岩澤 仁, 大上庄一, 橋本尚子, 三谷 尚: 造影CBCTとfusion imagingによる肝RFA治療効果判定の初期経験. 第31回 日本画像医学会, 2月, 2012, 東京.
2. 橋本尚子, 岩澤 仁, 三谷 尚, 大上庄一: HCCに対するTACEにおけるミリプラチン単独とミリプラチン+エピルビシン併用の局所再発率に関する比較検討. 第48回 日本医学放射線学会秋季臨床大会, 9月, 2012, 長崎.
3. 三谷 尚: 320列CT導入の紹介-その特長と有用性について-. 第13回 あわぎフォーラム, 9月, 2012, 大阪.

麻酔・緩和医療科

1. 川原玲子, 小山佐知子, 奥野聡子: 漢方薬を用いた緩和医療への取り組み. 大阪西緩和ケアカンファレンス, 1月, 2012, 大阪.
2. 清水梨江, 玉井 裕, 山崎恭子, 花田留美, 奥野聡子, 川原玲子: 単孔式腹腔鏡手術の術後鎮痛における超音波ガイド下腹横筋膜面ブロックと腹直筋鞘ブロックの臨床的検討. 第1回 大阪麻酔セミナー, 1月, 2012, 大阪.
3. 川原玲子, 林 行雄, 森隆比古, 真下 節: 「麻酔総合研修システム in OSAKA」による麻酔専門医育成のための卒後教育への取り組み. 第59回日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2012, 神戸.
4. 奥野聡子, 清水梨江, 玉井 裕, 山崎恭子, 花田留美, 川原玲子: 膝関節置換術後疼痛管理におけるPatient Controlled Analgesia (PCA) を用いた持続大腿神経ブロックの効果の検討. 第59回 日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2012, 神戸.
5. 清水梨江, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 単孔式腹腔鏡手術 (SILS) の術後鎮痛における超音波ガイド下腹横筋膜面ブロックと腹直筋鞘ブロックの臨床的検討. 第59回 日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2012, 神戸.
6. 山本実加, 小山佐知子, 花田留美, 川原玲子: Patient Controlled Analgesia (PCA) 間歇投与を頻回に行う症例の疼痛管理. 第17回 日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2012, 神戸.
7. 小山佐知子, 丸山加奈, 森真由子, 川原玲子, 寺川直樹: 描画を用いてコミュニケーションをはかった舌癌の1症例. 第17回 日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2012, 神戸.
8. 川原玲子, 奥野聡子, 花田留美: 六君子湯の食欲亢進作用の検討. 第63回 日本東洋医学会学術総会, 6月, 2012, 京都.
9. 麦田盛穂, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 婦人科単孔式腹腔鏡手術の術後回復力強化における超音波ガイド下ブロックの効果の検討. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
10. 三木和美, 加藤千尋, 花田留美, 川原玲子: 癌性腹膜炎に対しKM-CART療法を施行した3症例. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
11. 川原玲子, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美: 超音波ガイド下腹横筋膜面ブロックの婦人科腹腔鏡手

術の術後動作時痛に対する効果の検討. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.

12. 花田留美, 山崎恭子, 奥野聡子, 川原玲子: 否認に対してオランザピンが有効であった一例. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
13. Moriho Mugita, Ryoko Kawahara, Yutaka Tamai, Kyoko Yamasaki, Satoko Okuno, Rumi Hanada, Masahiro Inaoka, Takao Funato: The effects of ultrasound-guided transversus abdominis plane (TAP) block and rectus sheath (RS) block for pain control and recovery after gynecologic transumbilical single incision laparoscopic surgery (SILS). International Association for the study of pain 14th World Congress on Pain, 8月, 2012, イタリア, ミラノ.
14. Ryoko Kawahara, Rumi Hanada, Satoko Okuno, Kyoko Yamasaki, Yutaka Tamai, Ikuko Honsyo, Rie Shimizu: Effects of rikkunshito, a traditional Japanese medicine, on the recovery of food intake after surgical stress. OESO 11th World Conference, 9月, 2012, イタリア, コモ.
15. 小山佐知子, 森真由子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子, 寺川直樹: 緩和ケア患者の口腔内疼痛に対する立効散の効果. 第24回 日本疼痛漢方研究会学術集会, 8月, 2012, 東京.
16. 本庄郁子, 清水梨江, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 術前にiv-PCAを必要とした腫瘍患者の周術期疼痛管理. 日本麻酔科学会第58回 関西支部学術集会, 9月, 2012, 大阪.
17. Rie Shimizu, Ryoko Kawahara, Yutaka Tamai, Kyoko Yamasaki, Satoko Okuno, Rumi Hanada, Takao Funato: The combination of ultrasound-guided rectus sheath (RS) and transversus abdominis plane (TAP) blocks is superior to the RS or TAP block alone for pain control after gynecologic transumbilical single incision laparoscopic surgery. Anesthesiology, 10月, 2012, アメリカ, ワシントン.
18. 川原玲子: 慢性疼痛のマネジメント - 新規薬剤を中心に -. 此花区医師会講演会, 10月, 2012, 大阪.
19. 丸山加奈, 小山佐知子, 森真由子, 川原玲子, 寺川直樹: 描画を用いてコミュニケーションをはかった舌癌の1症例. 大阪がん緩和ネット研究会, 12月, 2012, 大阪.

糖尿病センター

1. 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲: 2型糖尿病患者に対するカーボカウントを用いた食事指導の有用性. 第15回 日本病態栄養学会年次学術集会, 1月, 2012, 京都.
2. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
3. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
4. 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島弘顕, 吉田博一, 稲岡正裕, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病神経障害は人工関節置換術 (Total knee arthroplasty: TKA) 後早期の機能回復に影響を及ぼす. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
5. 角南ちえ子: 糖尿病診療におけるメディカルパートナーの役割. 糖尿病のトータルケアを目指して, 7月, 2012, 大阪.
6. 角南ちえ子: 当院の糖尿病治療における看護師の役割. 第5回 糖尿病ライフセミナー, 7月, 2012, 大阪.
7. 角南ちえ子, 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真也, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: インスリンからリラグルチドへ切替後メトホルミンでコントロールし得た2型糖尿病の一例. 第49回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2012, 京都.

予防医学センター

1. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 未治療2型糖尿病患者に合併した非アルコール性肝疾患 (NAFLD) に対する生活習慣介入と高用量メト

- ホルミンの有効性. 第109回 日本内科学会講演会, 4月, 2012, 京都.
2. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミンの有効性-HbA1c低下作用とインスリン感受性との関連について-. 第85回 日本内分泌学会学術総会, 4月, 2012, 名古屋.
 3. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
 4. 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周志, 鈴木真優美, 佐藤文三, 中村秀次: ヘモグロビン濃度とインスリン抵抗性との関連について. 第53回 日本人間ドック学会学術大会, 9月, 2012, 東京.
 5. 篠田和子, 大黒慶子, 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周志, 鈴木真優美, 佐藤文三, 中村秀次: 高輝度膵 (bright pancreas) に関連する因子の検討. 第53回 日本人間ドック学会学術大会, 9月, 2012, 東京.
 6. Sumitani S, Morita S, Yoshihiko Utsu, Reiko Deguchi, Kosuke Fujimoto, Masahiro Koseto, Shunji Miki, Bunzo Satyo, Hideji Nakamura, Soji Kasayama: Is an initial treatment with metformin and lifestyle interventions effective and safe for long terms in Japanese patients with newly diabetes mellitus? Joint meeting of 9th IDF-WPR and 4th AASD, 11月, 2012, 京都.
 7. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 湯川雅彦: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioは肝予備能の指標となる. 肝臓 53, Suppl. (1), A269, 第48回 日本肝臓学会総会, 6月, 2012, 金沢.
 8. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 三上高司, 湯川雅彦: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioと血清Albumin値との関連性の解析. 肝臓 53, Suppl. (2), A711, 第16回 日本肝臓学会大会 (JDDW2012), 10月, 2012, 神戸.

中央臨床検査部

1. 古川浩司: ペースメーカーのリード線と類似した, 偽腱索の1例. 第52回 日臨技関西支部医学検査学会, 9月, 2012, 和歌山.

2. 三木和美, 加藤千尋, 花田留美, 川原玲子: 癌性腹膜炎に対しKM-CART療法を施行した3症例. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
3. 山本慶子, 住谷 哲, 森田真也, 水口洋一, 浅野彰彦, 中村秀次, 笠山宗正: 平均血小板容積 (MPV) に影響する因子に関する検討. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.

看護部

1. 松浦三月: FEC療法による血管障害が及ぼす日常生活への影響の調査. 第20回 日本乳癌学会学術集会, 6月, 2012, 熊本.
2. 山本実加, 小山佐知子, 花田留美, 川原玲子: Patient Controlled Analgesia (PCA) 間歇投与を頻回に行う症例の疼痛管理. 第17回 緩和医療学会, 6月, 2012, 兵庫.
3. 小山佐知子: 緩和ケア患者の口腔内疼痛に対する立効散の効果. 第25回 日本疼痛漢方研究会学術集会, 8月, 2012, 東京.
4. 大室安以: 感染症を発症したターミナル期患者の看護 ~患者の思いに添った感染看護に関わって~ シンポジウム. 第12回 日本看護感染学会学術集会, 7月, 2012, 大阪.
5. 松田由布子, 川端千里, 蜂谷由佳, 西部早央里, 大藤弘美, 岩本真澄: 化学療法により倦怠感がある患者に対するホットアイマスクの効果. 第43回 日本看護学会 看護総合, 8月, 2012, 静岡.
6. 大西まゆり, 林 理恵, 古塘里美, 澤山 曜, 三好由紀子, 阿部恭子: 臨地実習時の学生の指導場面における担当看護師の意識. 第43回 日本看護学会 看護総合, 8月, 2012, 静岡.
7. 伊藤絵梨香, 飯堂千晶, 近明日美, 白須沙織, 松山理恵, 門林聡美, 下井孝子, 田畑文子: 心臓カテーテル検査および冠動脈形成術を受ける患者の緊張緩和に対する取り組み ~患者選択によるアロマセラピーの有効性~. 第43回 日本看護学会 成人看護 I, 9月, 2012, 宮城.
8. 大島千春, 高熊俊恵, 中島さゆり, 鈴木八枝子: 術後せん妄を発症した患者家族の関わりと意思の変化 ~家族へ術後せん妄についての教育を実施して~. 第43回 日本看護学会 老年看護, 9月, 2012, 広島.
9. 酒井希代子: 終末期患者へのアロマセラピー~緩和ケアチームと協働して~ワークショップ. 第15回

日本アロマセラピー学会学術総会, 9月, 2012, 京都.

10. 山下利子: 皮膚科スペシャリストナース講習会 乾癬患者の看護. 第111回 日本皮膚科学会総会, 9月, 2012, 京都.

薬剤部

1. 野村浩英, 森真由子, 宮麻紀子, 牧 秀美, 平田貴宏, 松田敦子, 吉岡 亮, 乾有希子, 池田久雄, 畑中勝義: がん化学療法レジメンオーダシステム運用方法の検討. 第22回 日本医療薬学会, 10月, 2012, 新潟.
2. 平田貴宏, 池田久雄, 森真由子, 吉岡 亮, 野村浩英, 畑中勝義: 経口投与困難な卵巣癌化学療法施行患者に漢方坐薬2剤を長期投与した症例. 第22回日本医療薬学会, 10月, 2012, 新潟.
3. 池田久雄, 平田貴宏, 野村浩英, 瀧川奈央, 浅野彰彦, 大野典子, 新井幸子, 角田道久, 畑中勝義: 日生病院における届出対象抗菌薬の長期使用の状況とICTの介入状況. 第22回 日本医療薬学会, 10月, 2012, 新潟.

リハビリテーション室

1. 片岡宏一郎: 日生病院理学療法士の糖尿病チーム医療への取り組み. 大阪医専チーム医療症例演習発表会, 2月, 2012, 大阪.
2. 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島弘顕, 吉田博一, 稲岡正裕, 森田信也, 笠山宗正: 糖尿病神経障害は人工膝関節置換術(Total knee arthroplasty: TKA)後早期の機能回復に影響を及ぼす. 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
3. 麦田盛穂, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 婦人科単孔式腹腔鏡手術の術後回復強化における超音波ガイド下ブロックの効果の検討. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 7月, 2012, 松江.
4. M. Mugita, R. Kawahara, R. Shimizu, Y. Tamai, Y. Tamai, K. Yamasaki, S. Okuno, R. Hanada, M. Inaoka, T. Funato: The effects of ultrasound-guided transversus abdominis plane (TAP) block

and rectus sheath (RS) block for pain control and recovery after gynecologic transumbilical single incision laparoscopic surgery (SILS). IASP, 8月, 2012, イタリア, ミラノ.

栄養管理室

1. 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲: 2型糖尿病患者に対するカーボカウントを用いた食事指導の有用性. 第15回 日本病態栄養学会年次学術集会, 1月, 2012, 京都.
2. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.
3. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study: 第2報). 第55回 日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2012, 横浜.

診療情報管理室

1. 宮本浩樹: ODBCインターフェイスによるMED-ARROWSのデータ活用. DPC分析事例発表会, 2月, 2012, 名古屋.
2. 宮本浩樹: クリニカルパスへの支援 - 診療情報分析システムで分かる日生病院の小さな真実 -. 日生病院院内パス大会, 6月, 2012, 大阪.
3. 宮本浩樹: ARROWSベンチマークシステムを利用したクリニカルパスへの支援. DPC分析事例発表会, 9月, 2012, 大阪.
4. 津野百合香, 宮本浩樹, 久保郁美, 小田 弓, 清藤真由美, 山本真佐美, 向井康祐, 花房隆範: 遅滞ない退院サマリー作成を目指して, 第14回 フォーラム「医療の改善活動」全国大会, 10月, 2012, 沖縄.

第5章 諸活動

診療科別教育

部(科)名	教育・研修項目		部(科)名	教育・研修項目	
循環器内科・ 神経内科	・新入院患者紹介 ・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (週1回) (月1回) (年1回)	泌尿器科	・症例検討会 ・抄読会	(週1回) (週1～2回)
消化器内科	・症例検討会 ・内視鏡カンファレンス ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (月2回) (月2回) (月1回) (年1回)	産婦人科	・症例検討会 ・抄読会 ・ケアカンファレンス・モーニングカンファレンス ・レントゲンカンファレンス周産期カンファレンス ・ニッセイ内視鏡研究会 ・ニッセイ病診連携懇話会	(週1回) (週1回) (週1回) (年1回) (年1回)
総合内科	・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・糖尿病ケアカンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週各1回) (月1回) (月1回) (月1回) (年1回)	眼科	・外来勉強会 ・病棟勉強会 ・西区病診連携の会 ・日生・住友病院合同勉強会	(2～3ヶ月に1回) (年1～2回) (年1回) (年2回)
血液・化学療法内科	・症例検討会 ・抄読会 ・血液標本検討会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (月2回) (月2回) (月1回) (年1回)	耳鼻咽喉科	・術前カンファレンス ・西区病診連携の会 ・勉強会	(週1回) (年2回) (年数回)
救急診療科	・救急カンファレンス	週1回	放射線科	・日生病院外科カンファレンス	(週1回)
神経科・精神科	・心理検査勉強会 ・症例検討会	(月1回) (随時)	麻酔・緩和医療科	・ペイン症例検討会 ・麻酔症例検討会 ・緩和ケアカンファレンス	(週1回) (週1回) (月2回)
小児科	・勉強会 ・入院症例検討会 ・小児科外来勉強会 ・周産期カンファレンス ・新生児管理カンファレンス	(週1回程度) (平日) (年数回) (週1回) (月1回)	病理診断科	・スライドカンファレンス ・症例検討会(抄読会) ・CPC ・日本病理学会近畿支部 学術集会	(週1回) (週1回) (月1回) (年4回)
消化器・一般外科 乳腺外科	・症例検討会 ・乳腺外科ケアカンファレンス ・手術統計 ・死亡症例検討会 ・学会報告 ・CPC ・NST勉強会 ・抄読会	(週1回) (月1回) (年1回) (年1回) (随時) (随時)	臨床研修部	・抄読会	月1回
整形外科	・抄読会 ・手術症例検討会 ・リハビリ検討会 ・整形病棟勉強会 ・リサーチカンファ、及び学会報告会	(週1回) (週1回) (月2回) (年2～3回) (年数回)	予防医学センター	・予防医学センター勉強会 ・あわざ産業医セミナー	(月2回) (年1回)
リハビリ	・抄読会 ・リハビリ検討会 ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・医療技能職勉強会	(週1回) (月2回) (月1回) (年1回)	薬剤部	・新薬説明会 ・薬剤部研修会 ・ファーマシティカルケア研修会 ・部内有害事象検討会	(週1回) (月1回) (月2回) (年3回)
皮膚科	・症例検討会 ・抄読会 ・3病院合同症例検討会 (日生・住友・大阪厚生年金病院) 大阪西、中部地区皮膚科症例検討会	(週1回) (月3回) (月1回) (年1回)	医療技能部	・医療技能職勉強会	(年1回)
			中央臨床検査部	・中検勉強会 ・医療技能職勉強会	(月1～2回) (年1回)
			あつたかさサポート センター	・患者支援カンファレンス	(週1回)
			医療福祉相談G	・緩和ケアカンファレンス ・医療福祉施設MSW研修 ・医療技能職勉強会	(月2回) (年5回) (年1回)
			栄養管理室	・厨房内ミーティング及教育 ・栄養士勉強会 ・献立勉強会 ・栄養管理室ミーティング ・糖尿病QOL向上勉強会 ・大阪病院給食研究会	(毎日) (月1回) (月1回) (月1回) (年4回) (月1回)
			診療情報管理室	・診療情報管理室勉強会	(年数回)
			医事G	・健保改正勉強会	(年1回)

C P C (平成24年)

- 01月26日：腹部大動脈瘤（総合内科）
- 02月10日：成人T細胞白血病（血液・化学療法内科）
- 02月24日：成人T細胞白血病（血液・化学療法内科）
- 03月09日：慢性骨髄性白血病、急性肺炎（血液・化学療法内科）
- 05月11日：間質性肺炎（循環器・神経内科）
- 05月18日：胃癌＋腎癌術後（泌尿器科・消化器内科）
- 06月08日：C型肝硬変＋肝細胞癌（消化器内科）
- 06月15日：原発性胆汁性肝硬変＋脊椎椎間板炎（総合内科）
- 07月13日：肺炎＋肺気腫＋前立腺癌（総合内科）
- 07月20日：MDS＋肺炎＋DIC（血液・化学療法内科）
- 08月10日：C型肝硬変（消化器内科）
- 09月14日：胃癌術後＋敗血症性ショック（循環器・神経内科）
- 09月28日：多臓器不全＋DIC（総合内科）
- 10月12日：敗血症＋直腸癌＋皮膚筋炎＋両側腎細胞癌（総合内科）
- 10月26日：肺炎＋慢性心房細動＋心不全（循環器・神経内科）
- 11月16日：胃癌術後（消化器・一般外科）
- 11月30日：膵癌＋転移性肝癌＋腹膜播種、間質性肺炎（消化器内科）
- 12月21日：右胸水貯留＋肺炎＋胸膜炎疑い（総合内科）

「日医生涯教育講座カリキュラム」(平成24年)

産婦人科

月日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月4日(木)	9時00分～ 16時00分	手術室	低侵襲手術	船渡 孝郎 (産婦人科)

乳腺外科

月日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月1日(月)	13時15分～ 16時00分	手術室	センチネルリンパ節生検 (乳房温存手術)	西田 幸弘 (乳腺外科)

放射線科

月日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月11日(木)	13時15分～ 16時00分	放射線科	肝動脈塞栓術等 IVR	三谷 尚 (放射線科)

外科(テーマ: 消化器外科手術)

月日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)	
第1日	10月7日(火) 10月14日(火) 10月21日(火) 10月28日(火)	14時～16時	手術室	手術室見学	藤川 正博 (外科)

「ニッセイ医学セミナーUpdate」(平成24年)

開催月日	テ ー マ	講 師	
1月6日	・肝細胞癌に対する化学塞栓療法の現況と 当院での経験	放射線科	岩澤 仁
2月3日	・緩和医療における漢方をはじめとする 薬物療法	麻酔・緩和医療科	奥野 聡子
3月2日	・パーキンソン病と神経変性疾患	循環器内科神経内科	仁科 拓也
4月6日	・C型慢性肝炎の最新の治療法と近未来	消化器内科部長 兼予防医学センター長	中村 秀次
5月11日	・関節リウマチ治療の現状について	総合内科担当部長	小瀬戸 昌博
6月1日	・成人T細胞性白血病/リンパ腫の診断と治療	血液・化学療法内科	石河 純
7月13日	・びまん性肺疾患の臨床 -間質性肺炎を中心に-	予防医学センター	鈴木 真優美
8月3日	・320列CTの特長と有用性について	放射線科部長 放射線科技師	三谷 尚 長澤 浩造
9月7日	・認知症の精神行動障害	精神科神経科	木藤 友実子
10月5日	・痙攣の実際、その対応法	小児科	植田 仁
11月2日	・新しい手洗いウォーターレス法と 正しい手袋の選択	消化器・一般外科	黄 泰平

「ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー」(平成24年)

開催月日	テ ー マ	講 師	
1月13日	・人工呼吸器の使い方	麻酔・緩和医療科	花田 留美
3月7日	・知っておきたいインスリンの基本	総合内科	森田 真也
4月27日	・救急患者の放射線診断と読影のポイント	放射線科	岩澤 仁
5月18日	・知っておきたい輸液、栄養管理の基本	消化器・一般外科	黄 泰平

1 年目研修医 オリエンテーション

月 日	講義内容	講師
4月2日(月)	研修医の就業規則、健康診断、その他	職員サービス部
	プログラムの説明など	臨床研修部長
4月3日(火)	電子カルテ基本操作	情報システム室
	ローテーション決定、その他	臨床研修部 三木部長
4月4日(水)	医療安全管理体制と安全管理の技術	看護部 東郷副看護部長
	感染防止	感染症看護専門看護師 大野
	防犯・防災	看護部
4月5日(木)	ローテーション科で研修開始	各診療科
	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療情報管理室
	レセプト、医療費など	医事G
4月6日(金)	採血、尿検査、チーブ管理等	看護部
	抗生物質	薬剤部
4月9日(月)～10日(火)	看護部と一泊研修	
4月11日(水)	院長説示	寺川院長
	注射、点滴、ポンプ等	看護部
4月12日(木)	カテーテル、吸引・吸入等	看護部
	麻薬	薬剤部
4月13日(金)	日勤看護研修	看護部
4月14日(土)～15日(日)	夜勤看護研修	看護部
4月16日(月)	ローテーション科で研修	各診療科
	薬剤処方	薬剤部
	放射線科オーダー・その他	放射線科
	栄養指導	栄養管理室
4月17日(火)	ローテーション科での研修	各診療科
	病診連携	医療連携G
	医療生活相談室の利用について	医療福祉相談G
	リハビリ依頼について	リハビリテーション室
4月18日(水)	ローテーション科での研修	各診療科
	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査室
4月19日(木)	ローテーション科での研修	各診療科
	生理機能検査、心エコーの基礎	中央臨床検査室
4月20日(金)	ローテーション科での研修	各診療科
	腹部超音波検査など	中央臨床検査室
4月23日(月)	ローテーション科での研修	各診療科
	細菌検査、病理検査室	中央臨床検査室
4月24日(火)	ローテーション科での研修	各診療科
4月25日(水)	外科基本手技	外科
	嚥下機能評価と誤嚥	NST、消化器・一般外科 黄医師

平成24年度 看護部継続教育実施状況（院内）

研修会名	年 月	内 容	参加者数
新人	4月2日、3日、4日	オリエンテーション	19名
	4月5日(木)	記録・与薬の研修	19名
	4月9日、10日(火)	宿泊研修	19名
	4月6、11、12日(木)	基礎看護技術演習	19名
	4月12日(木)	部署別オリエンテーション	19名
	4月16日～18日(水)	シャドウ研修	19名
	4月20日(金)	防災訓練	19名
	5月9日(水)	業務計画立案 看護必要度 インスリン療法など	19名
	6月6日(水)	救急看護 栄養 ローテーション研修の説明など	19名
	7月4日(水)	輸血の看護 人工呼吸器装着中の看護など	19名
	7月～8月	ローテート研修	19名
	9月19日(水)	がん看護、ストレスマネジメントなど	18名
	10月10日(水)	看護診断①	17名
	12月5日(水)	医療安全、薬剤、褥瘡予防、MSWの	16名
	1月30日(水)	看護診断②	16名
3月21日(木)	1年の振り返り発表	16名	
レベルⅠ ステップ1	5月16日(水)	メンバーシップの役割について	13名
	7月18日(水)	がん看護2 緩和ケアとは	12名
	9月14日(金)	慢性期看護	12名
	11月7日(水)	急性期看護	13名
	1月25日(水)	自己の看護の振り返り	12名
レベルⅠ ステップ2	4月25日(水)	看護研究の役割	16名
	6月20日(水)	リーダーシップについて	16名
	9月5日(水)	がん看護3	16名
	1月23日(水)	看護過程の展開と事例発表会	15名
	2月20日(水)	プリセプターシップ	16名
	3月6日(水)	1年間の振り返り発表	14名
レベルⅡ	5月15日(火)	研究とは	21名
	6月19日(火)	分析方法	20名
	10月17日(水)	メンタルケア	18名
	11月14日(水)	ストレスマネジメント	18名

研修会名	年月	内容	参加者数
臨地実習指導者	7月25日(水)	看護教育課程 実地指導の原理と役割	21名
	8月22日(水)	若者気質・学生の関わりかた・効果的な指導 事例	21名
	12月12日(水)	指導者観の発表	21名
実地指導者 (プリセプター)	3月8日(木)	プリセプターシップとは	22名
	6月13日(水)	指導者に必要なスキルとは	18名
	10月3日(水)	新人教育に関する中間報告会	19名
	2月27日(水)	プリセプターシップでの学び発表	18名
糖尿病看護	5月9日(水)	糖尿病について	30名
	7月11日(水)	看護の実際 フットケア	36名
	10月10日(水)	セルフケア支援	31名
退院支援	7月20日(金)	他院での退院支援の実際	14名
	9月26日(水)	当院における退院支援の現状	14名
	12月19日(水)	在宅看護の現状と退院調整の必要性	13名
事例検討会	6月27日(水)	オリエンテーション	15名
	8月29日(水)	小児の点滴シーネ固定による皮膚トラブル 長期のVAC療法を受ける患者との関わり	16名
	10月24日(水)	口唇口蓋裂と胎児診断された母親の看護 足底に巨大胼胝のある患者の糖尿病療養指導	15名
	12月26日(水)	舌癌の手術を受けられた患者の看護 挿管困難時に使用されるデバイスについて	17名
	2月6日(水)	無菌室入室中の患者の看護 深部静脈血栓症の患者の看護	17名
看護管理	6月15日(金)	昇格者研修	3名
	8月21日(火)	看護管理職のストレスマネジメント	31名
	12月21日(金)	伝える力、プレゼンテーション力を鍛える	25名
	3月19日(火)	新人支援体制の現状報告	26名
看護助手	8月6日(月)	再興感染症・今流行している感染症・WHO手指衛生ガイドライン	19名
	1月21日(月)	患者移送の介助方法	13名
	2月25日(月)	食事援助の介助方法	12名
	3月18日(月)	清潔援助の介助方法	13名

平成24年度 看護部継続教育実施状況（院外）

研修会名	年月	内 容	参加者数
成人看護 (大阪府看護協会)	平成24年4月	摂食・嚥下障害のある患者看護の基礎と 実際を学ぶ①	3
安全 (大阪府看護協会)	平成24年5月	看護管理者のためのリスクマネジメント	2
共通 (大阪府看護協会)	平成24年5月	一般病棟におけるクリニカルケア	2
安全 (大阪府看護協会)	平成24年5月	コーチングコミュニケーション	2
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年6月	新人看護職員教育担当者研修①	2
小児 (大阪府看護協会)	平成24年6月	新生児医療と看護	4
成人 (大阪府看護協会)	平成24年6月	これからの褥瘡看護	1
衛星通信対応研修 (大阪府看護協会)	平成24年6月	災害医療と看護(基礎編)	3
安全 (大阪府看護協会)	平成24年6月～7月	医療安全管理者研修	1
新人 (大阪府看護協会)	平成24年7月	実地指導者のためのインジェクション研修①	1
感染 (大阪府看護協会)	平成24年7月	組織で取り組む感染管理①	1
共通 (大阪府看護協会)	平成24年7月	フィジカルアセスメントの基礎知識(講義)	2
成人 (大阪府看護協会)	平成24年7月	運動機能回復へ援助①	1
成人 (大阪府看護協会)	平成24年7月	運動機能回復へ援助②	1
共通 (大阪府看護協会)	平成24年8月	フィジカルアセスメントの基礎知識(講義)	2
成人 (大阪府看護協会)	平成24年8月	医療安全管理者フォローアップ研修	2
研究 (大阪府看護協会)	平成24年8月	統計の使い方	2
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年8月	臨地実習指導者①	1
成人 (大阪府看護協会)	平成24年8月	摂食・嚥下障害のある患者看護の基礎と 実際を学ぶ②	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年8月	実地指導者のためのインジェクション研修	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年8月	実地指導者のための吸引技術研修①	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年8月	人材育成とコミュニケーション	1
感染 (大阪府看護協会)	平成24年9月	組織で取り組む感染管理②	1
がん (大阪府看護協会)	平成24年9月	がん化学療法を受ける患者の看護	1
災害 (大阪府看護協会)	平成24年10月	災害看護における初期医療支援活動①	3
母性 (大阪府看護協会)	平成24年10月	母乳育児支援	1
災害 (大阪府看護協会)	平成24年11月	災害看護における初期医療支援活動②	1

研修会名	年月	内 容	参加者数
管理 (大阪府看護協会)	平成24年11月	看護管理者に必要な労務管理のノウハウを身につける	1
がん (大阪府看護協会)	平成24年11月	がん患者の家族のケア	1
がん (大阪府看護協会)	平成24年11月	女性がんとリンパ浮腫	1
安全 (大阪府看護協会)	平成24年11月	医療安全の基本と医療事故防止行動②	2
インターネット 配信研修	平成24年11月	インターネット配信研修「働き続けられる職場作り～看護労働のシフトワークの改善～」	3
母性 (大阪府看護協会)	平成24年12月	プレゼンテーション	1
母性 (大阪府看護協会)	平成24年12月	ハイリスク妊婦の診断・検査と不妊看護	1
災害 (大阪府看護協会)	平成24年12月	災害看護における初期医療支援活動③	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成24年12月	実地指導者研修	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年1月	リーダーシップ②	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年1月	実地指導者のための吸引技術研修①	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年2月	新人看護職員教育担当者研修②	2
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年2月	実地指導者のためのインジェクション研修②	1
老年 (大阪府看護協会)	平成25年2月	高齢者の理解と認知症の看護	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年2月	実地指導者のためのインジェクション研修②	1
指導者 (大阪府看護協会)	平成25年2月	新人看護職員教育担当者研修②	2
看護研究 (大阪府看護協会)	平成25年2月	クリティーク	1
老年看護Ⅰ (大阪府看護協会)	平成25年2月	高齢者の理解と認知症の看護③	1
共通 (大阪府看護協会)	平成25年2月	看護記録(実践編)	1
看護研修トピックス (大阪府看護協会)	平成25年2月	看護学校におけるコミュニケーションに困難にある学習支援のための研修	1

看護部 長期及びその他の研修

主 催	日 程	研 修 会 名	参 加 者
大阪府看護協会	8/2～10/18	認定看護管理者制度セカンドレベル	八尾 みゆき
大阪府	9/19～11/6	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	松山 理恵
大阪府看護協会	11/12～23 12/10～21 1/8～24	認定看護管理者制度サードレベル	町田 恵子

講演会・研修会(平成24年)

第6回TQM大会【別館講堂にて】

1月24日 人材育成研究所 立川 義博

輸血療法委員会講演会(輸血療法委員会主催)【別館講堂にて】

1月26日 演題「輸液製剤の安全対策について」

大阪府赤十字センター

副所長 平山 文也

第2回 ニッセイ看護研究会【別館講堂にて】

1月28日 演題 I 「当院における疼痛マネジメント」

がん性疼痛看護認定看護師 小山 佐知子

II 「Let's enjoy 糖尿病看護 part2～最近の動向と取り組み～」

糖尿病看護認定看護師 角南 ちえ子

III 「静脈カテーテルの管理から考える

医療機関における医療関連感染対策の基本」

感染症看護専門看護師 大野 典子

医療安全講習会(医療安全管理委員会主催)【別館講堂にて】

2月10日 演題 I 「医療機器安全管理マニュアルについて」

医療機器安全管理者 水口 洋一

II 「医用コンセント～アースって何?～」

臨床工学技士 加藤 千尋、三木 和美

III 「医薬品にかかわる医療事故 最近の話題」

医薬品安全管理者 野村 浩英

第6回 市民公開講座【ホテルモントレグラスミア大阪にて】

3月17日 講演「前立腺肥大症・前立腺がんの治療

～患者が治療法を選択すべき時代～」

副院長・泌尿器科部長・がん治療センター長

黒田 昌男

第5回 緩和ケア講演会【別館講堂にて】

4月5日 一般講演「口腔内疼痛におけるTJ-110立効散の効果」

がん性疼痛看護認定看護師 小山 佐知子

特別講演「臨床生薬学～生薬学の知識を医療現場で応用する～」

名古屋市立大学大学院薬学研究所生薬学分野

准教授 牧野 利明

第2回 糖尿病センター公開セミナー【別館講堂にて】

4月7日 糖尿病と心臓病

第I部「糖尿病と心疾患の関係

～症状の少ない狭心症の早期発見、治療について～」

循環器内科副部長 中川 厚

「糖尿病・心臓病におすすめるお食事は?」

栄養管理室 出口 暁子

「みんなでやってみよう!今すぐできる運動!」

リハビリテーション室 廣田 将史

第II部「アマチュア落語」

桂文喬主催落語研究会

第9回あわぞ産業医セミナー【リーガロイヤルホテルにて】

4月28日 テーマ「女性勤労者の健康診断とその事後措置」

講演 I 「女性勤労者に有用な健診の進め方」

総合健診クリニック ニッセイ予防医学センター 泉 由紀子

II 「産業医に必要な婦人科学的基礎知識」

産婦人科 橋本 奈美子

特別講演「女性健診に必須の内分泌学的知識—甲状腺を中心に—」

医療法人神甲会 隈病院 網野 信行

褥瘡対策講演会（褥瘡対策委員会主催）【別館講堂にて】

- 5月25日 演題 I 「当院の褥瘡発生率について」
皮膚科部長 東山 眞里
II 「医療用テープのはなし」
スリーエムヘルスケア株式会社
技術サービス部 矢野 美久

第12回 日生病院 I C L S コース【別館講堂にて】

6月10日

第8回 クリニカルパス大会（クリニカルパス委員会主催）【別館講堂にて】

6月21日 演題発表

ニッセイ産婦人科病診連携懇話会【ANAクラウンプラザホテルにて】

6月30日 特別講演

- I 「子宮内膜症の手術および術後再発予防」
産婦人科 橋本 奈美子
II 「子宮筋腫の手術療法
ーLM（腹腔鏡下子宮筋腫核手術）の占める位置ー」
産婦人科 担当部長 佐伯 典厚
III 「T L H（Total Laparoscopic Hysterectomy）：
良性疾患から体癌へ」
産婦人科 大塚 博文

院内感染対策 教育講演会（院内感染対策委員会主催）【別館講堂にて】

- 7月6日 演題 I 「感染対策は院内から地域へ？」
事務局次長 職員サービス部長 木下 幹朗
II 「最近の院内感染対策について」
中央臨床検査部長 浅野 彰彦

第13回 病診連携学術講演会（あわざフォーラム）【リーガロイヤルホテルにて】

- 9月8日 日生病院における診療機能強化の取り組み
I 「320列CT導入の紹介ーその特長と有用性についてー」
放射線科部長 三谷 尚
II 「当院における膠原病・リウマチ診療の取り組み」
総合内科担当部長 小瀬戸 昌博

特別講演

「糖尿病診療の「知」と「情」」
大阪医科大学
内科学I教授 花房 俊昭

医療安全講習会（医療安全管理委員会主催）【別館講堂にて】

- 9月28日 演題 「大震災の被災体験から学んだこと」
元 石巻市立病院
副看護部長 石母田 由美子

第3回 緩和ケア研修会【別館講堂にて】

10月6日、7日 P E A C Eに基づくがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

医療ガスの安全な取扱いに関する研修会（医療ガス安全管理委員会主催）【別館講堂にて】

- 10月25日 演題 I 「病院医療ガス設備の基礎と災害対策について」
エアウォーター防災株式会社
II 「医療用ガスの取り扱い方」
株式会社馬場酸素、岩谷産業株式会社

第2回 ニッセイ産婦人科内視鏡研究会【別館講堂にて】

- 10月27日
- I 腹腔鏡下手術器具説明
 - II 総論「日本産科婦人科内視鏡学会技術認定取得を目指して」
産婦人科 担当部長 佐伯 典厚
 - III 講演「結紮・縫合未経験からの出発～TLHまでの道のり～」
産婦人科 吉見 佳奈、尾上 昌世
「TLH手技 安全なTLHを行うために」
産婦人科 大塚 博文
 - IV ドライBOXでの結紮・縫合実習
 - V 結紮・縫合コンテスト

病診連携ニッセイ クリニカル カンファレンス【ホテルモントレグラスミア大阪にて】

- 11月10日
- オープンレクチャー
「降圧剤服薬アドヒアランス：合剤のメリットについて」
副院長 兼 循環器内科・神経内科部長 濱田 偉文
- 演題
- I 「当院で経験した咽頭痛の診断と治療」
救急診療科 田中 智
 - II 「経過中に混合性自己免疫性溶血性貧血（AIHA）を発症し、その治療中に免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）を発症した全身性エリテマトーデス（SLE）の一例」
総合内科 豊田 新一郎
 - III 「巨大腹部腫瘍の一例」
消化器内科 三上 高司
 - IV 「当院における静脈インターベンションの現在」
循環器内科・神経内科 高橋 秀明
 - V 「JAK2V617F変異が確認された真性多血症の一例」
血液・化学療法内科 石河 純
- ショートレクチャー
「消化器内視鏡におけるNBI（Narrow Band Imaging）の原理と実際」
消化器内視鏡センター長 湯川 雅彦

第3回 ニッセイ看護研究会【別館講堂にて】

- 11月10日
- 演題
- I 「糖尿病と共に生きる患者の行動変容を見守る」
糖尿病看護認定看護師 角南 ちえ子
 - II 「結核と診断された患者の看護と感染対策」
感染症看護専門看護師 大野 典子
 - III 「リンパ浮腫セラピストの活動報告
～リンパ浮腫ケア外来と緩和ケアチームとの連携～」
リンパ浮腫セラピスト 酒井 希代子

第13回 日生病院ICLSコース【別館講堂にて】

11月11日

院内感染対策 教育講演会（院内感染対策委員会主催）【別館講堂にて】

- 12月11日
- 演題
- I 「抗菌薬TDMガイドラインの発表をうけて」
薬剤部主査 池田 久雄
 - II 「衛生学的手洗いについて」
感染症看護 専門看護師 大野 典子

接遇研修会（看護部・日新会・教育委員会・職員サービス部主催）【別館講堂にて】

- 12月20日
- 演題「医療に携わるあなたと病院のための接遇とクレーム対応」
（株）ケーエスケー
営業支援部 黒岩 一起

平成24年 地 域 医 療

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	12月31日(月) 10:00～17:00	高橋 秀明	内科担当
	中央急病診療所	1月31日(火) 22:00～2:00	宇都 佳彦	内科担当
		8月12日(日) 17:00～22:00	山根 秀一	小児科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第3水曜日 13:30～	池原 千衣子	
3歳児健康診査 (内科)	西区保健福祉センター	第1水曜日 13:40～	池原 千衣子	1・3月度:医師増員のため、臨時出務
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	2月1日(水) 13:45～	谷口 由希子	
		7月4日(水) 13:45～	今泉 宏哲	
		12月5日(水) 13:45～	尾崎 大輔	
大阪西地域 産業保健センター 拡充センター 出務	西区民センター 第2会議室	2月18日(土) 13:30～15:30	三木 俊治	労働者からの健康相談
		12月20日(木) 17:30～19:30	藤川 正博	

敬称略

ボランティア

平成24年の活動

年 / 月	主 な 内 容
1 月	ボランティア協会活動時間集計報告（9月～12月）
2 月	ボランティア協会定例研修会参加（2/17）
3 月	交通費支給（1月～3月分）
4 月	ボランティア保険加入（年度更新）
5 月	ボランティア協会活動時間集計報告（1月～4月） 定例公演研修会（5/21）
6 月	茶話会（6/12） ホスピス緩和ケアボランティア研修会（6/28）
7 月	ボランティア協会定例研修会参加（7/28）
8 月	交通費支給（4月～7月分）
9 月	定例公演研修会（9/7） ボランティア協会活動時間集計報告（5月～8月）
10 月	日本病院ボランティア総会参加（10/27）
11 月	インフルエンザ予防接種（任意） 交通費支給（8月～10月分）
12 月	健康診断（任意）

当院がボランティアを導入して今年で11年が経過し、現在8名のボランティアの方が活動しています。活動内容は初診・再診手続きをはじめ、患者輸送（車椅子輸送）、診察・検査等場所の案内、移動図書本の管理をお願いしています。

近年、ボランティアを導入している他病院調査でもボランティアの高齢化が進み、存続が難しい状況になってきている。当院でもボランティアの年齢層が高く活動範囲が限られていること、勉強会や研修会参加者が少ないことなどから病院ボランティアの見直しが必要だと考えられます。

患者様に安心して受診頂けるようこれからも、患者様サービスの向上に努めたいと思います。

院内行事

定例行事

日生医学賞授賞式	10月18日
篤志解剖者慰霊祭	11月28日
消防訓練	7月19日、12月7日

各種イベント

看護フェアー	5月11日
ニッセイ夏休みこども医療体験	7月27日、8月3日
いい皮膚の日	11月12日
糖尿病フェアー	11月15日～11月16日
日生病院ミニコンサート	12月20日
糖尿病教室	火～金曜日
母乳外来	毎週／木曜日
マタニティービクス アフタービクス ベビービクス マタニティーヨガ	毎週／火曜日・木曜日
両親学級	毎週／土曜日
大阪乾癬患者友の会「梯の会」	学習会・定例総会勉強会 年／2回 患者懇談会 年／3回 会報発行 年／4回 幹事会 毎月
糖尿病患者友の会「錦会」	総会 年／1回 患者懇談会 随時

公益財団法人 日本生命済生会付属

日 生 病 院
第11巻 平成25年 6 月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院サービス・広報委員会

発 行 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

住 所 550-0012 大阪市西区立売堀 6 丁目 3 番 8 号

T E L 06 (6543) 3581 (代表)

<http://www.nissay-hp.or.jp>

